



PARAGON

Hard Disk Manager

VERSION 17

基本操作ガイド

目次

製品の概要	5
What's New	5
はじめに	5
製品を構成するコンポーネント	5
システム要件	5
製品のインストール	8
製品の起動	11
製品の使用方法	11
製品設定	16
設定	16
メール設定	17
通知の設定	18
リカバリーメディアビルダー	19
ログセーバー	20
製品について	20
システムとデータのバックアップ	21
バックアップの作成	21
除外設定	29
既存イメージの追加	31
イメージの整合性チェック	33
CD/DVD/BDへバックアップ	35
バックアップイメージの復元	40
ハードディスク・パーティションの復元	41
CD/DVD/BDまたはPBFからハードディスク・パーティションの復元	46
既存のイメージを指定して復元	52
ブートコレクターを使用して OS の起動に関する問題を修正	58
バックアップ結果をメールで通知する設定	65
パーティションとディスクの管理	68
パーティションの移動/サイズ変更	68
パーティションの作成	69
パーティションのフォーマット	71
パーティションの削除	73
ファイルシステムをチェック	75
ボリュームラベルの変更	76
ドライブ文字の変更	77
MBR/GPTディスクへ変換	78
ダイナミックディスクをベーシックMBRディスクへ変換	79
セクタの表示/編集	80
パーティションのファイルシステム変換	81

クラスタサイズの変更	82
MFTの最適化	83
MFTのデフラグ	84
ボリュームシリアルナンバーの変更	86
パーティションの表面テスト	87
パーティションの表示/非表示を変更	88
パーティションのアクティブ/非アクティブを変更	89
基本/論理パーティションへの変換(MBRディスクのみ)	90
ディスク/パーティションのプロパティ表示	91
VMwareから Hyper-Vへの仮想マシンの移行 (V2V)	92
トラブルシューティングとサポートリクエストの送信	98
製品のアンインストール	101
よくある質問と回答(FAQ)	102

製品の概要

Hard Disk Manager 17 は Paragon Software Group が開発し、世界各国で愛用されている Paragon Hard Disk Manager シリーズの日本語版です。Hard Disk Manager には、ハードディスク / パーティション、ファイル/フォルダーのバックアップ、各種パーティション操作、ディスク・パーティションの抹消、ディスクコピーなどのツールが用意されており、ハードディスクに必要なメンテナンスをシンプルな操作を通じて直感的に行なうことが可能になります。また、製品機能のリカバリーメディアビルダーを使用することで、ユーザー自身でカスタマイズした外部起動用の WindowsPE メディア (CD/DVD/USB メモリ) を簡単に作成できます。

i 製品を構成するメニュー・機能などの仕様は製品の改良のため予告なく変更する場合があります。本マニュアルとの差異が生じることもございますので、あらかじめご了承ください。

What's New

- [新しい復元操作 \(既存のイメージから復元 / pbf 形式のサポート\)](#)
- [バックアップイメージのインポート](#)
- [スケジュールバックアップ結果のメール通知](#)
- [イメージの整合性チェック / 除外オプション](#)
- [ブートコレクター](#)
- 抹消レポート機能の削除
- [CD/DVD/BD へのバックアップ](#)

はじめに

製品を構成するコンポーネント

- **Windows ベースのユーティリティセット**
お使いの Windows OS に Hard Disk Manager をインストールし、ハードディスク・パーティションのバックアップと復元、パーティション操作など製品に含まれている全ての操作を OS 上で実行することができます。
- **リカバリーメディアから実行するユーティリティセット**
製品機能のリカバリーメディアビルダーを使用することで Windows PE ベースの外部起動用のリカバリーメディア (CD/DVD/USB メモリ) を作成できます。障害により内蔵ハードディスクからシステムの起動が困難になった場合でも、予め作成した外部起動用のリカバリーメディアから起動することで、Windows ベースのユーティリティセットと同等の作業を行えます。また、起動の速い Linux ベースのリカバリーメディアのイメージもダウンロードできます。

システム要件

Paragon Hard Disk Manager 17 Professional

対応 Windows: (x86, x64 各日本語版共通)

- Windows 10 Home / Pro / Enterprise
- Windows 8.1 / Pro / Enterprise
- Windows 7 (sp1) Home / Professional / Enterprise / Ultimate

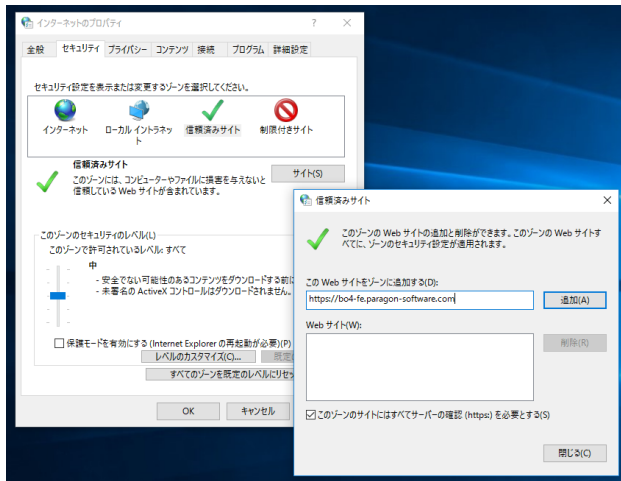
Paragon Hard Disk Manager 17 Server

対応 Windows: (x86, x64 各日本語版共通)

- Windows Server 2019 Standard / Essential / Datacenter
- Windows Server 2016 Standard / Essential / Datacenter
- Windows Server 2012 R2 Standard / Essential / Foundation / Datacenter
- Windows Server 2012 Standard / Essential / Foundation / Datacenter
- Windows 2008 R2 (SP1) Standard / Enterprise

共通事項

- Internet Explorer 10 またはそれ以降のバージョンのブラウザ
- ファイアウォール設定で、ポート 80, 443 が開放されていること(インバウンド・アウトバウンド)
- <https://bo4-fe.paragon-software.com> , <https://my.paragon-software.com> が「信頼済みサイト」に追加されていること、また「信頼済みサイト」のセキュリティレベルが「中高」またはそれ以下に設定されていること(「コントロールパネル」を「ネットワークとインターネット」→「インターネットオプション」の順にクリックして「インターネットプロパティ」を表示してください。「信頼済みサイト」へウェブサイトを追加するには、「セキュリティ」タブを開いて「信頼済みサイト」を選択し、「サイト(S)」をクリックして表示されるウィンドウにて上記 URL を「この Web サイトをゾーンに追加する(D):」欄に入力後、「追加(A)」をクリックする必要があります。「Web サイト(W)」欄に URL が追加されたことを確認した後は、「閉じる(C)」をクリックしてウィンドウを閉じてください)



i 製品のインストールには、一時ファイルも含め 1 GB 以上の空き領域が必要です。

リカバリーメディア

- Pentium 1GHz 以上の Intel®互換 CPU
- 1024MB 以上のメモリ
- 1024×768 (XGA)以上のモニタ
- キーボード・マウス

その他

- インターネット接続 (製品認証用)
- 起動可能な光学ドライブまたは USB メモリ。デバイス起動をサポートする CD/DVD/BD (Blu-ray Disc) 光学ドライブ、または 1GB 以上のサイズの USB メモリ

製品のインストール

製品をインストールする前に、[システム要件](#)をご確認ください。要件を満たしていることを確認した後、インストールを開始してください。

【重要】製品のインストール前および作業を開始する前には、必ず[ディスクのエラーチェック](#)と[デフラグ](#)を行ってください。



弊社製品の旧バージョンがインストールされている場合は、事前にアンインストールをお願いします。

Windows ベースのユーティリティ セットとして使用する場合には、本製品のインストールが必要となります。お使いの Windows に Paragon Hard Disk Manager 17 をインストールする場合、下記の手順を実行してください。

1. インストーラの起動

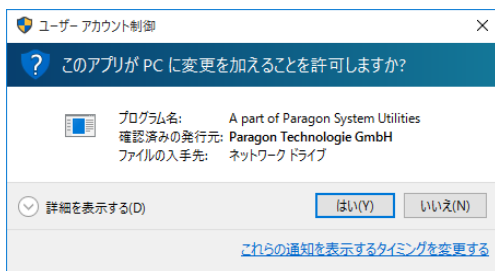
本製品は、32 ビット版プログラムと 64 ビット版プログラムの2種類が用意されています。お使いの Windows 環境に合わせたプログラムをインストールする必要がありますのでご注意ください。判別方法は、[FAQ の Q06「OS の 32 ビットと 64 ビットの判別はどのように行いますか」](#)をご参照ください。

製品 DVD をお使いのドライブに挿入すると、インストールランチャーが表示されます。

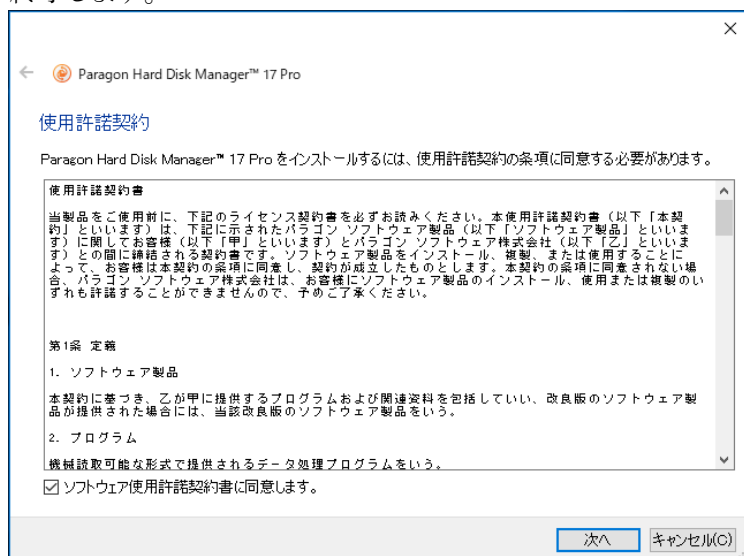
※ 自動再生のダイアログが表示された場合には、「EXPLAUNCHERの実行」をクリックして続行してください。



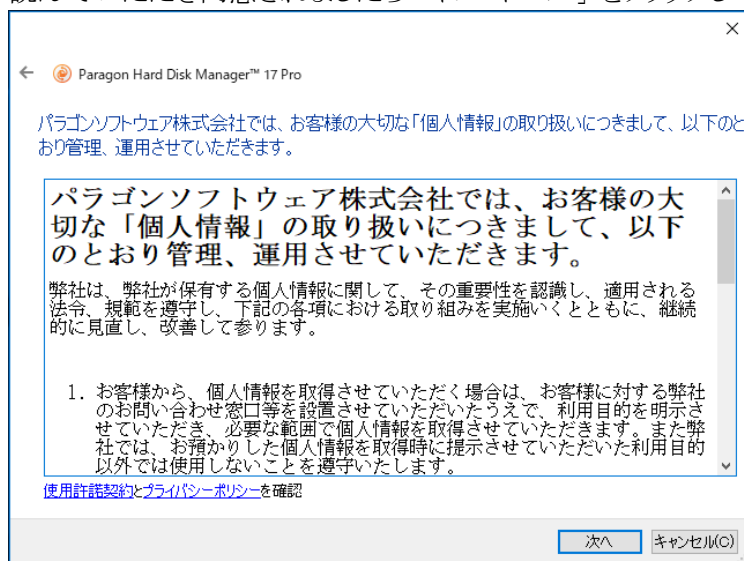
※ ユーザー アカウント制御 (UAC) ダイアログが表示される場合には、「はい」を選択してください。



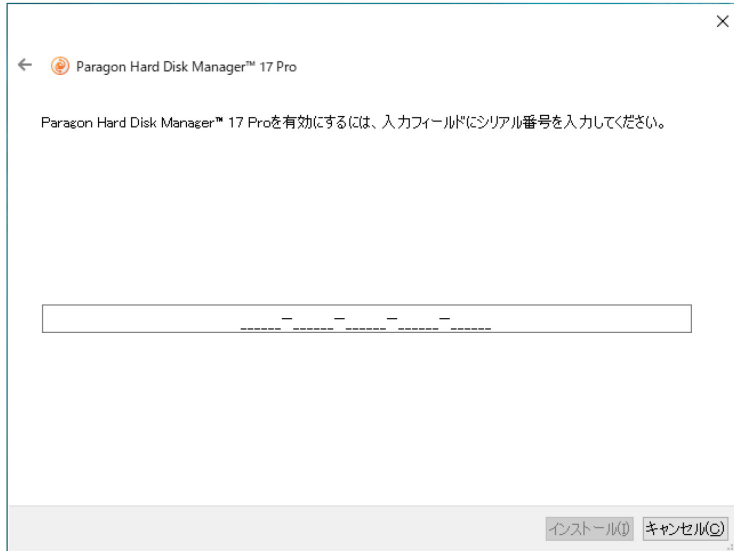
2. 「使用許諾契約」ページに、使用許諾契約書が表示されます。許諾内容を注意して読んでいただき、同意される場合には「ソフトウェア使用許諾契約書に同意します。」を選択して「次へ」をクリックします。記載されたいずれかの条件に同意されない場合には、ウィンドウ右上の「×」をクリックするとインストールを終了します。



3. 「プライバシーポリシー」ページに、個人情報の取り扱いについての記載が表示されますので、注意して読んでいただき同意されましたら「インストール」をクリックしてインストールを開始します。

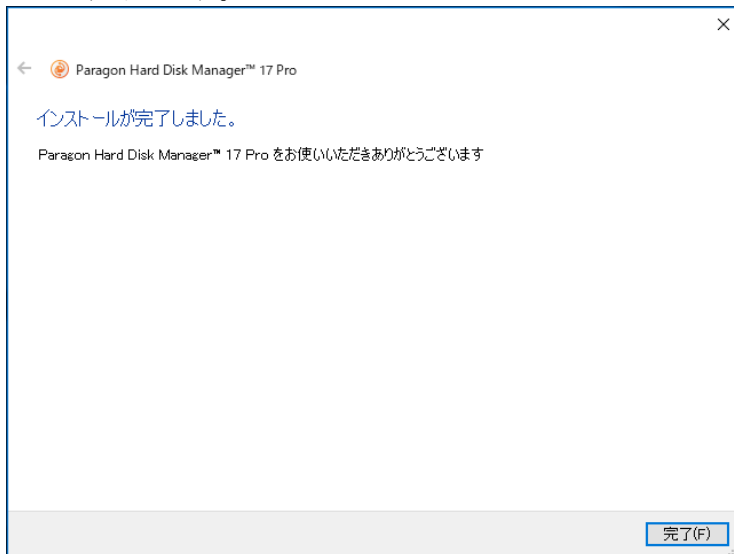


4. シリアルナンバーを所定欄に入力し、「インストール」をクリックします。



- ※ シリアルナンバーの入力時は似通った数字とローマ字、特に数字の「0」(ゼロ)とローマ字の「O」(オー)、「1」(イチ)と「I」(アイ)、「2」(ニ)と「Z」(ゼット)、「5」(ゴ)と「S」(エス)、「8」(ハチ)と「B」(ビー)にご注意ください。また、パッケージ版の場合シリアルナンバーが印刷されています「お客様控え」上では、数字の「0」(ゼロ)に斜線が入っていますのでご確認ください(ローマ字の『O』(オー)には斜線はありません)。

5. 正常にインストールが完了すると以下の画面が表示されますので、「完了」をクリックしてインストールウィザードを終了します。



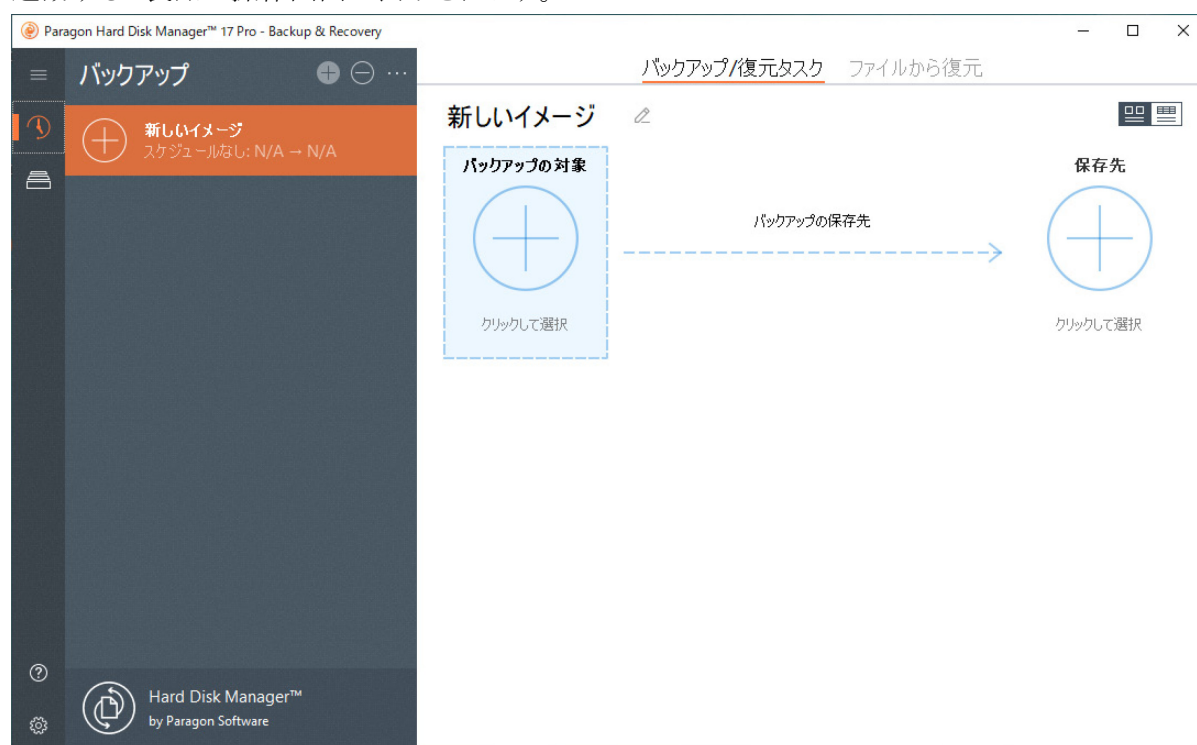
製品の起動

インストールが完了すると、Hard Disk Manager のショートカットアイコンがデスクトップに作成されます。製品を起動するには、このアイコンをダブルクリックします。



製品の使用方法

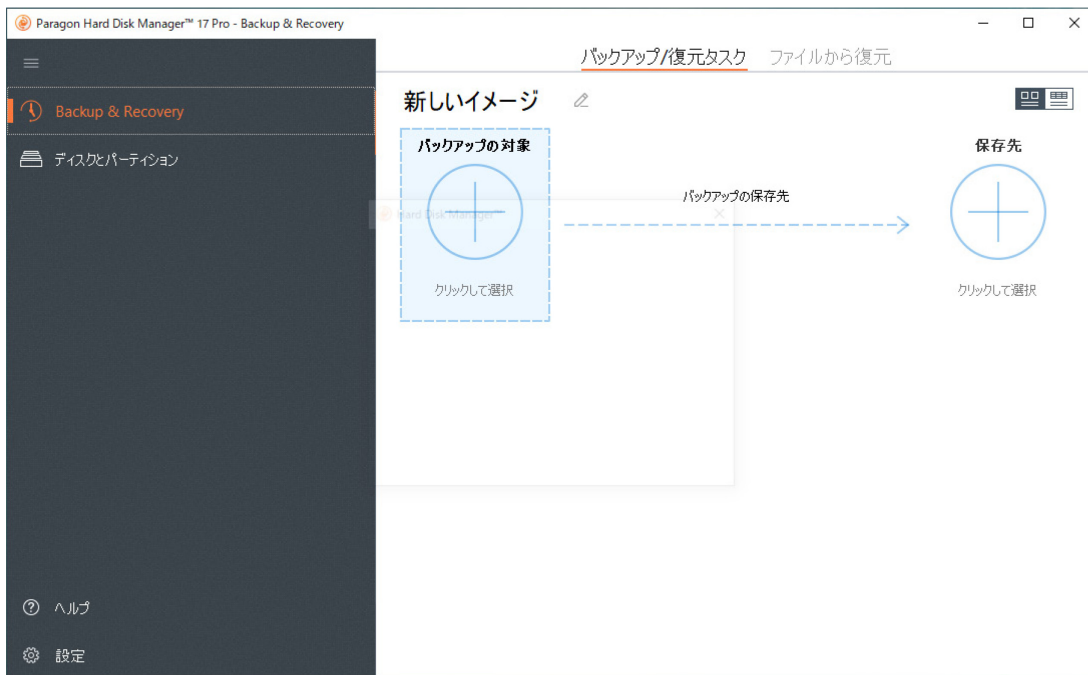
起動すると製品の操作画面が表示されます。



製品画面の左部には、[ナビゲーションパネルを表示](#)、[Backup & Recovery](#)、[ディスクとパーティション](#)、[ヘルプ](#)、および[設定](#)の 5 個のアイコンがあります。

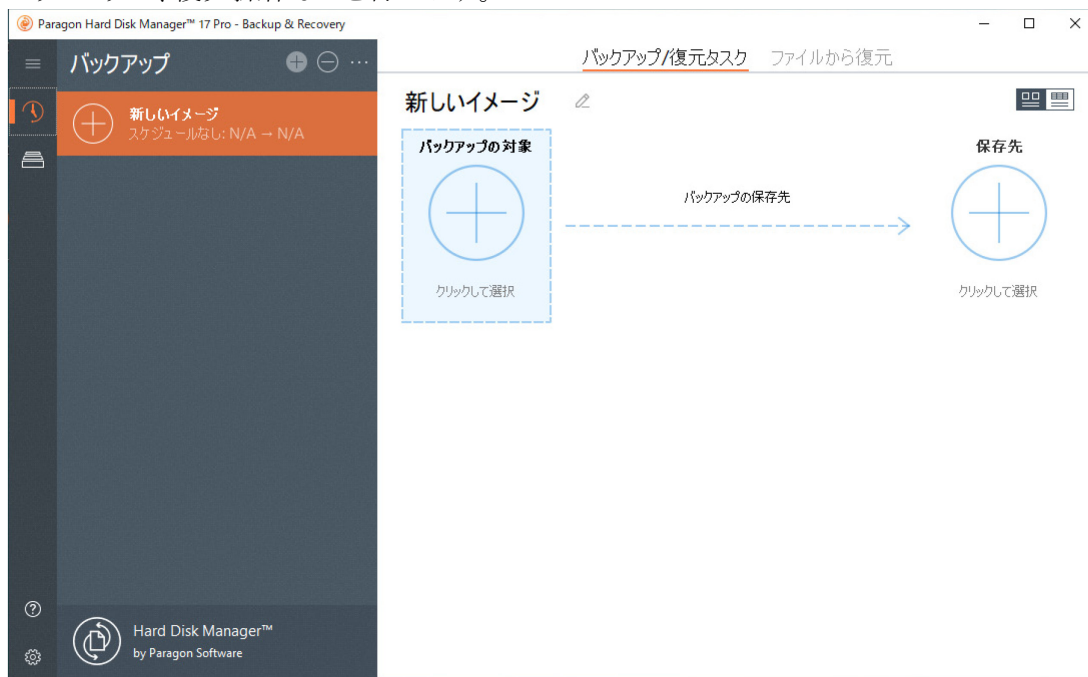
ナビゲーションパネルを表示

このアイコンは、左にある4つのアイコンの名前を表示します。



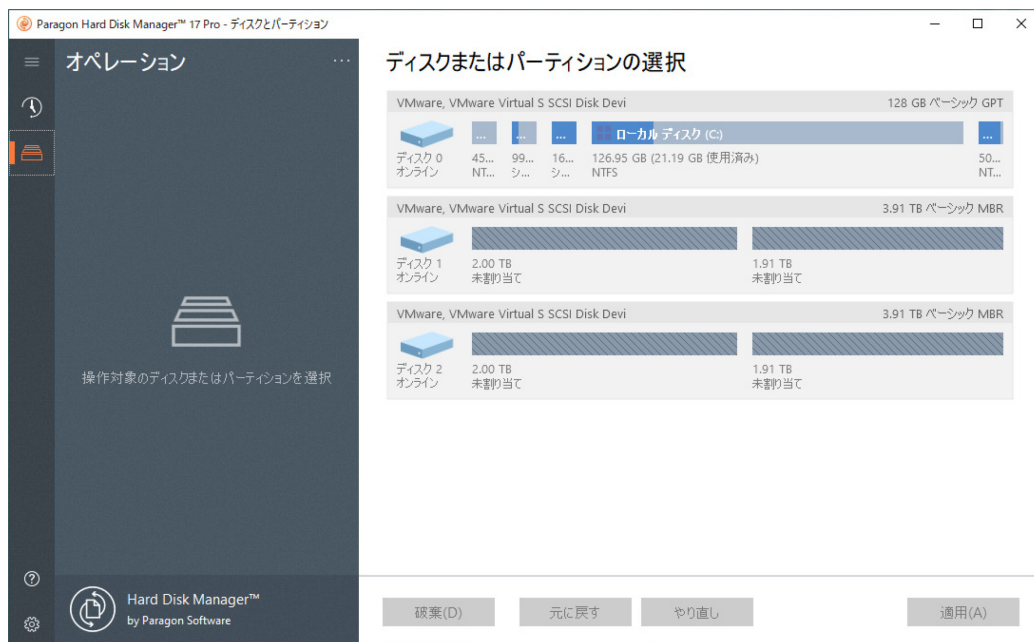
Backup & Recovery

バックアップ、復元操作などを行います。



ディスクとパーティション

この画面では、製品のウィザードがすべてまとめられています。「ツール」画面のように製品機能画面を切り替えることなく、目的のウィザードを直接開始できます。



ディスクマップ

ディスクマップでは、コンピューターに接続されているディスクの構成を表示します。この画面内では、ディスクを示すバーの中に、パーティションを示すバーが表示されます。

ディスクの情報として以下の内容が表示されます。

- 仮想または物理ディスク、ディスクの型番
- ディスクの形式(MBR または GPT)、およびディスクのサイズ

パーティションの情報として以下の内容が表示されます。

- ボリュームラベル
- パーティションのサイズ
- ファイルシステム

ディスクまたはパーティションをクリックすると、左側にオペレーションが表示されます。



また、パーティションのフォーマット・削除・復元などの操作で「キューに保存」した際には仮想操作バーが表示され、ユーザーが指定した操作はすぐには実行されず、各ボタンをクリックすることで保留中の操作が実行されます。この仮想操作バーは、画面下部に表示されます



- 「破棄」をクリックすると、保留中の操作が破棄されます。
- 「元に戻す」を選択すると、保留中の操作の内最後の操作をキャンセルします。
- 「やり直し」を選択すると、キャンセルした操作を再度登録します。
- 「操作を適用」をクリックすると、保留中の操作が実行されます。

実行前に保留中の操作内容を表示・閲覧できます。ディスクレイアウトは変更後を表示しています

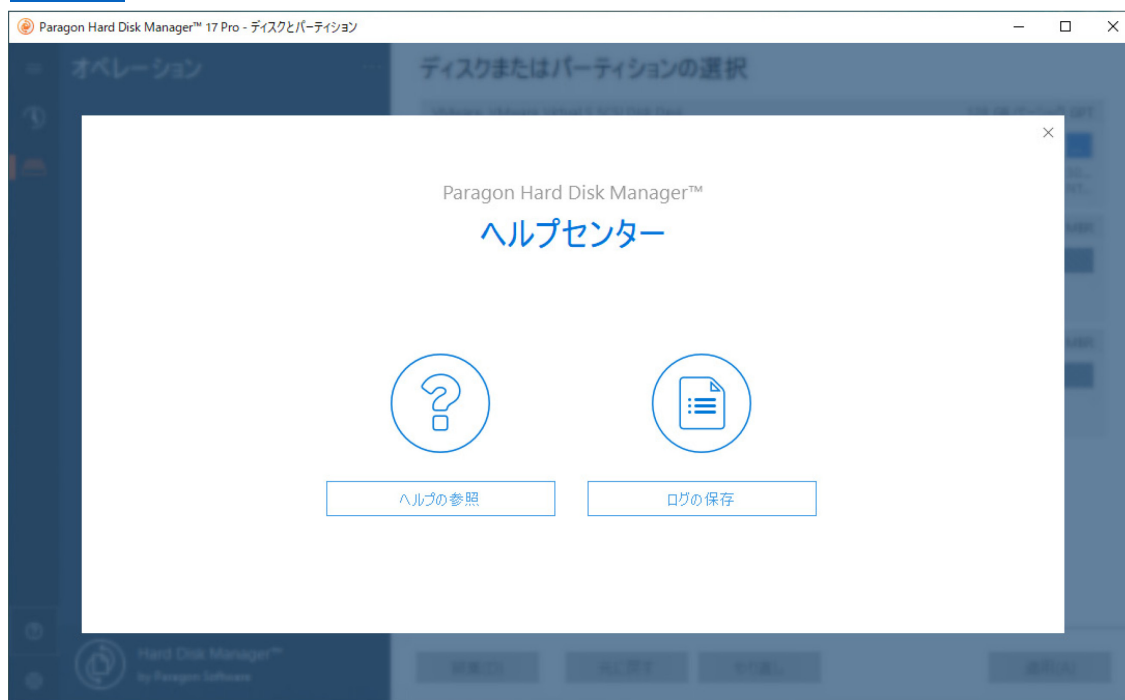


ディスクレイアウトの「操作前」を選択すると、操作前の状態を確認できます。



ヘルプ

ヘルプセンターを開きます。「ヘルプの参照」はオンラインの PDF マニュアルを開きます。「ログの保存」は[ログセーバー](#)を開きます。



製品設定

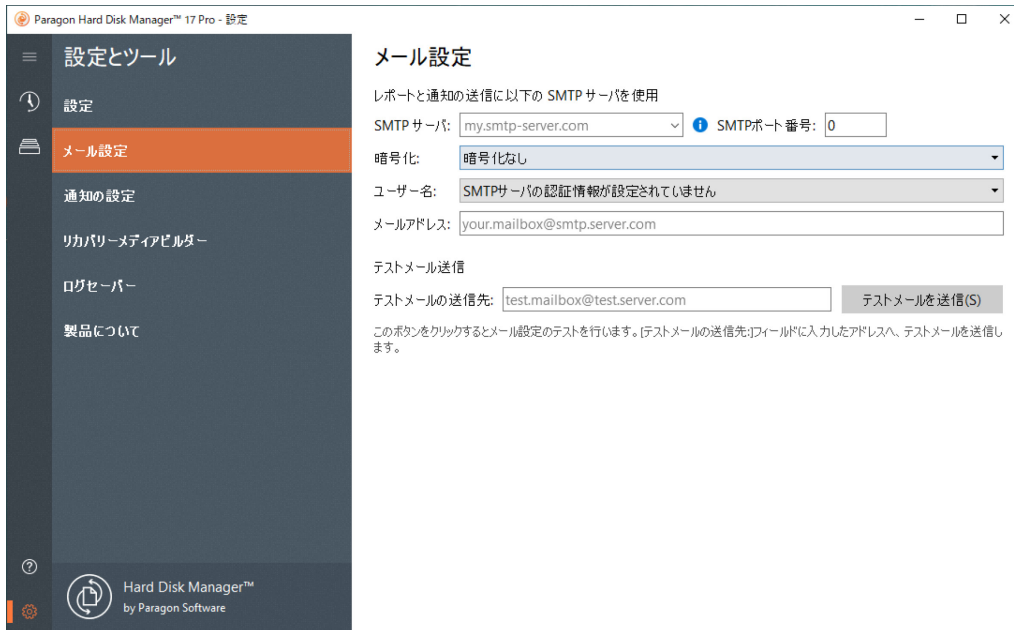
「設定」アイコンをクリックすると、製品設定が表示されます。

設定



- **匿名化された製品使用統計の送信を許可**
匿名化された製品使用統計を開発元に送信するには、このオプションをオンにします。送信された情報は、製品の品質向上に使用されます。
- **アップデートを確認**
製品がアップデートを確認できるようにするには、このオプションをオンにします。アップデートがある場合は、ダウンロードとインストールを促すメッセージが表示されます。
- **進行状況ダイアログを自動的に閉じる**
操作完了後、進行状況ダイアログを自動的に閉じるようにするにはこのオプションをオンにします。操作中に警告またはエラーが発生した場合、ダイアログは閉じられません。

メール設定



- **SMTP サーバ**

Gmail、Mail.ru、Outlook.com、Rambler、Yahoo、Yandex から選択できます。なお、Yahoo の設定は Yahoo.com の設定になります。Yahoo.co.jp や他のメールアドレスを使用したい場合は、「SMTP サーバ」に SMTP サーバ名を入力してください。

- **SMTP ポート**

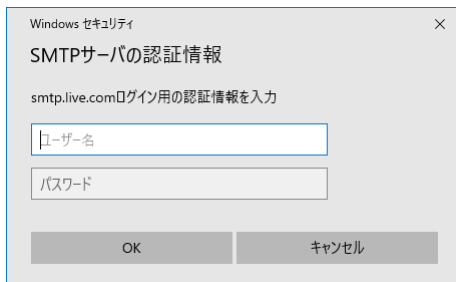
SMTP サーバで使用する SMTP ポートを入力してください。SMTP サーバを選択した場合、自動で設定されますが、Outlook.com を選択した場合、「25」が設定されますが「587」に変更してください。

- **暗号化**

暗号化なし、Secure socket layer(SSL)、Transport layer security(TLS)から選択できます。

- **ユーザー名**

「SMTP サーバの認証情報が設定されていません」と表示されている場合は「認証情報を構成」を選ぶと以下の「SMTP サーバの認証情報」画面が表示されますので、SMTP を使用するためのユーザー名とパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。



- **メールアドレス**

送信者のメールアドレスを入力してください。

- **テストメール送信**

「テストメールの送信先」に送信先メールアドレスを入力し、「テストメールを送信」ボタンを押してください。

通知の設定



- **通知の送信手順**

「[メール設定](#)」で追加した「SMTP メールサーバ」が選択できます。

「メール通知の送信先」は、送信先メールアドレスを入力できます。1 行に送信先メールアドレスを 1 つ入力し、改行して複数入力可能です。

テスト通知送信は「通知のテスト送信先」に送信先メールアドレスを入力し、「通知テスト送信」ボタンを押してテストを行えます。

リカバリーメディアビルダー

リカバリーメディアビルダーを使用して外部起動用のメディア(CD/DVD/BD/USBメモリ)を作成し、OSのエラーや、操作ミスが原因で、Windows OSの起動が困難になった場合でも、メディアからコンピューターを起動して、システムの復旧を行えます。詳細につきましては利用ガイドをご参照ください。



ログセーバー

サポートを受ける際にログの提出を依頼される場合があります。その場合はログセーバーでログを収集してください。



製品について

製品のバージョンを表示します。



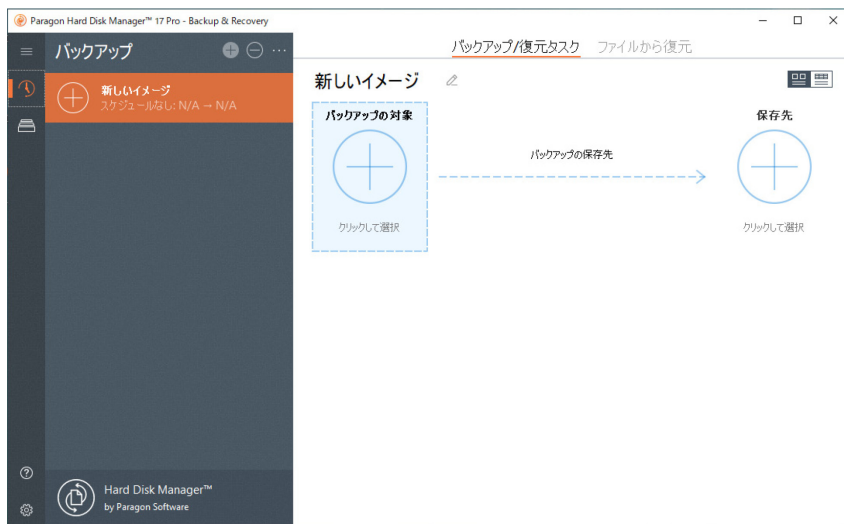
システムとデータのバックアップ

バックアップの作成

Paragon Hard Disk Manager 17 はハードディスク全体やパーティション単位またはファイル・フォルダーのバックアップイメージを作成できます。バックアップイメージの保存先として、内蔵/外付け HDD、共有されたネットワークドライブなどが利用できます。

- ※ バックアップイメージを作成する前には必ず[チェックディスクを実行](#)してください。バックアップの対象に不良セクタが存在するとバックアップ/復元操作時にエラーが発生する場合があります。
- ※ OSをバックアップする場合は、システムドライブとなるディスク全体のバックアップを作成してください。Windows7以降のOSでは、パーティション「C」以外のシステムパーティション（システムで予約済み、EFIシステムパーティションなど）にも起動に必要なファイルが含まれるため、Cのみのバックアップを作成して別のディスクへ復元しても復元先から起動できません。

1. 製品を開始すると以下の画面が表示されます。表示されない場合は、製品画面左側の「バックアップ」（アナログ時計状のアイコン）をクリックしてください。



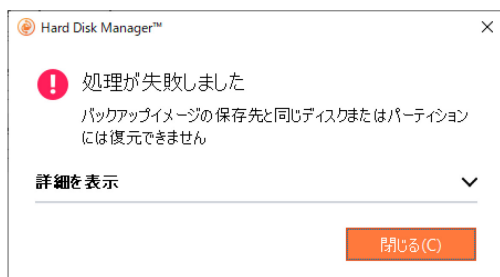
バックアップを作成するには、まず「バックアップの対象」をクリックします。



2. 「バックアップの対象」をクリックすると、バックアップ対象として3つの選択肢が記載された「対象の選択」ウィンドウが表示されます。



3. 「コンピューター全体」を選択すると、お使いのコンピューターに内蔵・接続されているすべてのディスクがバックアップ対象として自動的に選択されます。選択後は、手順(6)へ移動してください。
- ※ ローカルディスクに保存したイメージを復元する際は「処理が失敗しました」エラーが表示されますので、復元する対象からイメージの保存先を省いて復元を実行してください。



4. 「ディスクまたはパーティション」を選択すると、以下の選択画面が表示されます。



画面上で「ディスク *」(*は任意の数字)と記載されている部分をクリックすると、そのディスクをバックアップの対象として選択できます(下画面は例としてディスク0を選択した状態)。



画面上で各パーティションのボリュームラベルをクリックすると、そのパーティションをバックアップの対象として選択できます（下画面は例としてボリュームラベル『New Volume』のパーティション E:を選択した状態）。

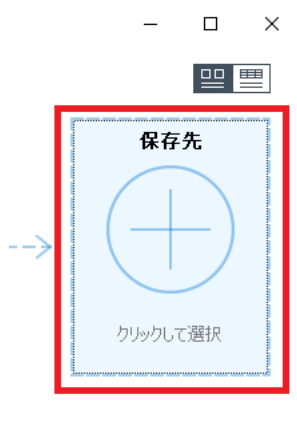


選択が完了しましたら「OK」をクリックして選択画面を閉じ、手順 (6) へ移動してください。

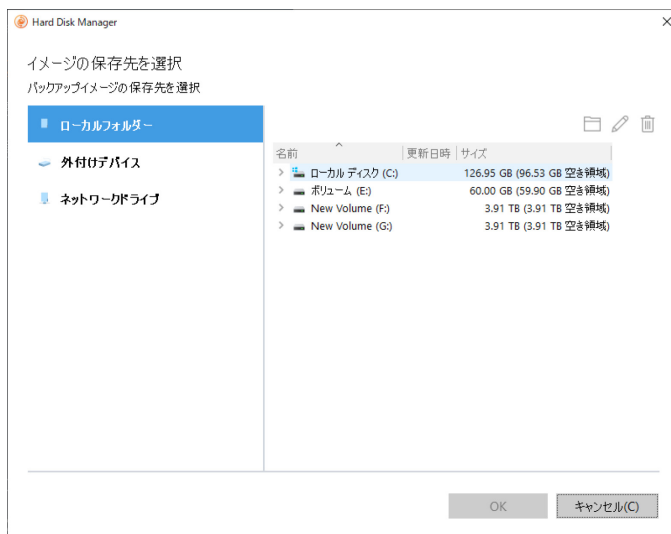
- 「フォルダーまたはファイル」を選択すると以下の画面が表示されます。詳細は、利用ガイドの「ファイルまたはフォルダー単位のバックアップ」をご参照ください。



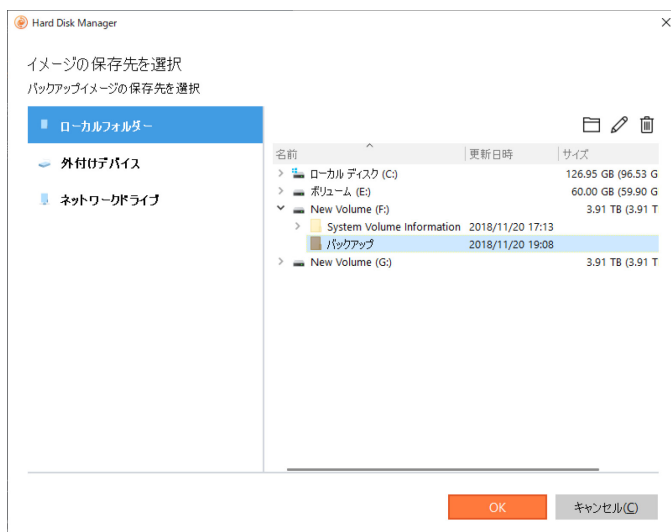
6. バックアップ対象の選択後は、引き続き「保存先」をクリックしてバックアップの保存先を指定します。



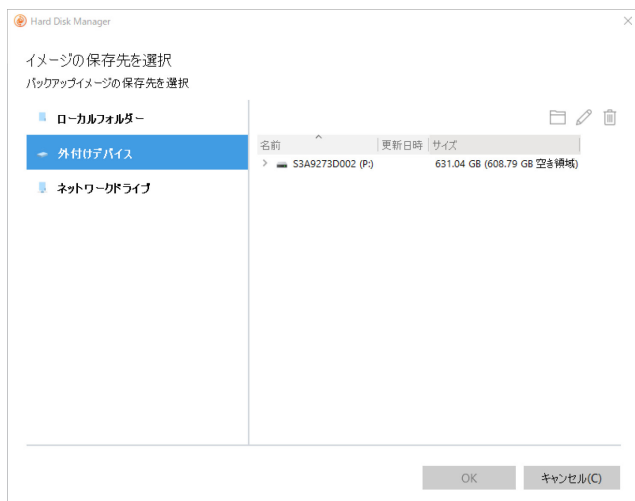
7. 「保存先」をクリックすると、保存先として3つの選択肢が記載された「イメージの保存先を選択」ウィンドウが表示されます。



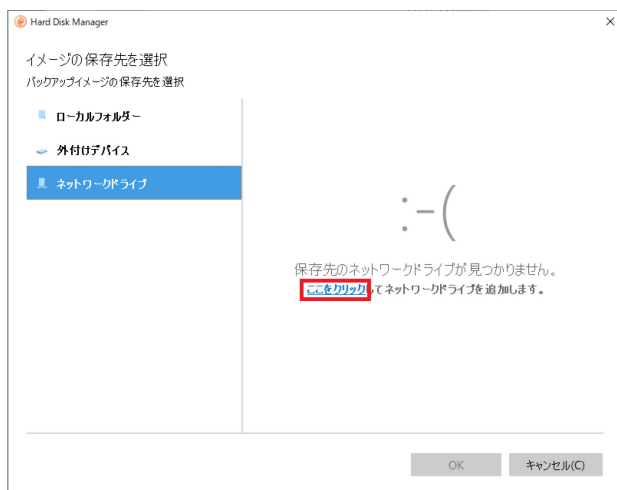
8. 「ローカルフォルダー」を選択すると、コンピューターの内蔵ディスクをイメージの保存先に選択できます (下画面は例としてパーティション E:の『バックアップ』フォルダーを保存先に選択した状態)。選択後は、「OK」を押して手順(11)に進みます。



9. 「外付けデバイス」を選択すると、USBなどで接続された外付けディスクをイメージの保存先に選択できます。注意：外付けディスクによっては「ローカルフォルダー」に外付けディスクが表示されることがあります。選択後は、「OK」を押して手順(11)に進みます。



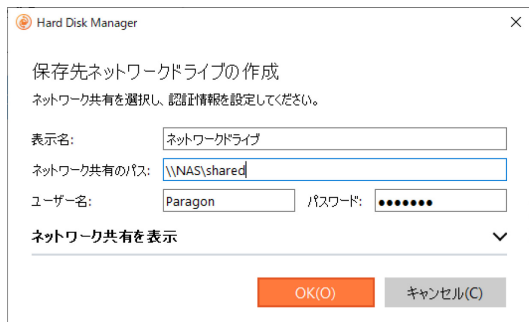
10. 「ネットワークドライブ」を選択すると、ネットワーク共有にイメージを保存できます。



画面上の「ここをクリック」をクリックすると、ネットワーク共有の設定画面が表示されます。

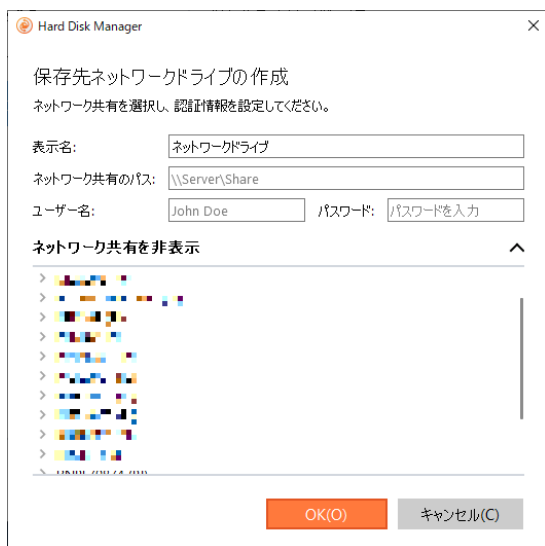


「ネットワーク共有のパス:」にイメージの保存先となるネットワーク共有を UNC(¥¥コンピューター名¥共有名)形式で入力し、「ユーザー名」と「パスワード」に認証情報を入力して「OK」をクリックしてください。

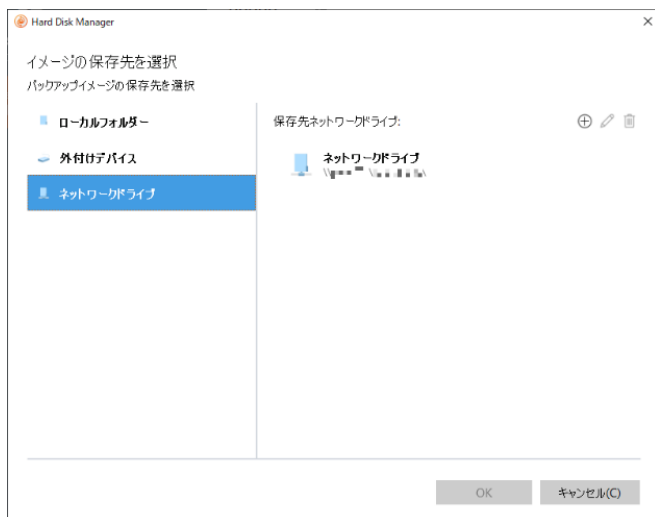


画面内「ネットワーク共有を表示」をクリックすると、ネットワークの参照も行えます*。保存先の共有フォルダーをクリックして選択します。

*Windows 10 でネットワークの参照が行えない場合、SMB1.0 が無効に設定されていないかご確認ください。



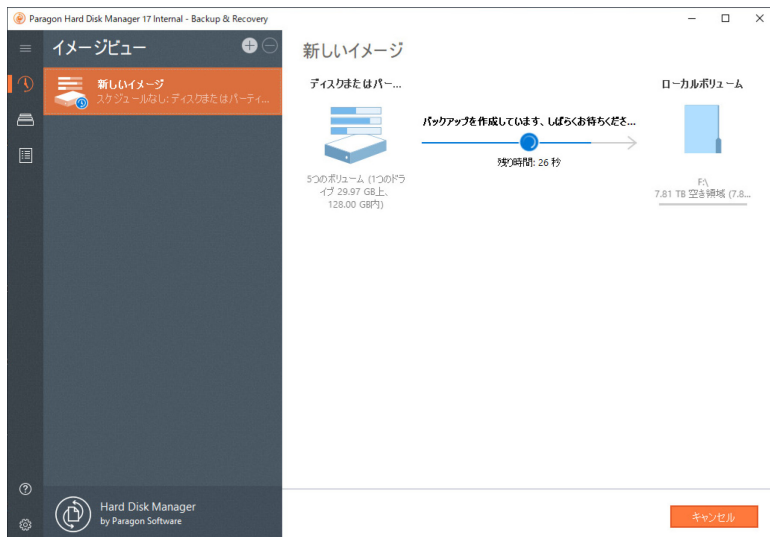
指定されたネットワーク共有が追加されますので、クリックして選択し、「OK」を押して手順(11)に進みます。



11. バックアップの対象と保存先の設定が完了すると、製品画面右下に「今すぐバックアップ」ボタンが表示されます。



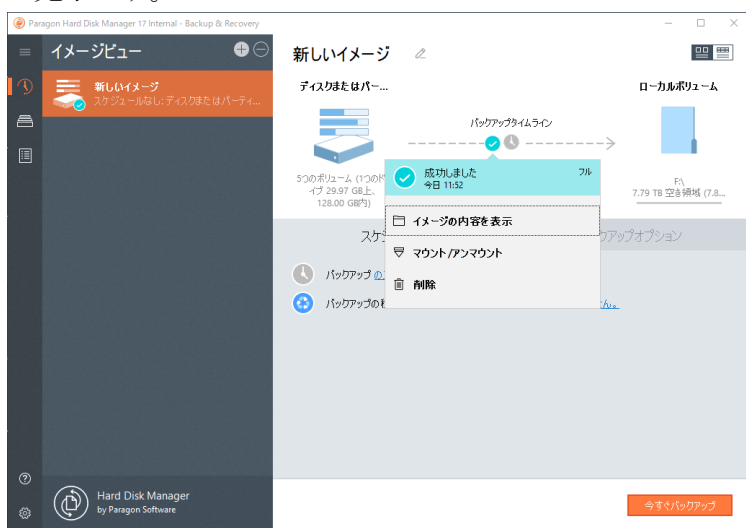
このボタンをクリックすると、バックアップが開始されます。



12. バックアップが完了すると、「バックアップが完了しました」と表示されますので画面右下の「OK」ボタンをクリックしてください。



13. 「バックアップタイムライン」に作成されたイメージが追加され、マウスカーソルをイメージへ移動すると、イメージについてのコンテキストメニューが表示されることを確認してください。手動でのバックアップはこれで完了です。

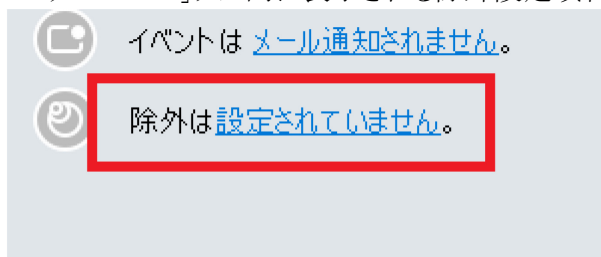


14. 今後も同じ内容(バックアップの対象とバックアップの保存先)でバックアップを作成するには、「今すぐバックアップ」をクリックすることでバックアップを作成できます。

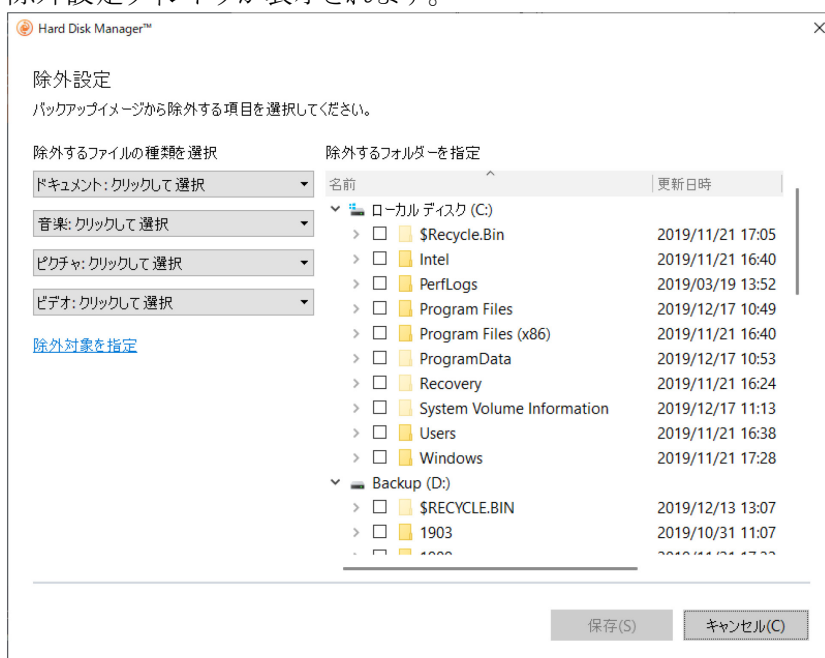
除外設定

特定のファイルまたは指定したフォルダーを除外してバックアップを作成するには、以下記載する手順に沿って設定を行います。

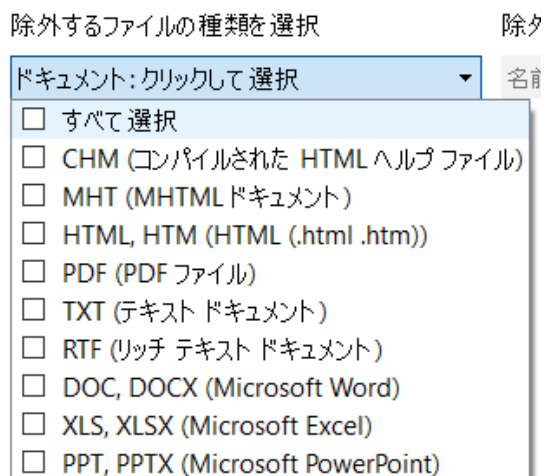
1. 「[バックアップの作成](#)」の手順に沿って、バックアップ対象と保存先を設定します。
2. 「スケジュール」タブ内に表示される除外設定項目の「設定されていません」リンクをクリックします。



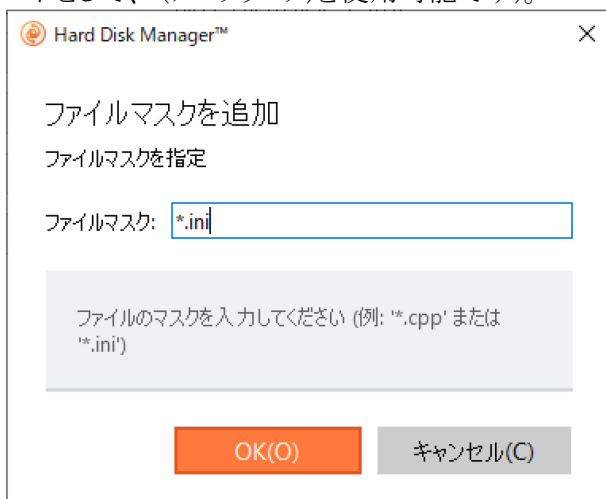
3. 除外設定ウィンドウが表示されます。



4. 除外対象をファイルの種類で指定する場合は、「除外するファイルの種類を選択」から指定を行います。テンプレートとして、「ドキュメント」、「音楽」、「ピクチャ」、「ビデオ」の設定が用意されています（例:『ドキュメント』をクリックして開いた状態）。



- テンプレートにない種類のファイルを除外するには、「除外対象を指定」をクリックして表示される「ファイルマスクを追加」ウィンドウにて、拡張子を指定して設定を行い、「OK」をクリックして追加します (ワイルドカードとして、*(アスタリスク)を使用可能です)。

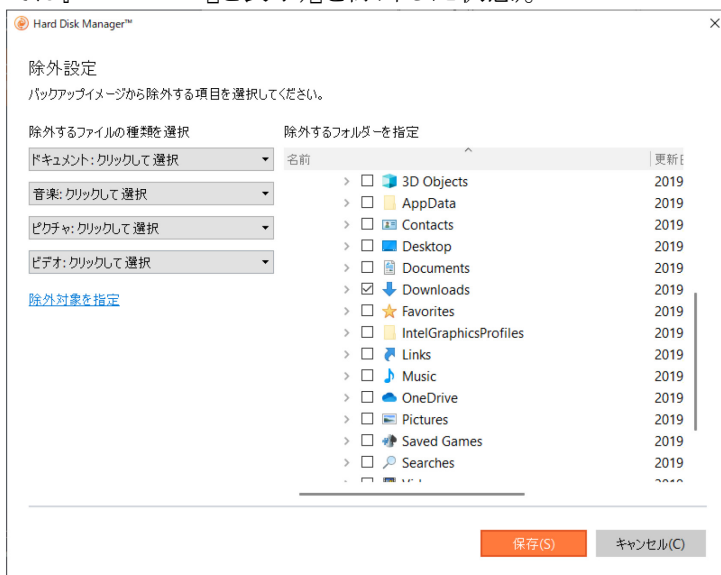


[除外対象を指定](#)

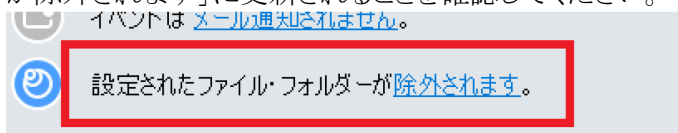
INI (構成設定)

削除

- フォルダーを指定して除外を行うには、画面右側の「除外するフォルダーを指定」フィールドにて、当該フォルダーにチェックを入れます (例:『ユーザー』フォルダーのサブフォルダーとなる『ダウンロード (画面上では『Downloads』と表示)』を除外した状態)。



- 設定完了後は、「保存」をクリックして設定画面を閉じ、除外設定項目が「設定されたファイル・フォルダーが除外されます」に更新されることを確認してください。

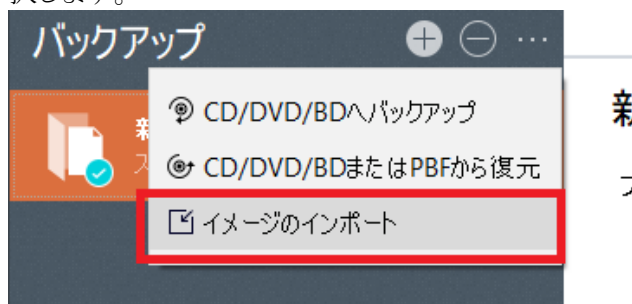


既存イメージの追加

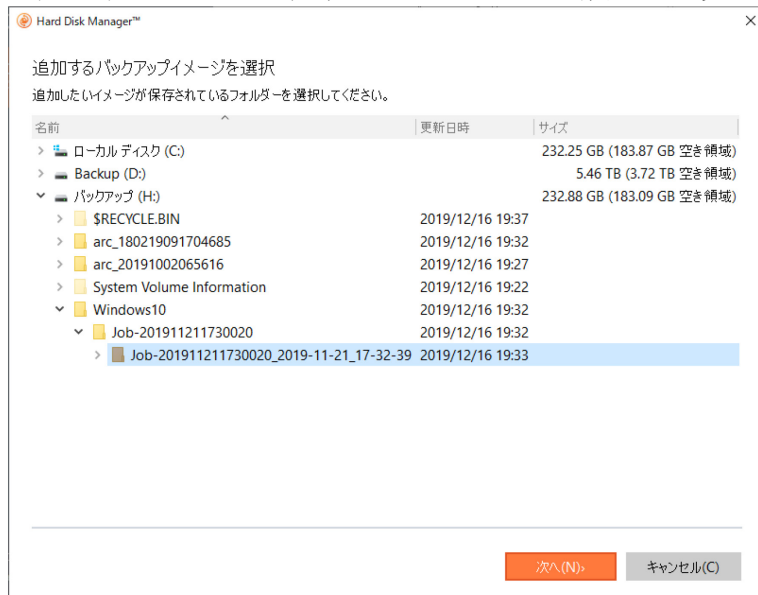
リカバリーメディア起動時に作成したバックアップイメージなど、既に作成されているイメージを追加するには以下記載する手順に沿って操作を実施します。

※ 作成されたイメージと現在のディスク・パーティション構成が異なる場合は、スケジュールなどを設定できません。

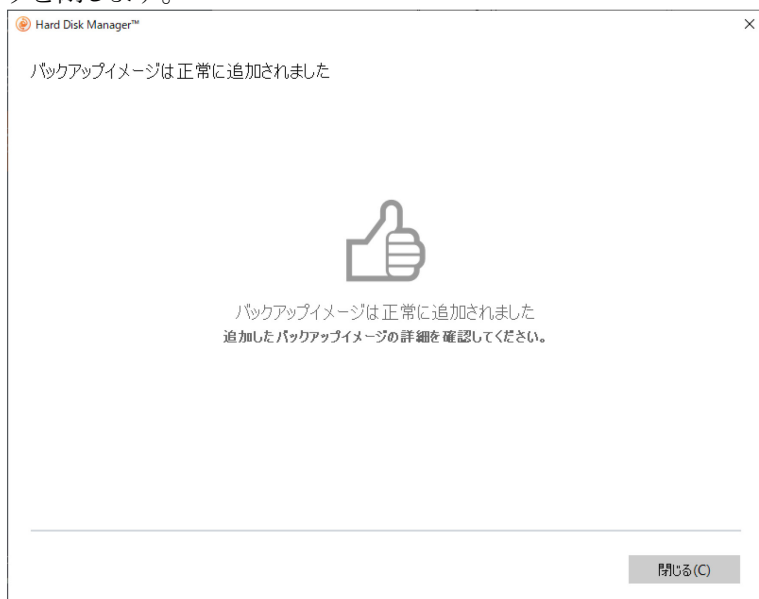
1. 「バックアップ」右横に表示される 3 個のボタンの内、[...] ボタンをクリックして「イメージのインポート」を選択します。



2. バックアップイメージの収録されたフォルダーを指定して「次へ」をクリックします。



3. イメージが正常に追加された場合は以下の画面が表示されますので、「閉じる」をクリックしてこのウィンドウを閉じます。



4. 製品画面に追加されたバックアップ構成が表示されます。この構成に対して、スケジュール設定や[除外の設定](#)、[イメージの整合性チェック](#)などが行えます。

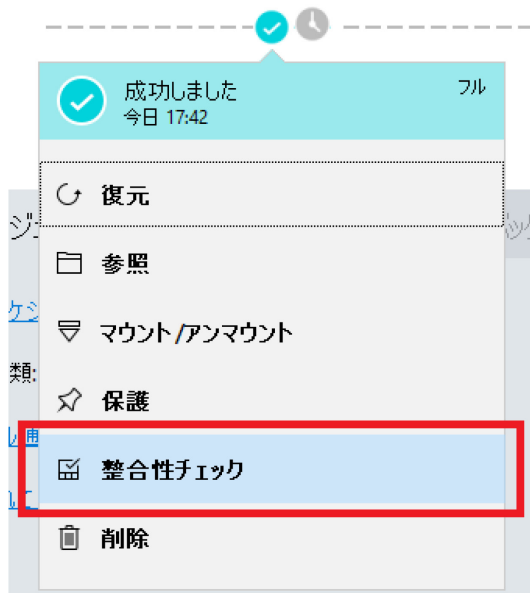


イメージの整合性チェック

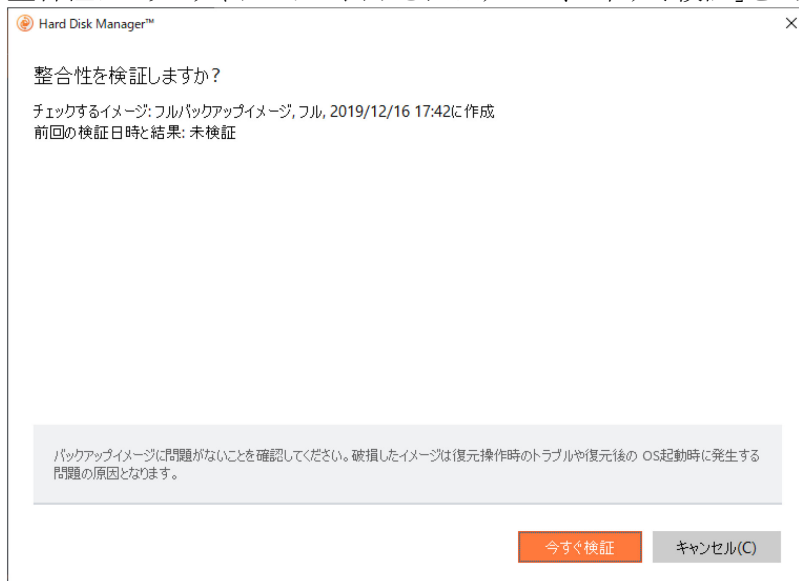
作成したバックアップイメージの整合性をチェックするには、以下記載する手順にて操作を実施します。

1. 「バックアップタイムライン」に追加されたイメージにマウスカーソルを移動して表示されるコンテキストメニューから、「整合性チェック」をクリックします。

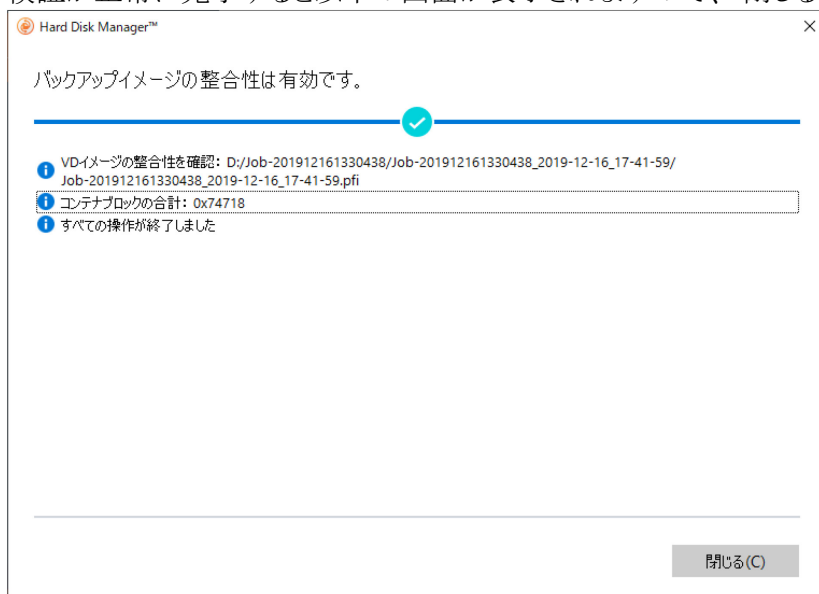
バックアップタイムライン



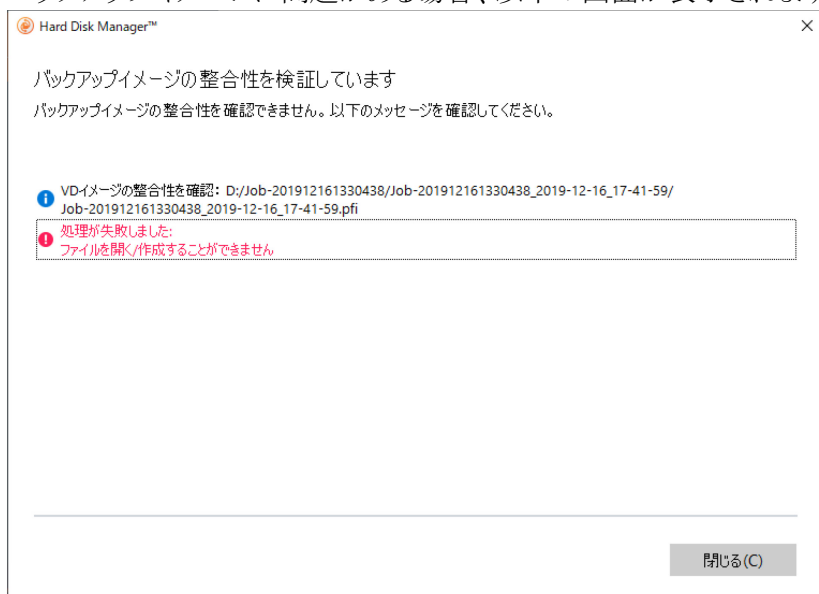
2. 整合性チェックウィザードが表示されますので、「今すぐ検証」をクリックします。



3. 検証が正常に完了すると以下の画面が表示されますので、「閉じる」をクリックしてウィザードを完了します。



4. バックアップイメージに問題がある場合、以下の画面が表示されます。



バックアップイメージを構成するファイルの欠落・リネーム・移動が発生していないかご確認ください。ファイルがすべて揃っている場合は、バックアップイメージの作成に失敗している可能性がありますので、コンテキストメニューの「削除」を選択してイメージを削除し、再度バックアップを作成してください。

CD/DVD/BD へバックアップ

CD/DVD/BD ドライブを使用して光学メディアにバックアップを保存するには以下記載する手順に沿って操作を行います。バックアップイメージの保存先として、CD/DVD/BD または ISO ファイルが利用できます。

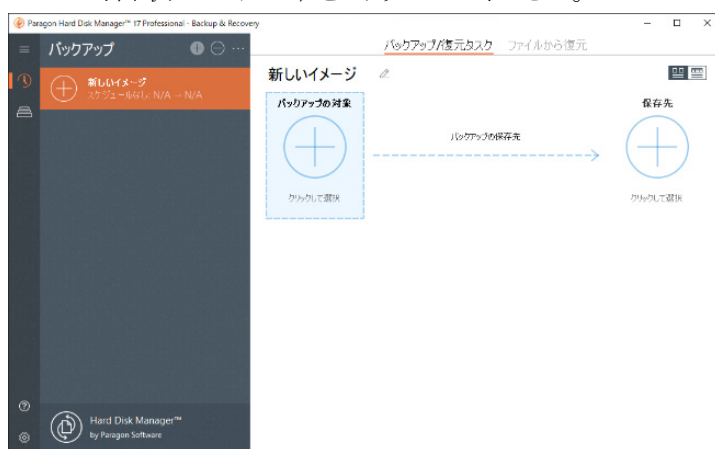
注意:

- バックアップイメージを保存した光学メディアからは起動できません。[リカバリーメディアビルダー](#)を使用して作成したリカバリーメディアから起動後、復元を行う必要があります。
- OS のパーティションまたはそれを含むディスク全体のイメージを元の場所へ上書きして復元するには、リカバリーメディアから起動して操作を行う必要があります。
- ディスクイメージの復元先は使用済みサイズに関わらず元のディスクと同じまたはより大きい容量のディスクを選択する必要があります。
- ファイル単位での抽出は行えません。ディスクまたはパーティション単位での復元のみとなります。

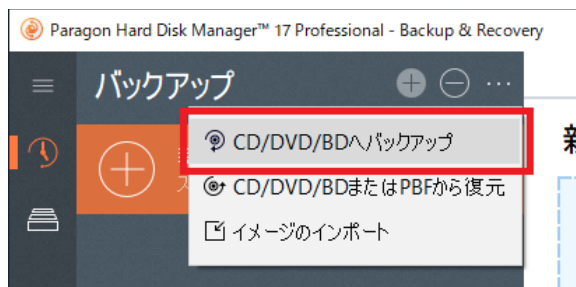
※ バックアップイメージを作成する前には必ず[チェックディスクを実行](#)してください。バックアップの対象に不良セクタが存在するとバックアップ/復元操作時にエラーが発生する場合があります。

※ OSをバックアップする場合は、システムドライブとなるディスク全体のバックアップを作成してください。Windows7以降のOSでは、パーティション「C」以外のシステムパーティション（システムで予約済み、EFIシステムパーティションなど）にも起動に必要なファイルが含まれるため、Cのみのバックアップを作成して別のディスクへ復元しても復元先から起動できません。

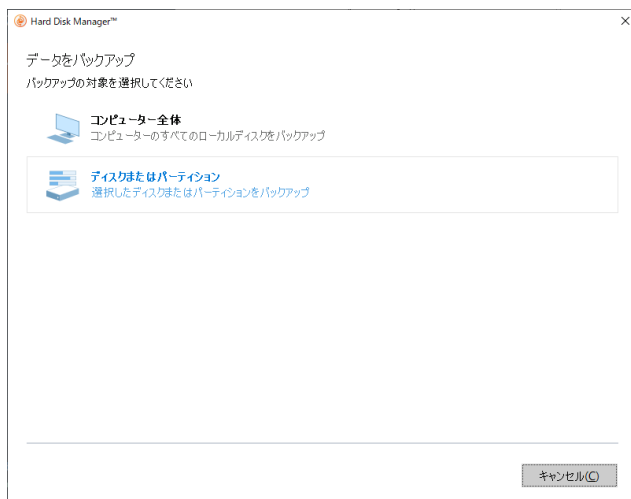
1. 製品を開始すると以下の画面が表示されます。表示されない場合は、製品画面左側の「バックアップ」(アナログ時計状のアイコン) をクリックしてください。



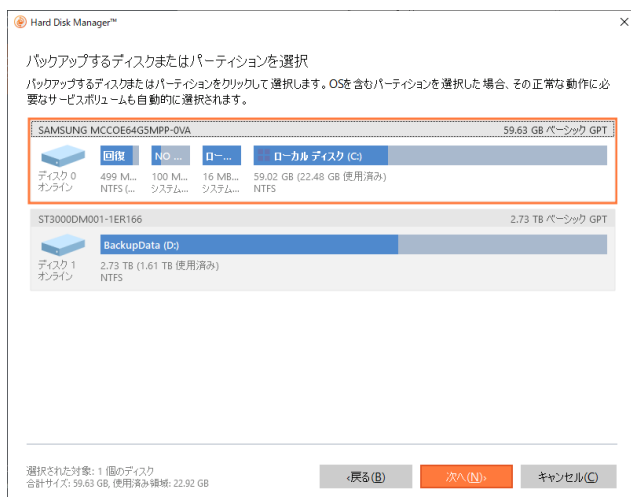
2. 画面上部の「…」ボタンをクリックし、表示されるメニュー内の「CD/DVD/BD へバックアップ」を選択します。



3. 「データをバックアップ」画面では、バックアップの対象を選択します。「コンピューター全体」を選択すると、コンピューターの内蔵・外付けディスクがすべてバックアップ対象となります。



4. 「ディスクまたはパーティション」を選択すると、ディスク/パーティションをクリックしてバックアップ対象に指定する画面が表示されます。バックアップ対象を選択後は、「次へ」をクリックします。ここではシステムディスクのディスク0を選んでいきます。



5. 「3.」で「コンピューター全体」または「4.」で「次へ」を選択すると、バックアップイメージの保存先を選択する画面が表示されます。バックアップ先の CD/DVD/BD ドライブを選択し、「次へ」をクリックします。なお、ISO ファイルを選択すると保存場所を選択すると、次の画面で ISO のサイズを選べます。



6. オプションの設定画面が表示されます。通常は変更する必要はありませんので、「今すぐバックアップ」をクリックします。



「パスワード保護」

プルダウンメニュー内の「パスワードを設定」を選択すると、パスワード設定画面が表示されます。パスワードには半角英数(シングルバイト)のみが使用可能です。ひらがな・カタカナ・漢字などの2バイト文字や記号・絵文字は使用できません。「暗号化」オプションでは暗号化アルゴリズムを Paragon 暗号化と AES-128/192/256 から選択可能です。

「すべての CD/DVD/BD ディスクを最後まで書き込み」

このオプションを選択するとデータの書き込みが完了した時点で、ディスクのファイナライズが行われます。一度ファイナライズされたディスクに対しては、それ以降データの追記はできなくなります。ディスクのファイナライズを選択すると操作を完了するまでに非常に時間がかかりますのでご注意ください。

「書き込み速度」

バックアップ イメージを CD/DVD/BD に書き込む際の速度を指定できます。メディアの品質に問題がある・光学ドライブとメディアとの相性が発生した場合は、書き込み速度を最小に設定してから操作を実行してください。

「起動オプション」

バックアップイメージと一緒に書き込まれる、起動可能な ISO イメージを指定できます。

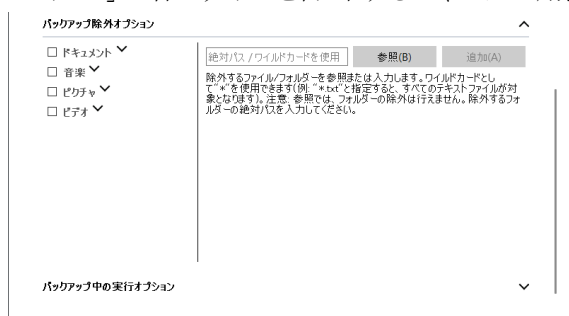
「アプリケーション除外オプション」

バックアップイメージから特定の VSS ライターやサードパーティ製のツールで保護されているアプリケーションを除外するにはこのオプションを設定します。



「バックアップ除外オプション」

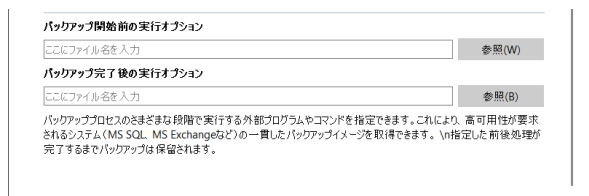
バックアップから除外するファイルの設定を行えます。プリセットとして、「ドキュメント」、「音楽」、「ピクチャ」、「ビデオ」の各ファイルを除外するフィルタが用意されています。



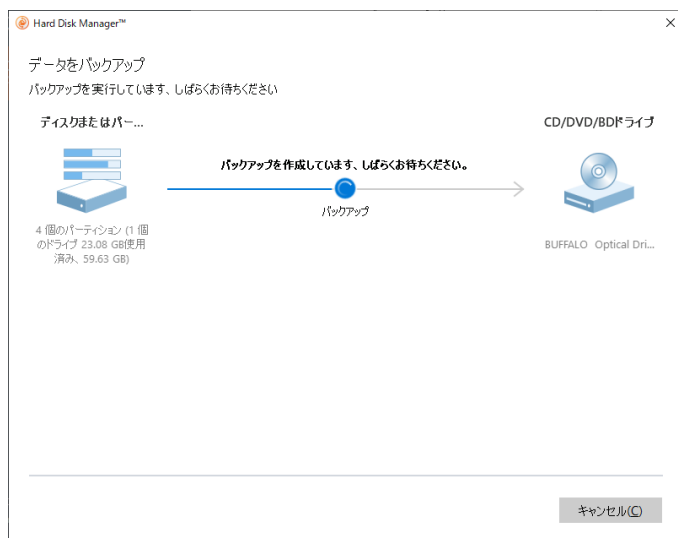
画面右側の「絶対パス/ワイルドカードを使用」では、ユーザーが任意の場所を指定してファイルを除外できます。このオプションではワイルドカードとして「*(アスタリスク)」が使用できます。例として、デスクトップ上のすべてのファイルを除外するには、ファイル名とファイル拡張子両方にワイルドカードを使用して、「C:\Users<ユーザー名>\Desktop*.*」のように入力して指定します。

「バックアップ中の実行オプション」

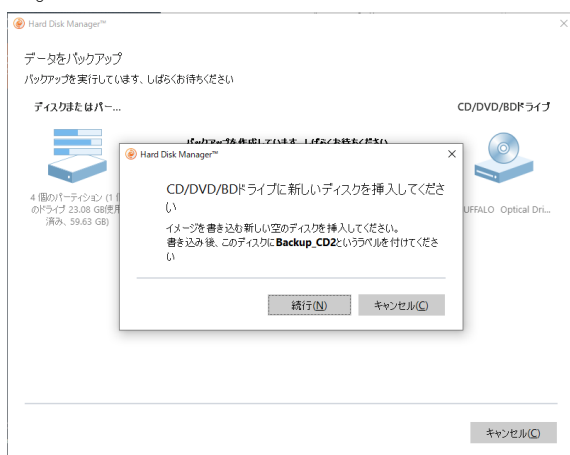
バックアップの開始前/終了後の各段階において外部プログラムコマンドを実行することができます。実行ファイル(exe)、バッチファイル(bat)が指定可能です。



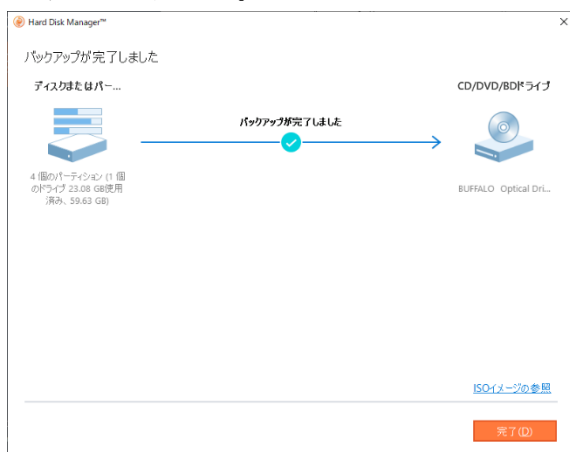
7. 「今すぐバックアップ」をクリックすると、バックアップが開始されます。



8. バックアップが複数の光学メディアに分割される場合は、光学ドライブのトレイが開いて新しいメディアへの差し替えを促すダイアログが表示されます。差し替え後は、「続行」をクリックして操作を続行してください。



9. バックアップが完了すると、「バックアップが完了しました」と表示されますので画面右下の「完了」ボタンをクリックしてください。



- ※ 最後に作成されたメディアが排出されてから上記メッセージが表示されるまで時間がかかる場合があります。その際は、メッセージが表示されるまでお待ちください。

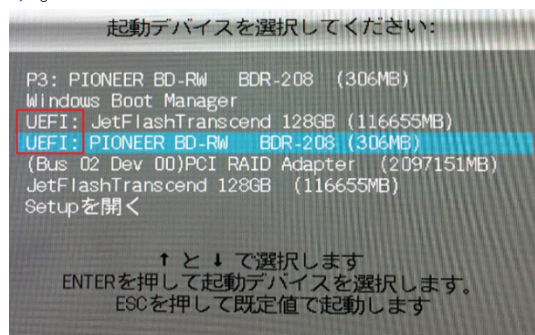
バックアップイメージの復元

ここでは Paragon Hard Disk Manager 17 で作成されたバックアップイメージの復元手順をご案内します。Paragon 製品で作成されたバックアップイメージの復元を行うには、お使いの Windows にインストールされたプログラムから復元する方法と、リカバリーメディアを用いて復元する方法の 2 種類を選択できます。

【注意】uEFI 環境では、リカバリーメディアから起動する場合は、コンピューターの起動デバイス選択画面から uEFI モードを指定する必要があります。起動デバイスの選択方法はメーカーによって異なりますので、お使いのコンピューターのマニュアルをご確認ください。

リカバリーメディア (USBメモリ/CD/DVD) が uEFI モードをサポートする場合は、下記画面のようにデバイス名の先頭に「UEFI」または「EFI」と表示されます。メディアから起動して uEFI 環境をバックアップ/復元する場合は、必ず uEFI 対応メディアを使用して uEFI モードで起動してください。uEFI 対応メディアを使用しないで作成されたバックアップは正常に復元できません。

※製品をインストールしてお使いの場合は、BIOS/uEFI モードに関係なく自動で最適なモードが選択されます。



ハードディスク・パーティションの復元

バックアップイメージをディスクまたはパーティション単位で復元するには、以下の手順にて操作を実施します。

注意: バックアップイメージをより大容量のディスク・パーティションへ復元する場合は、復元操作後に別途パーティションの拡大を実施して未割り当て領域をパーティションに取り込む必要があります。

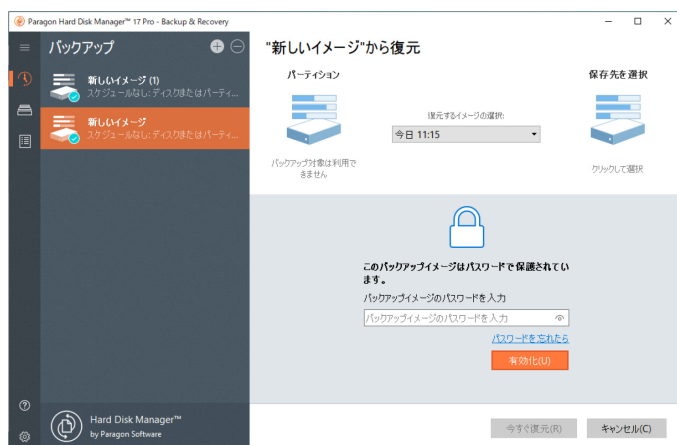
1. 「バックアップタイムライン」に追加されたイメージにマウスカーソルを移動して表示されるコンテキストメニューから、「復元」をクリックします。



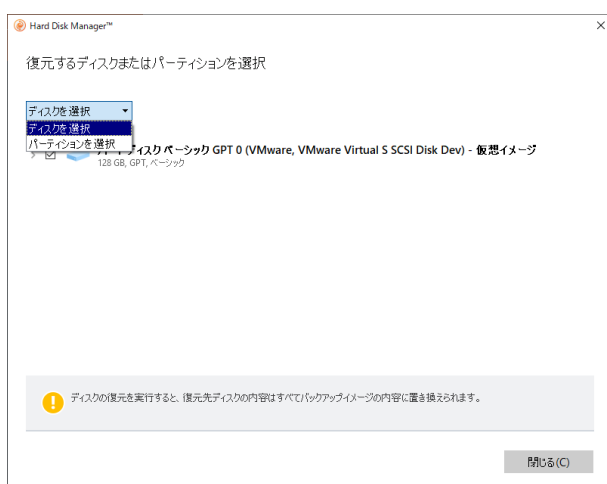
2. 復元操作画面が表示されます。



イメージにパスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面が表示されますので、所定欄にパスワードを入力して「有効化」をクリックし、パスワード保護を解除してください。

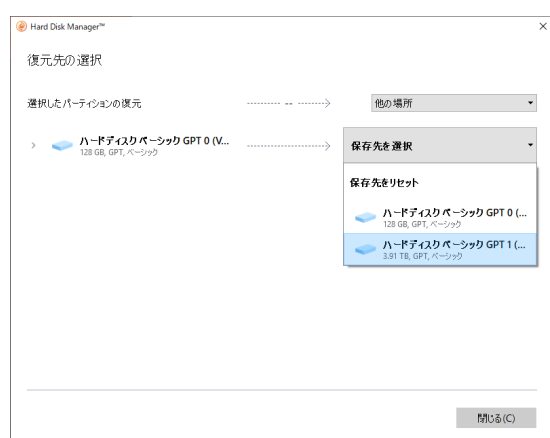
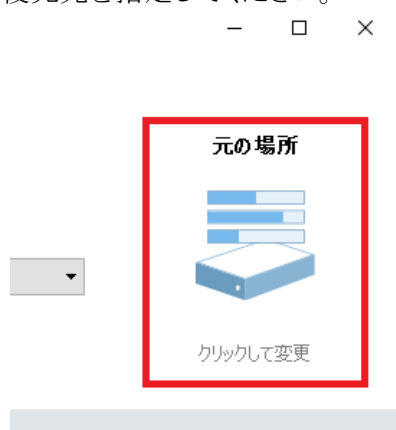


3. 復元する対象は、標準ではパーティション単位となっています。ディスク単位での復元に切り替える場合は、「パーティション」をクリックし、「復元するディスクまたはパーティションを選択」画面内の「パーティションを選択」をクリックして表示されるドロップダウンメニューから「ディスクを選択」へ切り替えてください。

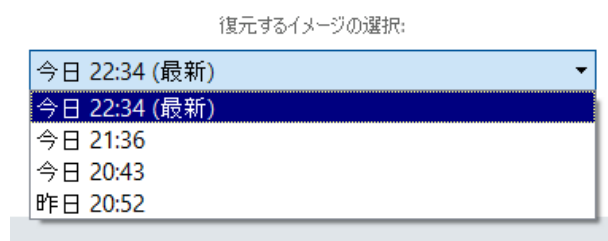


- ※ バックアップ元とは異なるディスクへ、OSを含むシステムドライブのイメージを復元する際は「ディスクを選択」に切り替えてディスク全体の復元を行ってください。

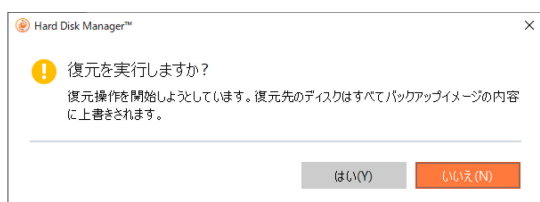
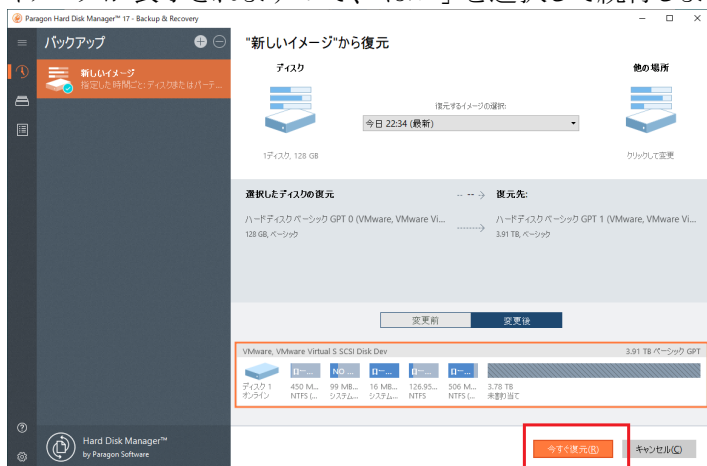
4. 復元先は、標準ではバックアップ対象(『元の場所』)が指定されています。別のディスク・パーティションへ復元を行う場合は、「元の場所」をクリックし、「復元先の選択」画面内の「元の場所」をクリックして表示されるドロップダウンメニューから「他の場所」へ切り替え、「復元先を選択」ドロップダウンメニューから復元先を指定してください。



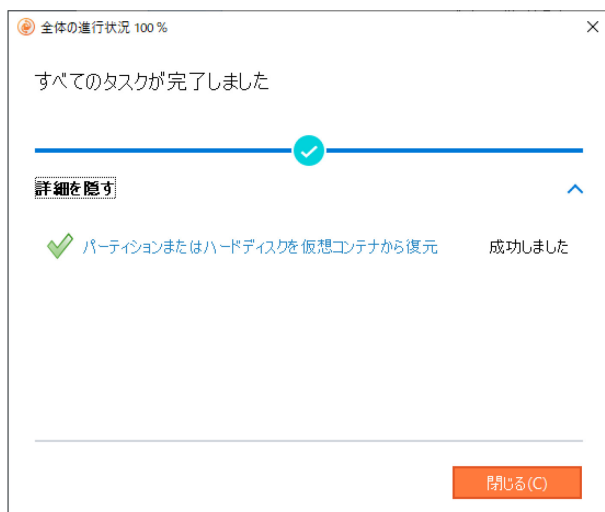
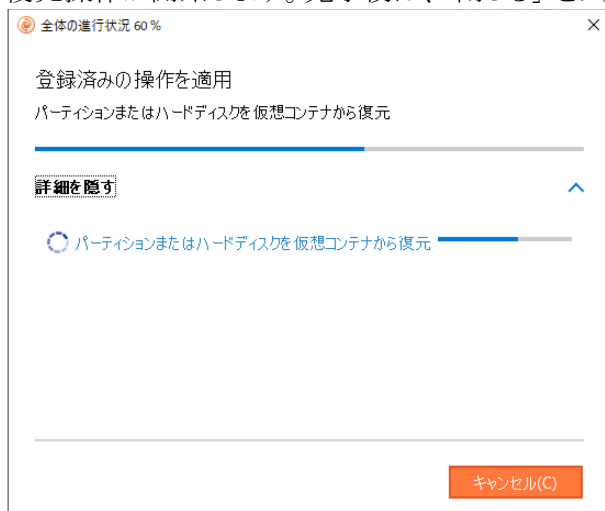
5. 復元するイメージをタイムライン上の別のイメージへ変更する場合は、「復元するイメージの選択:」メニューから切り替えることができます。



6. 復元する対象と復元先の選択が完了しましたら、「今すぐ復元」をクリックして復元を開始します。確認ダイアログが表示されますので、「はい」を選択して続行します。



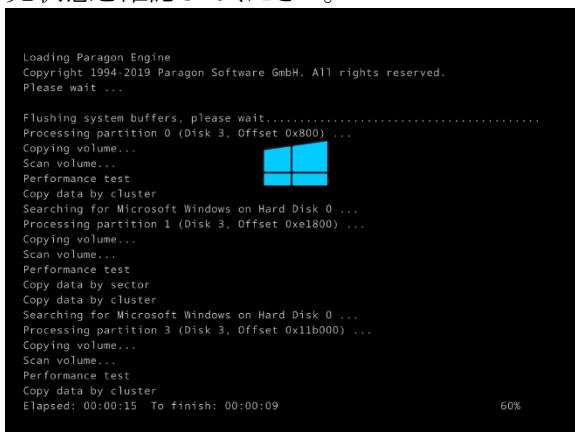
7. 復元操作が開始します。完了後は、「閉じる」をクリックして進捗画面を閉じてください。



8. OSなどの復元時は、以下の再起動要求画面が表示されますので、「再起動」をクリックして続行してください。



再起動後、以下のブルースクリーンモードで復元が行われます。操作完了後、システムにログインして復元状態を確認してください。



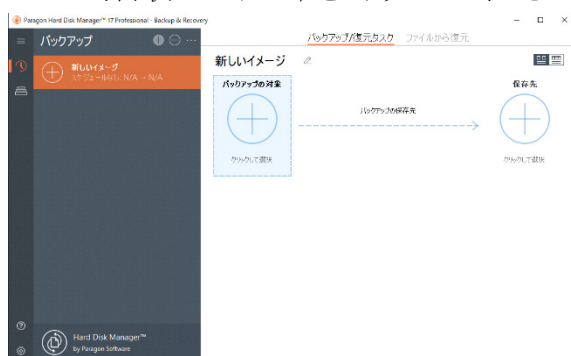
CD/DVD/BD または PBF からハードディスク・パーティションの復元

CD/DVD/BD または PBF のバックアップイメージをディスクまたはパーティション単位で復元するには、以下の手順にて操作を実施します。なお、CD/DVD/BD から復元する場合は Windows 上からでは復元できないため、リカバリーメディアから起動して復元してください。

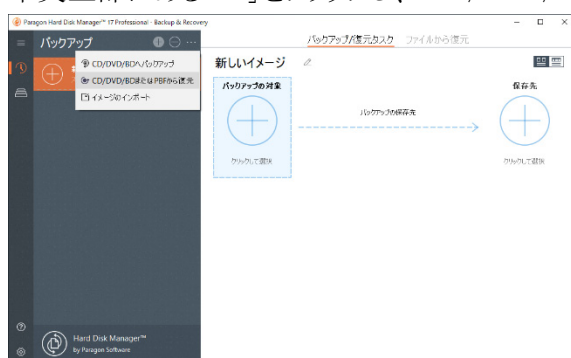
注意: ディスクのバックアップイメージより小さい容量のディスクへ復元はできません。パーティションごとに復元を実施する必要があります。パーティション単位で復元したシステムディスクは正常に OS をブートできないことがありますのでご注意ください。

バックアップイメージより大容量のディスク・パーティションへ復元する場合は、復元操作後に別途パーティションの拡大を実施して未割り当て領域をパーティションに取り込む必要があります。

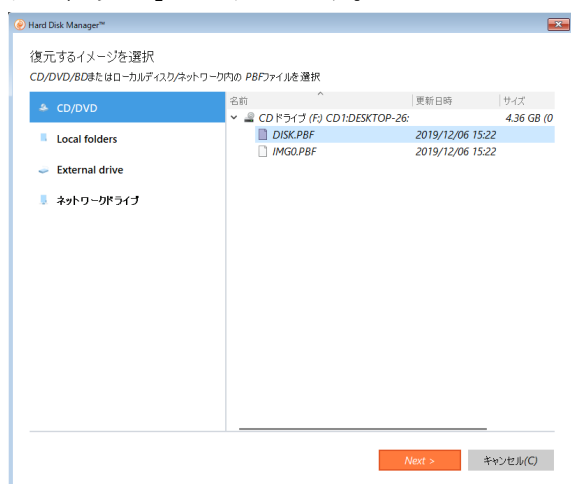
1. 製品を開始すると以下の画面が表示されます。表示されない場合は、製品画面左側の「バックアップ」(アナログ時計状のアイコン) をクリックしてください。



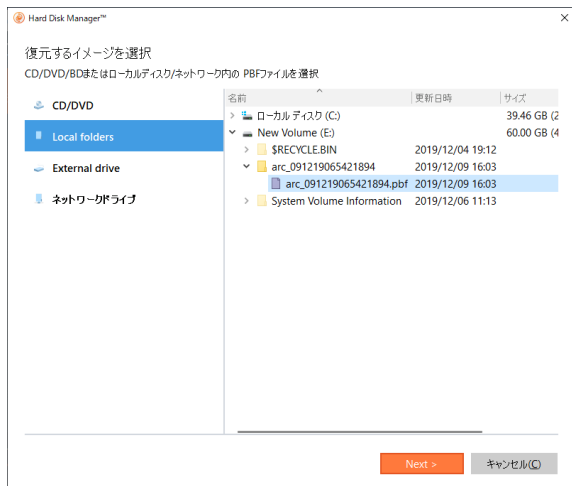
2. 中央上部にある「…」をクリックし、「CD/DVD/BD または PBF から復元」をクリックします。



3. 「復元するイメージを選択」画面では、CD/DVD/BD から復元する場合、ウィンドウ左側の「CD/DVD」をクリックして選択後、右側の CD/DVD ドライブをダブルクリックして表示される「DISK.PBF」をクリックして選択し、「次へ」をクリックします。



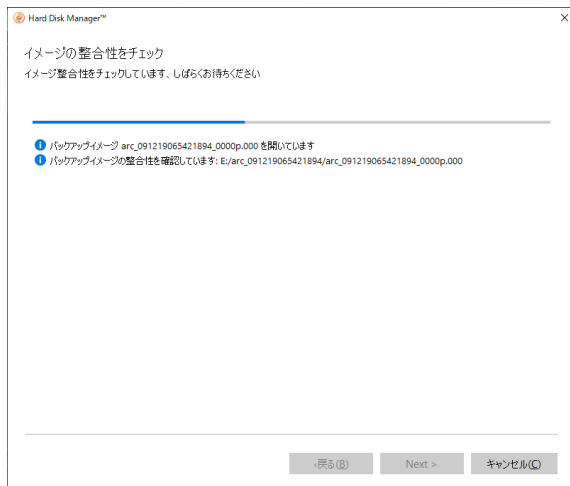
PBF から復元する場合、ローカル・外付け・ネットワークドライブに保存されている拡張子が.pbf のファイルをクリックして選択し、「次へ」をクリックします。



4. 「イメージの整合性をチェックしますか？」画面では「チェック」をクリックしてください。イメージの状態が正常なことを確認してから復元を実行するようにしてください。



5. イメージの整合性チェックが開始されます。イメージのサイズによりかかる時間は変わりますが復元処理に近い時間がかかります。



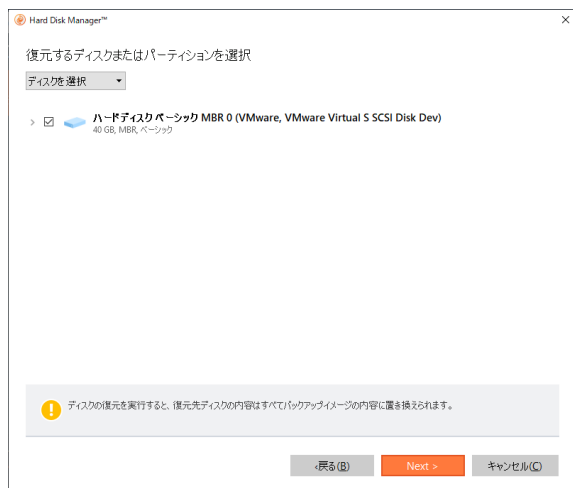
イメージの整合性チェックが正常に完了すると以下の画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



6. 「復元するディスクまたはパーティションを選択」画面は、復元する対象が標準ではパーティション単位になっています。ディスク単位で復元を行う際は、「パーティションを選択」をクリックして表示されるドロップダウンメニューから「ディスクを選択」へ切り替える必要があります。



復元するディスクにチェックが入っていることを確認し、「次へ」をクリックします。

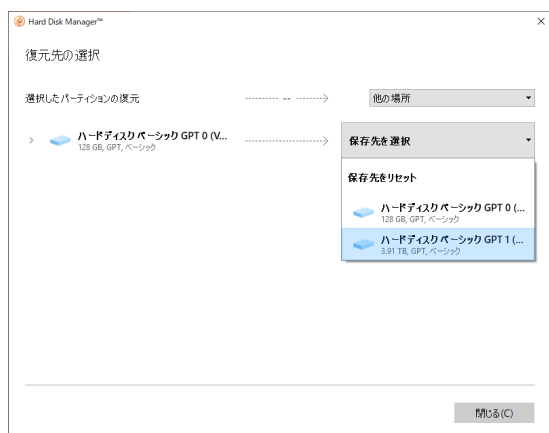


※ディスクの入れ替えなどでバックアップ元とは異なるディスクへ、OSを含むシステムドライブのイメージを復元する際は「ディスクを選択」に切り替えてディスク全体の復元を行ってください。

7. 「復元先の選択」画面では、標準ではバックアップ対象（『元の場所』）が指定されています。



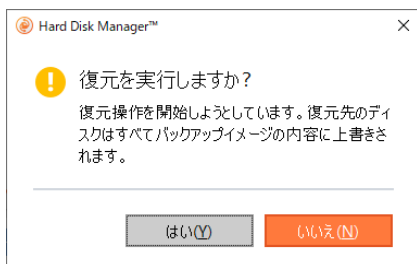
別のディスク・パーティションへ復元を行う場合は、「元の場所」をクリックし、「復元先の選択」画面内の「元の場所」をクリックして表示されるドロップダウンメニューから「他の場所」へ切り替え、「復元先を選択」ドロップダウンメニューから復元先を指定してください。



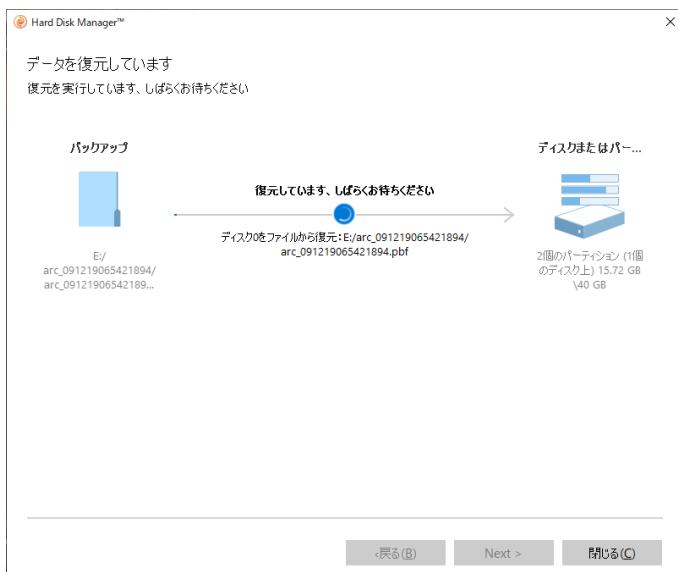
8. 復元する対象と復元先の選択が完了しましたら、「今すぐ復元」をクリックして復元を開始します。



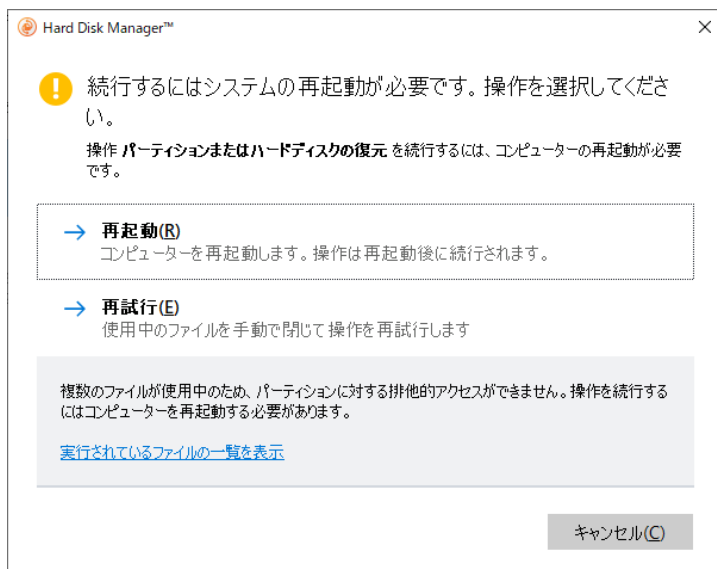
確認ダイアログが表示されますので、「はい」を選択して続行します。



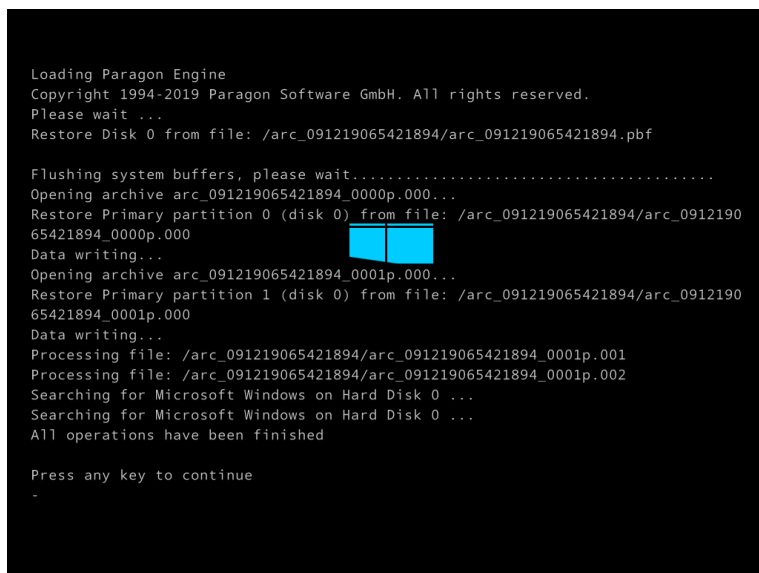
9. 復元操作が開始します。完了後は、「閉じる」をクリックして進捗画面を閉じてください。



10. OSなどの復元時は、以下の再起動要求画面が表示されますので、「再起動」をクリックして続行してください。



再起動後、以下のブルースクリーンモードで復元が行われます。



操作完了後、システムにログインして復元状態を確認してください。

既存のイメージを指定して復元

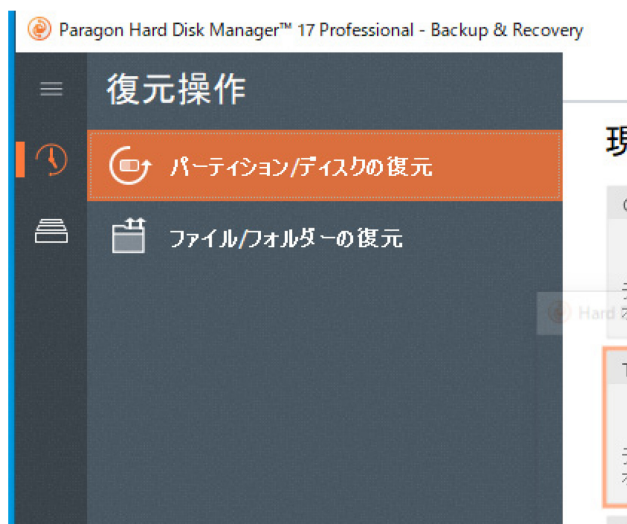
バージョン 16 などの旧バージョン、またはリカバリーメディアから起動時に作成して製品画面のバックアップの一覧に追加されていない pvhd 形式のイメージをウィザード形式で選択して復元するには、以下記載する手順に沿って操作を行います。

※ バージョン 15 までで作成した pbf 形式のイメージはこの画面からは復元できません。「[CD/DVD/BD または PBF からハードディスク・パーティションの復元](#)」記載の手順をご参照ください。

1. 製品を開始し、画面上方の「ファイルから復元」をクリックして選択します。



2. ディスク・パーティション単位のイメージを復元する場合は「パーティション/ディスクの復元」を、ファイル・フォルダー単位のイメージを復元する場合は「ファイル/フォルダーの復元」をそれぞれ画面左側の復元操作メニューからクリックして選択します。



3. 復元するイメージの選択画面が表示されます。



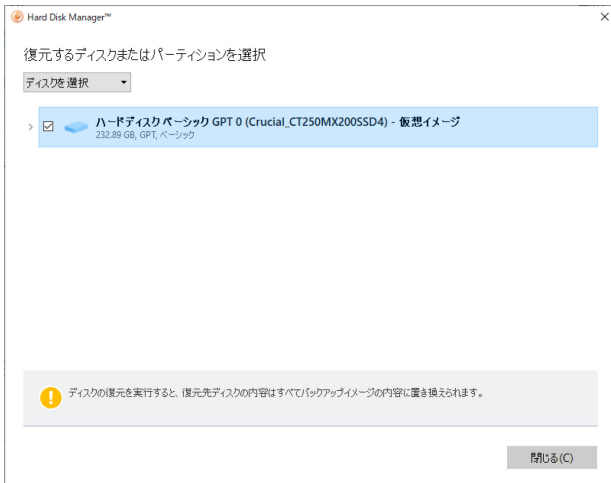
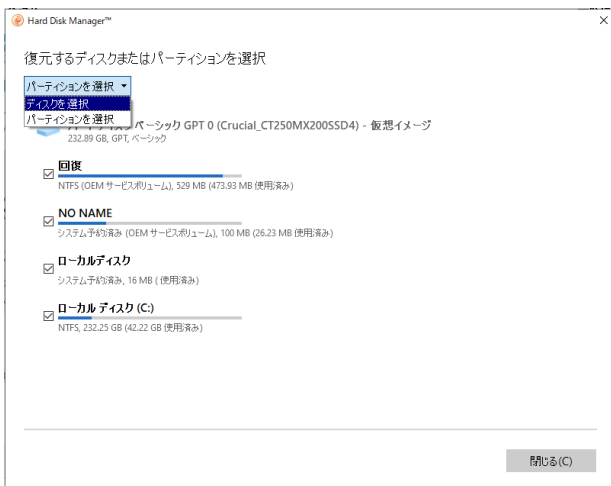
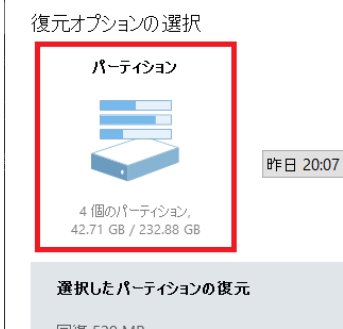
4. ツリービューを開いてイメージが保存されているフォルダーを選択し、「次へ」をクリックします。



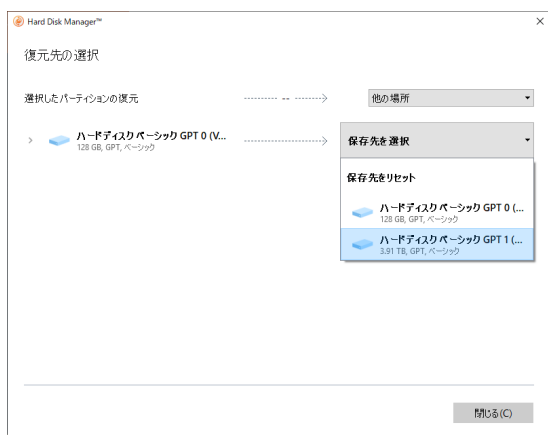
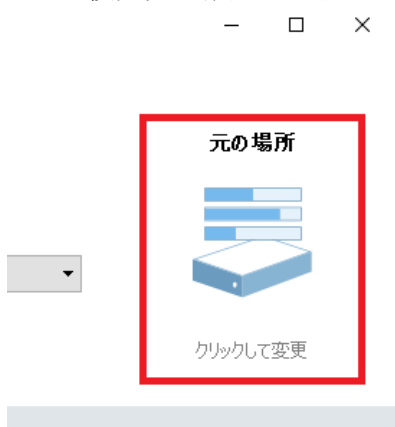
5. 復元する対象と復元先を選択する画面が表示されます。



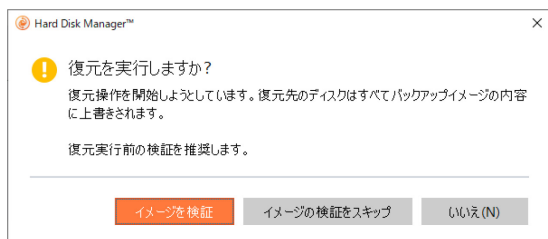
6. 「[バックアップイメージの復元](#)」と同様に、復元対象は標準ではパーティション単位となります。ディスク単位での復元を行う場合は、画面左上の「パーティション」をクリックして表示される別ウィンドウにて、ドロップダウンメニューから「ディスクを選択」へ切り替えてください。



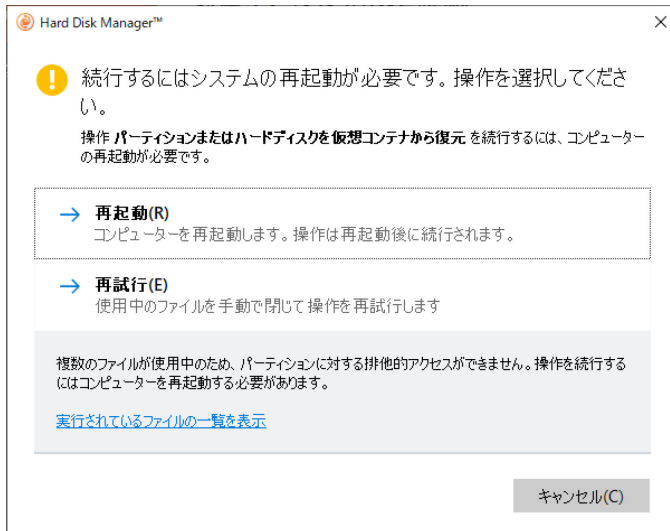
7. 復元先も同様に、標準ではバックアップ対象 (『元の場所』) が指定されています。別のディスク・パーティションへ復元を行う場合は、「元の場所」をクリックし、「復元先の選択」画面内の「元の場所」をクリックして表示されるドロップダウンメニューから「他の場所」へ切り替え、「復元先を選択」ドロップダウンメニューから復元先を指定してください。指定後は、「今すぐ復元」をクリックします。



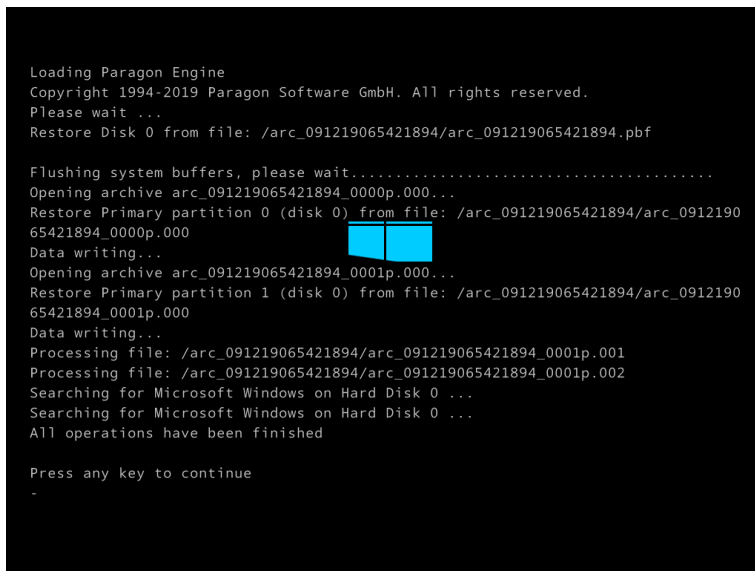
8. 「今すぐ復元」をクリックすると、イメージの整合性チェックの実施を促すダイアログが表示されます。既にイメージの整合性チェックを実施している場合は、「イメージの検証をスキップ」を、実施していない場合は「イメージを検証」をクリックしてください。検証を選択した場合は、整合性チェック完了後に復元が開始されます。



9. OSなどの復元時は、以下の再起動要求画面が表示されますので、「再起動」をクリックして続行してください。



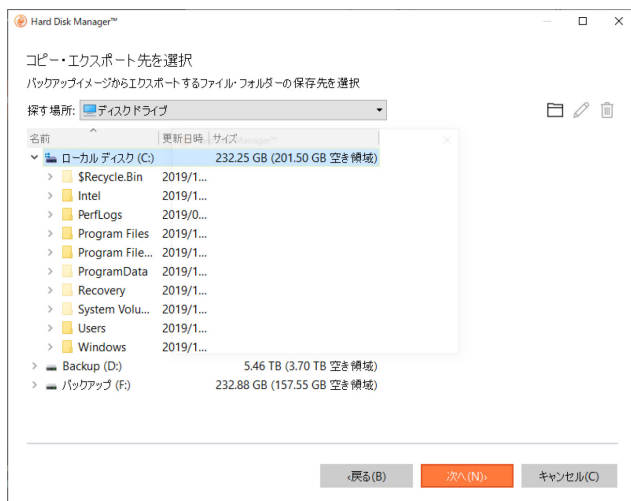
再起動後、以下のブルースクリーンモードで復元が行われます。復元完了後は、システムにログインして復元状態を確認してください。



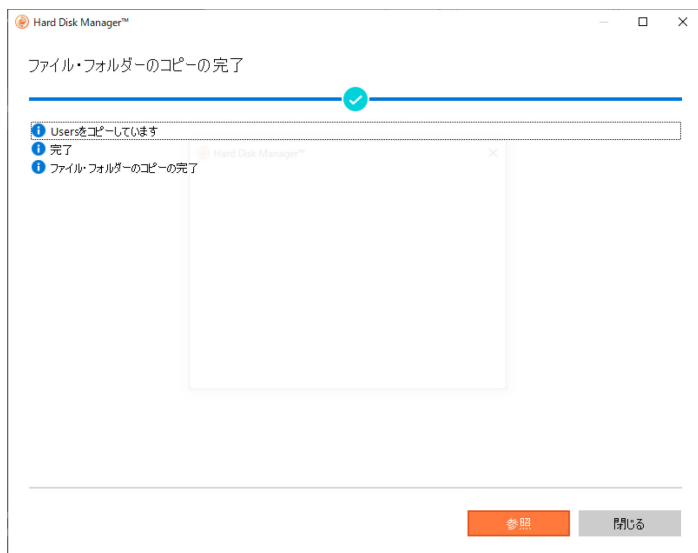
10. ファイル・フォルダー単位のイメージを選択した場合は、復元する対象にチェックを入れて「エクスポート」をクリックします。



11. エクスポート先を指定して「次へ」をクリックします。



12. ファイルのエクスポートが実行されます。操作完了後は「参照」をクリックし、ファイルが指定した場所にエクスポートされていることを確認してください。

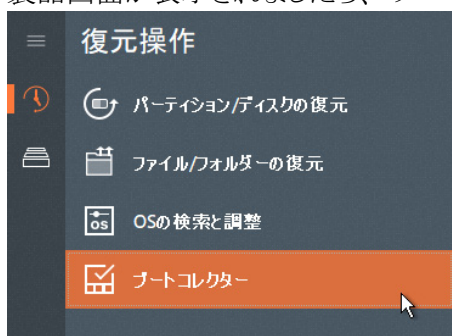


ブートコレクターを使用して OS の起動に関する問題を修正

起動に関する問題が発生して Windows OS が起動しない場合は、リカバリーメディアから起動してブートコレクターを使用し、修復を試行することができます※。リカバリーメディアは、[リカバリーメディアビルダー](#)を使用して作成します。

※すべての環境において修復を保証するものではありません。

1. リカバリーメディアから起動します。
2. 製品画面が表示されましたら、「ブート コレクター」を選択します。

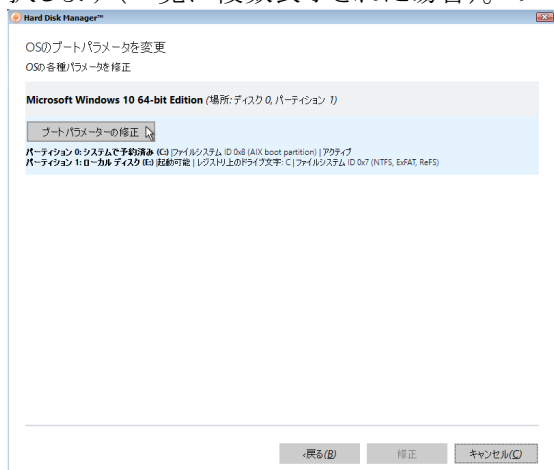


3. 実行する操作を以下の項目からクリックして選択します。

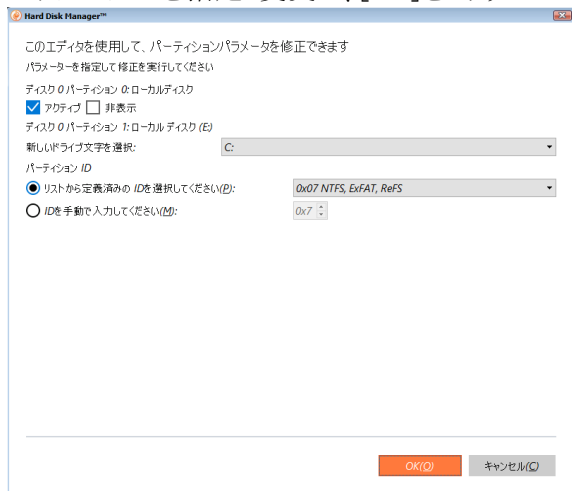


[修正する Windows 環境]

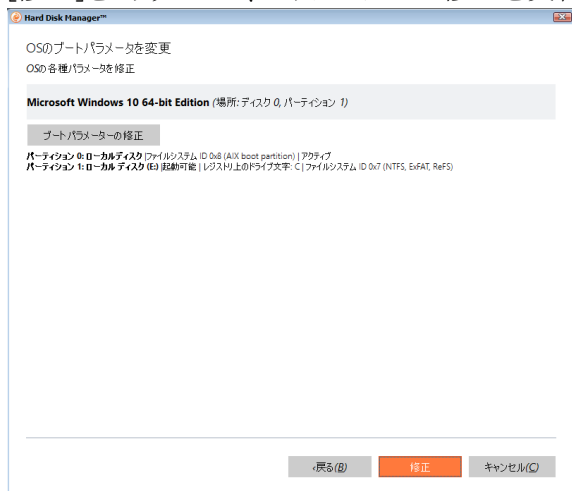
理由がわからず Windows が起動できない場合は、この操作を選択して Windows の起動機能を修正してください。検出したインストールしている Windows の一覧から、起動に失敗した Windows インストールを選択します（一覧に複数表示された場合）。「ブートパラメーターの修正」をクリックします。



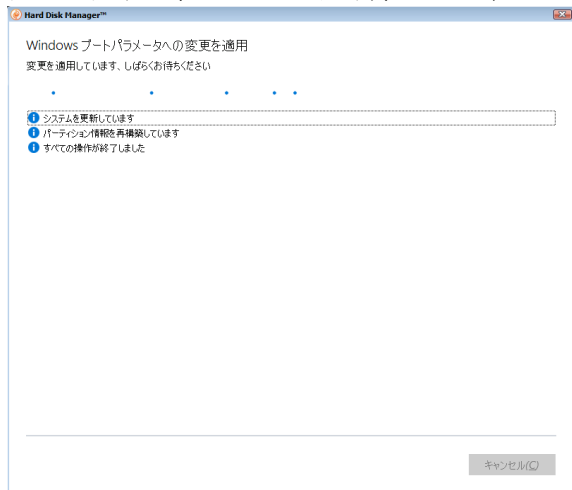
パラメーターを指定・変更し、[OK]をクリックしてください。



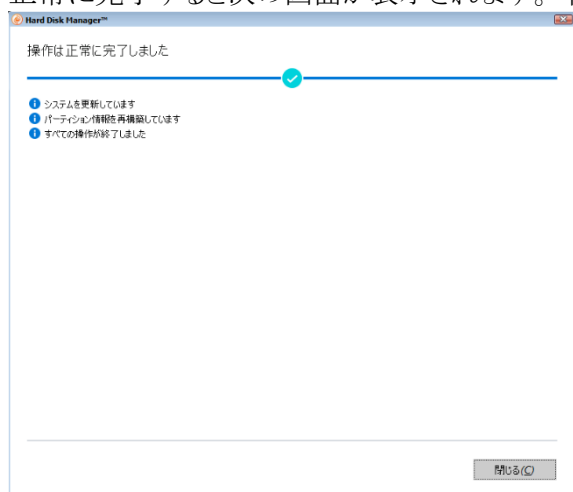
[修正]をクリックして、パラメーターの修正を実行します。



修正を実行し、システムを更新、パーティション情報を再構築します。



正常に完了すると次の画面が表示されます。「閉じる」をクリックしてウィンドウを閉じてください。

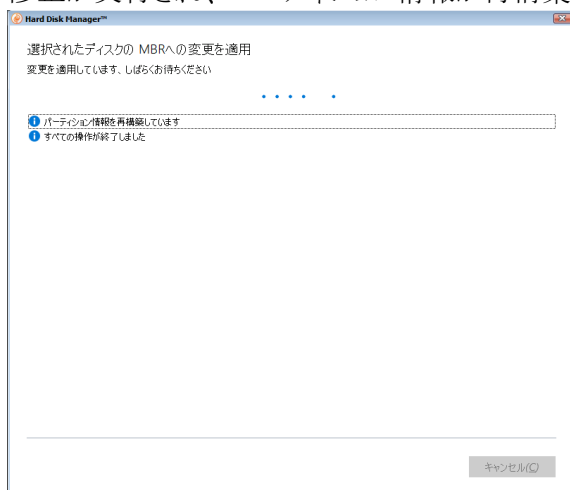


[マスターブートレコード(MBR)の修正]

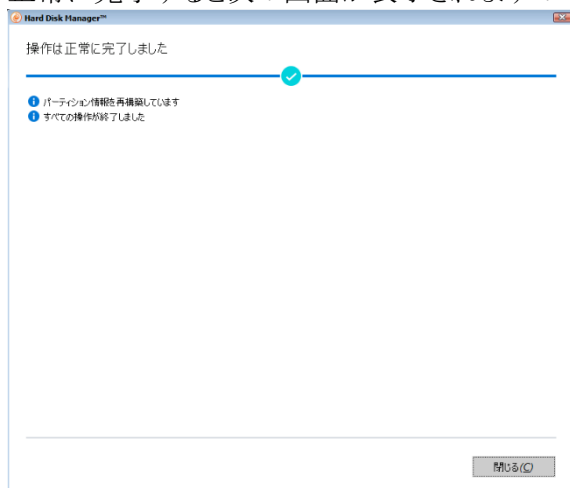
このオプションを使用すると、現在の MBR(マスターブートレコード)のブータブルコードを標準ブートストラップコードに上書きし、ブートウィルス攻撃またはブート管理ソフトウェアの機能不全など破損されたブート可能コードを修復します。修正したい MBR 形式のディスクにチェックを入れ、[修正]をクリックします。



修正が実行され、パーティション情報が再構築されます。

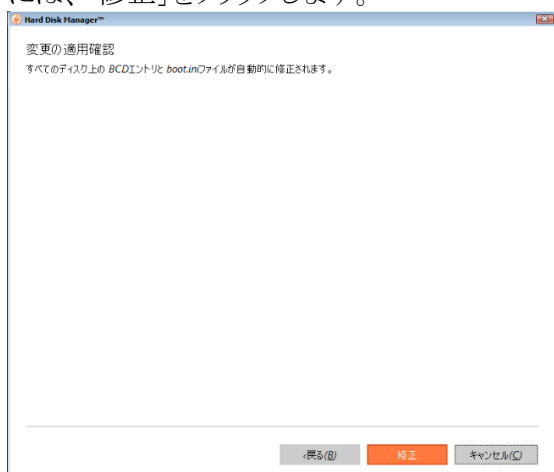


正常に完了すると次の画面が表示されますので、「閉じる」をクリックしてウィンドウを閉じてください。

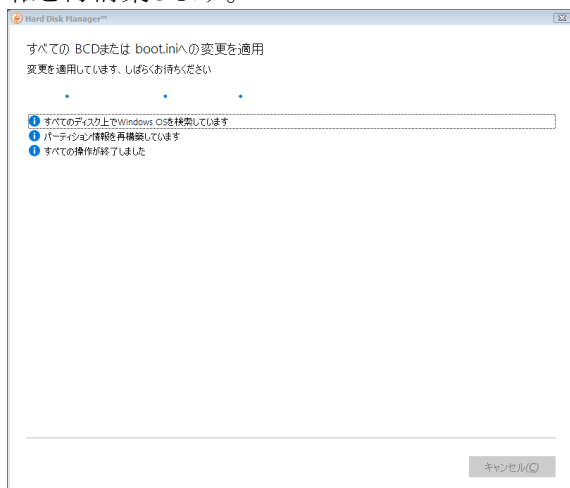


[ブートパラメーター(boot.ini, BCD)の修正]

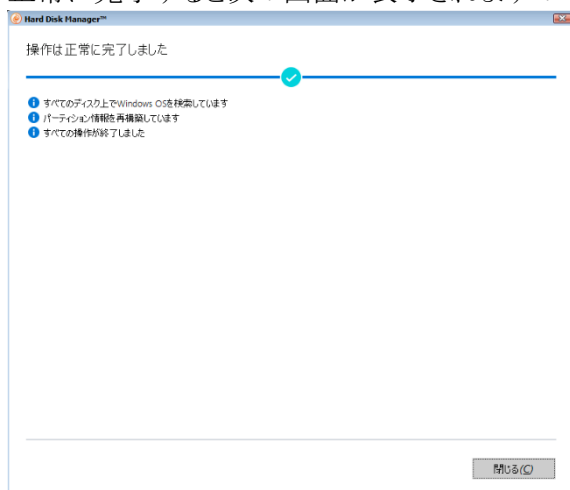
BCD ファイルの破損などにより、OS が起動できない場合はこのオプションを選択します。修正を続行するには、「修正」をクリックします。



BCD ファイルへの修正が実行されます。すべてのディスク上で Windows OS を検索し、パーティション情報を再構築します。

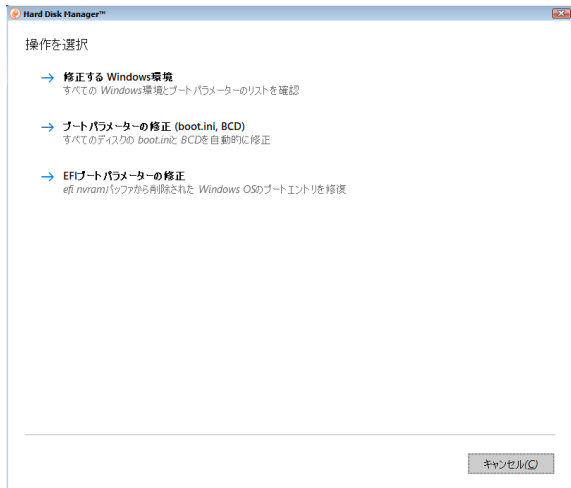


正常に完了すると次の画面が表示されますので、「閉じる」をクリックしてウィンドウを閉じてください。

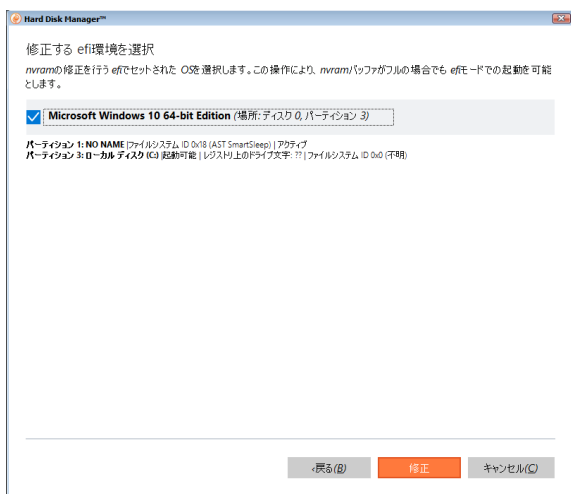


[EFI ブートパラメーターの修正]

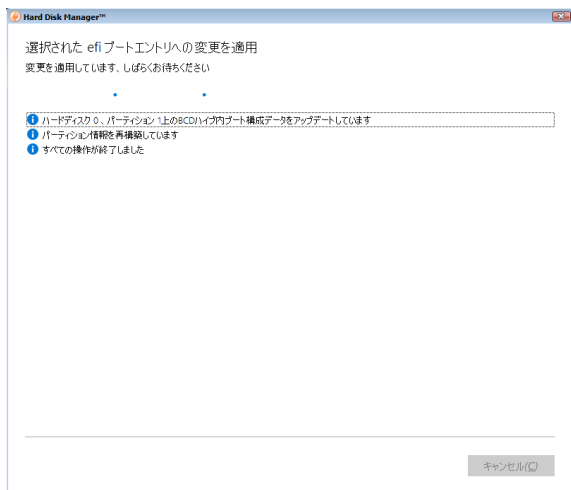
64 ビット OS がインストールされた EFI ブート環境では、このメニューが表示されます。



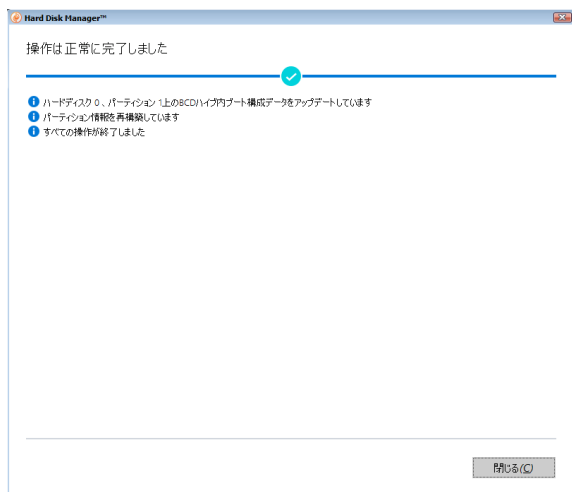
修正を行いたい Windows OS にチェックを入れ、[修正]をクリックします。



修正が実行されます。ブート構成データをアップデートし、パーティション情報が再構築されます。



正常に完了すると次の画面が表示されますので、「閉じる」をクリックしてウィンドウを閉じてください。

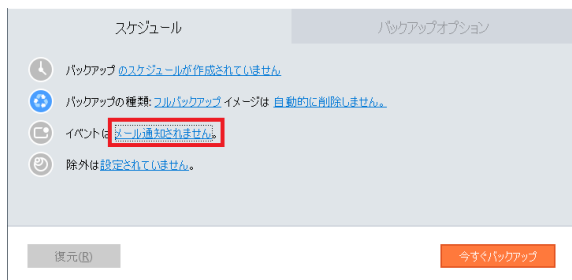


5. ブートコレクターを実行し、操作が完了したら、リカバリーメディアをコンピューターから取り出し再起動してください。

バックアップ結果をメールで通知する設定

バックアップの結果をメールで通知することができます。

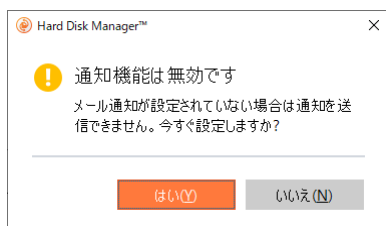
1. 「バックアップの作成」を手順(11)まで進めると、「スケジュール」タブに以下の項目が表示されますので、「メール通知されません」をクリックします。



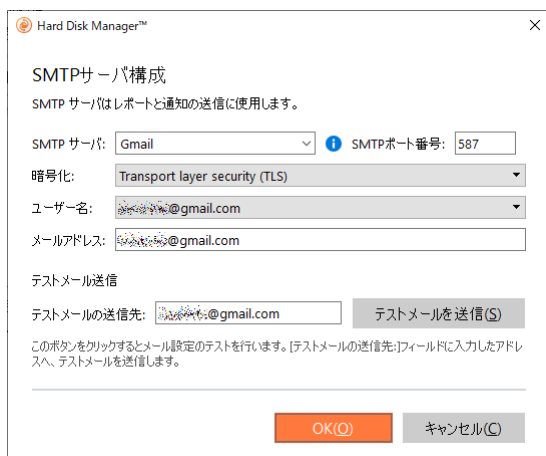
2. バックアップの通知ウィンドウが表示されます。「通知メールを送信」にチェックを入れ、テキストボックスにメールアドレスを入力してください。複数のメールアドレスに通知する場合は、Enter キーを押下して改行してから入力してください。通知する時は、「操作失敗時のみ通知する」、または「すべての操作結果を通知する」のどちらかを選べます。「OK」ボタンをクリックしてください。



3. 「設定」にある「メール設定」をしていないと、「通知機能は無効です」という画面を表示します。「はい」をクリックしてメール設定を行ってください。



4. 「SMTP サーバ構成」画面が表示されます。まずは「SMTP サーバ」項目から選択・入力してください。



「SMTP サーバ」

Gmail、Mail.ru、Outlook.com、Rambler、Yahoo、Yandex から選択できます。なお、Yahoo の設定は Yahoo.com の設定になります。Yahoo.co.jp や他のメールアドレスを使用したい場合は、「SMTP サーバ」に SMTP サーバ名を入力してください。

「SMTP ポート」

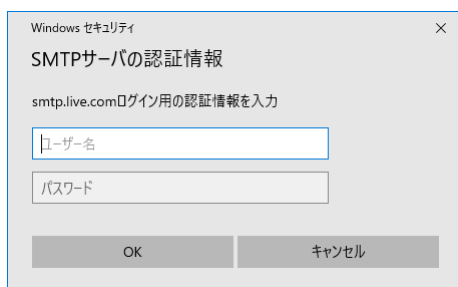
SMTP サーバで使用する SMTP ポートを入力してください。SMTP サーバを選択した場合、自動で設定されますが、Outlook.com を選択した場合、「25」が設定されますが「587」に変更してください。

「暗号化」

暗号化なし、Secure socket layer(SSL)、Transport layer security(TLS)から選択できます。

「ユーザー名」

「SMTP サーバの認証情報が設定されていません」と表示されている場合は「認証情報を構成」を選ぶと以下の「SMTP サーバの認証情報」画面が表示されますので、SMTP を使用するためのユーザー名とパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。



「メールアドレス」

送信者のメールアドレスを入力してください。

「テストメール送信」

「テストメールの送信先」に送信先メールアドレスを入力し、「テストメールを送信」ボタンを押してください。

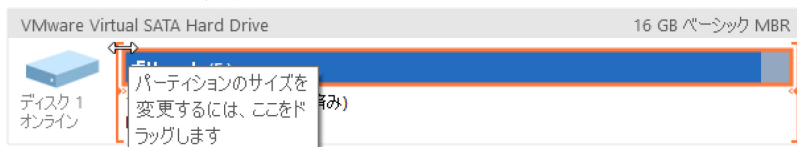
5. 設定が完了し、「テストメール送信」で送信し、受信の確認ができれば、バックアップを行ってください。「通知メールを送信」に入力したメールアドレス宛に以下のようなメールが送信されます。



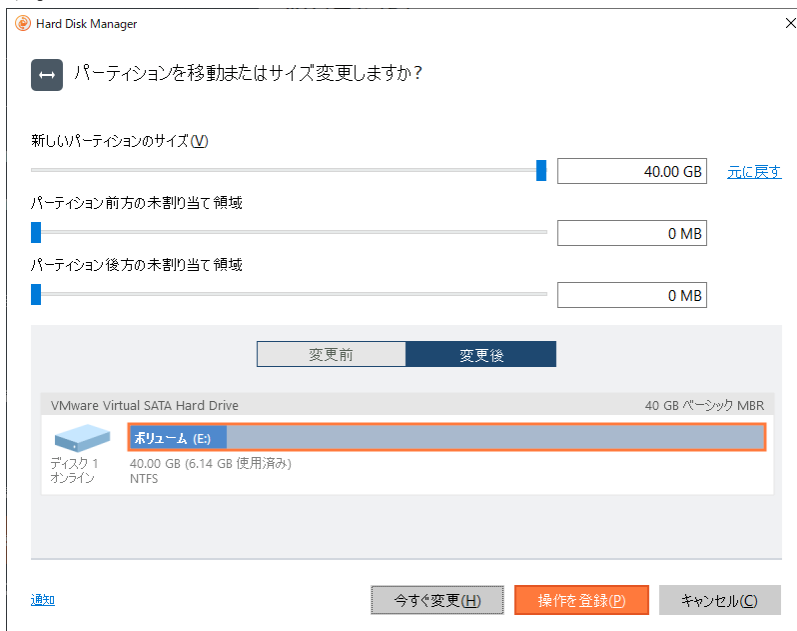
パーティションとディスクの管理

パーティションの移動/サイズ変更

1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップより変更したいパーティションをクリックして選択し、操作パネルにある「移動またはサイズ変更」をクリックします。または、ディスクマップの変更したいパーティションの境界をドラッグして、パーティションのサイズと位置を変更します。



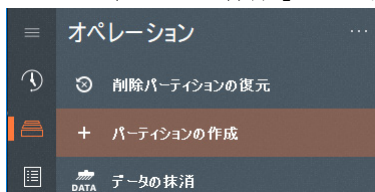
3. パーティションを移動・サイズ変更する画面が表示されますので、「新しいパーティションのサイズ」、「パーティション前方の未割り当て領域」、「パーティション後方の未割り当て領域」をスライダーまたはサイズを MB 単位の値を設定してください。ディスクマップは下部に表示され、変更前・変更後に切り替えできます。



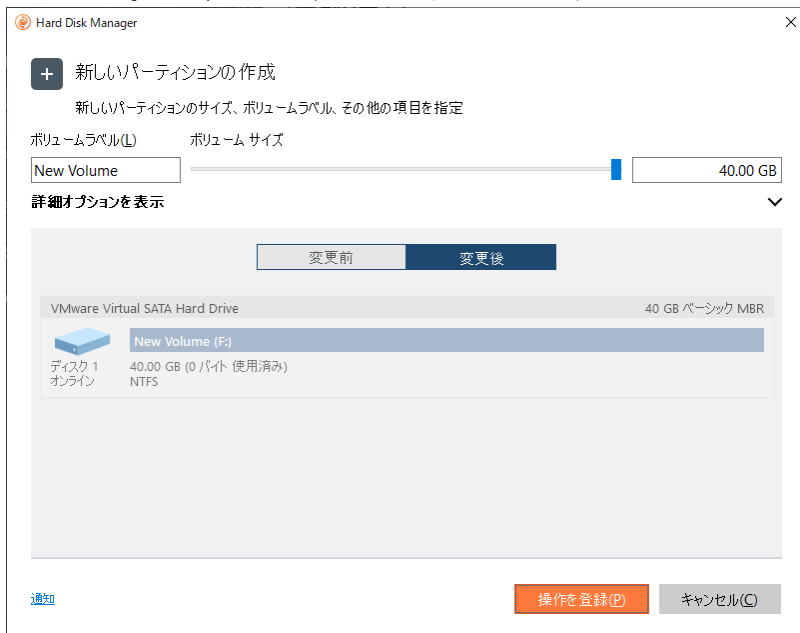
4. 「今すぐ変更」をクリックすると、パーティション操作を実行します。「操作を登録」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。

パーティションの作成

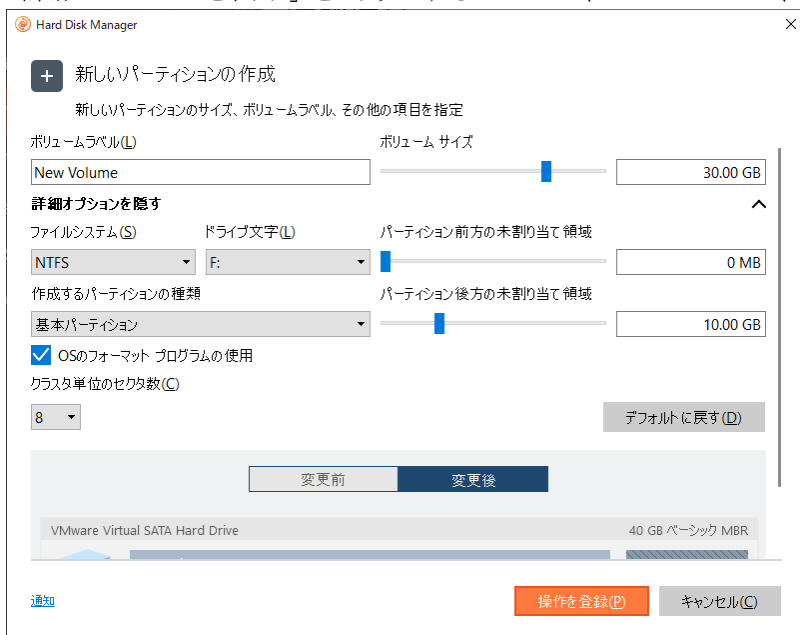
1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップよりパーティションを作成したい未割り当て領域をクリックして選択し、操作パネルにある「パーティションの作成」をクリックします。



3. 新しいパーティションの作成画面が表示されます。「ボリュームサイズ」をスライダーまたは数値で入力してください。また、パーティションを識別できるようにボリュームラベルを入力できます。



4. 「詳細オプションを表示」をクリックするとパーティションプロパティを変更できます。



- ファイルシステム: データを作成したパーティションに保存するには、各 OS が対応しているファイルシステムでフォーマットします:

- FAT32 - 32GB 以下のデータディスクで使用
- NTFS - Windows OS 用の主要なファイルシステム
- Linux Ext 2/3/4 - Linux OS の主要なファイルシステム
- Apple HFS - Mac OS X の主要なファイルシステム
- Resilient FS 1.2/3 - Windows Server 2012 以降の新ファイルシステム

ドライブ文字:現在のドライブ文字をクリックしてリストからドライブ文字を選択して、パーティションに割り当てます。ドライブ文字はハードディスクドライブなどの記憶領域を識別するために割り当てるアルファベットのことで

- 作成するパーティションの種類:パーティションタイプ(基本パーティション、論理パーティション)を選択します。選択肢は、選択した「(未割り当て)」に依存します。プライマリブロック内では、基本パーティションまたは拡張パーティションのどちらかを作成できます。拡張パーティション内では、論理パーティションのみを作成できます。
- パーティション前方の未割り当て領域、パーティション後方の未割り当て領域:パーティションの位置を設定します。MB 単位の値を設定できます。
- クラスタ単位のセクタ数:デフォルトは使用している OS と選択されたファイルシステムに従って指定されます。値を変更する場合は、クラスタ単位のセクタ数のリストから選択します。クラスタのサイズは、ファイルシステムの重要なパラメーターの 1 つです。その値はファイルシステムのメタデータのサイズを定義するため、ファイルの入出力アクティビティのパフォーマンスに影響します。クラスタはファイル保存の最小単位のため、小さなファイルでもディスク上のサイズは 1 クラスタ分を使用します。
- 「今すぐ変更」をクリックすると、パーティション操作を実行します。「操作を登録」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。

パーティションのフォーマット

ここでは既存のパーティションをフォーマットする方法を説明します。

1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップよりフォーマットしたいパーティションをクリックして選択し、操作パネルにある「パーティションのフォーマット」をクリックします。



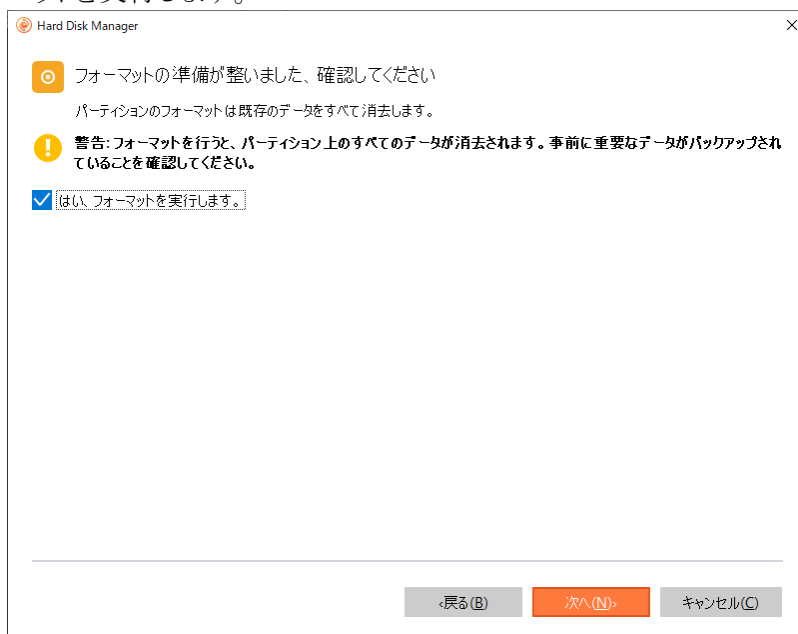
3. ファイルシステムのリストから新しく使用するファイルシステムを選び、ボリュームラベルを入力します。
 - FAT32 - 32GB 以下のデータディスクで使用
 - NTFS - Windows OS 用の主要なファイルシステム
 - Linux Ext 2/3/4 - Linux OS の主要なファイルシステム
 - Apple HFS - Mac OS X の主要なファイルシステム
 - Resilient FS 1.2/3 - Windows Server 2012 以降の新ファイルシステム



4. 「詳細オプションを表示」をクリックすると、「クラスタ単位のセクタ数」の値を変更できます。クラスタのサイズは、ファイルシステムの重要なパラメーターの 1 つです。その値はファイルシステムのメタデータのサイズを定義するため、ファイルの入出力アクティビティのパフォーマンスに影響します。クラスタはファイル保存の最小単位のため、小さなファイルでもディスク上のサイズは 1 クラスタ分を使用します。



5. 「今すぐフォーマット」をクリックすると、パーティションには、フォーマット後に失われるデータが含まれている可能性があるため、「はい、フォーマットを実行します。」をチェックして、「次へ」をクリックしてフォーマットを実行します。



パーティションの削除

ここでは既存のパーティションを削除する方法を説明します。

1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップより削除したいパーティションをクリックして選択し、操作パネルにある「パーティションの削除」をクリックします。



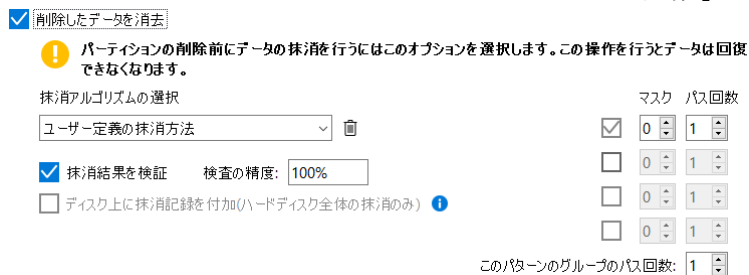
3. パーティションを削除画面が表示されます。「削除したデータを消去」をチェックするとパーティション内に記録されていたデータを復元できないようにデータ抹消も行います。



- 「今すぐ削除」をクリックすると、パーティションの削除操作を実行します。「操作を登録」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。

「削除したデータを消去」にチェックを入れると「抹消アルゴリズムの選択」を選択できます。それぞれの抹消方式の詳細は、アルゴリズム選択の右に表示される (i) アイコンをクリックし、表示される解説をご覧ください。

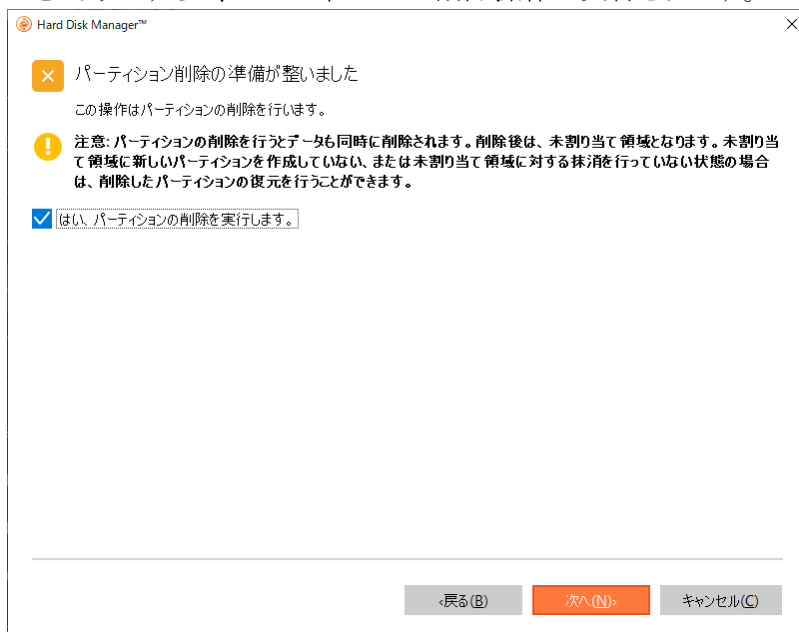
「新しいユーザー定義の抹消方法」を選択した場合、名前は「ユーザー定義の抹消方法」となるので独自の名前に変更してください。チェックボックスでアクティブにすると「マスク」で指定した値がセクタに書き込まれ、「パス回数」で上書きする回数を指定し、この 2 項目の組み合わせを 1 セットとなります。4 セットまでのグループを「このパターンのグループのパス回数」で指定した回数分をセクタに書き込みます。



「抹消結果を検証する」では指定した割合のセクタに対してのみ抹消結果を検証することができます。検

査の対象となる割合を下げることで検証にかかる時間を短縮することができます。

4. 「今すぐ削除」をクリックすると、選択したパーティションにデータが含まれている可能性があるため、操作を確認する必要があります。「はい、パーティションの削除を実行します。」にチェックをして「次へ」ボタンをクリックすると、パーティションの削除操作が実行されます。



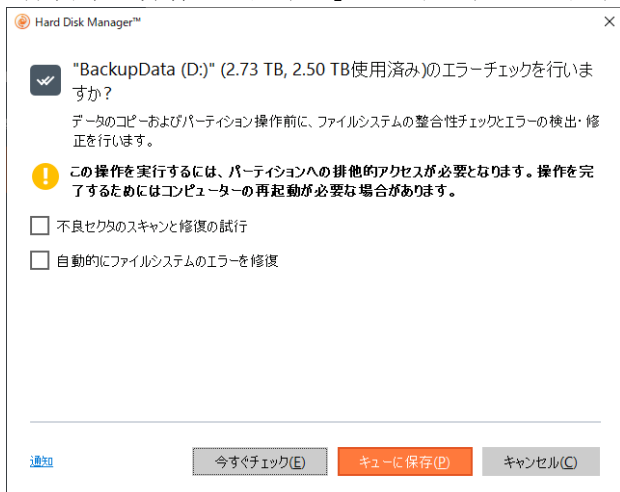
ファイルシステムをチェック

注意: このファイルシステムチェックツールを使用しても問題が修正されない場合があります。その場合は、[チェックディスクを実行](#)してください。

1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりファイルシステムチェックをしたいパーティションをクリックします。表示されるメニュー内の「ファイルシステムをチェック」をクリックします。



3. ファイルシステムチェックの設定画面が表示されます。各オプションを指定後、「今すぐチェック」をクリックすると、ファイルシステムチェック操作を実行します。「キューに保存」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。

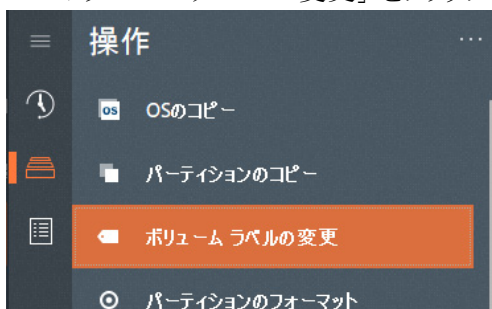


4. 「キューに保存」をクリックすると、ツール画面に戻ります。ファイルシステムチェック操作の実行は、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。また、各オプションを指定してシステムパーティションにチェックを実行した際に再起動要求が表示される場合は、「再起動」をクリックして操作を続行してください。

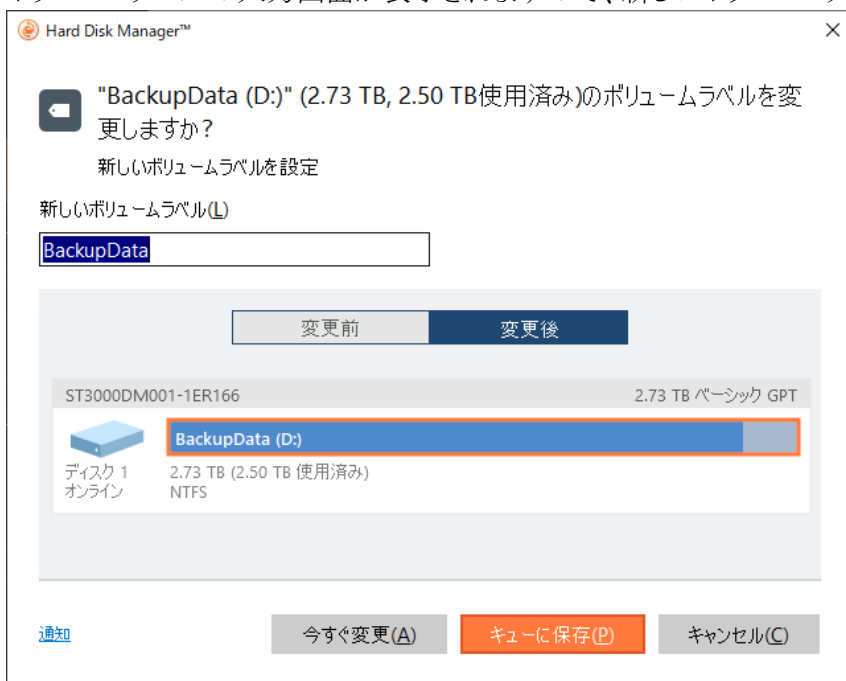


ボリュームラベルの変更

1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりボリュームラベルを変更したいパーティションをクリックします。表示されるメニュー内の「ボリューム ラベルの変更」をクリックします。



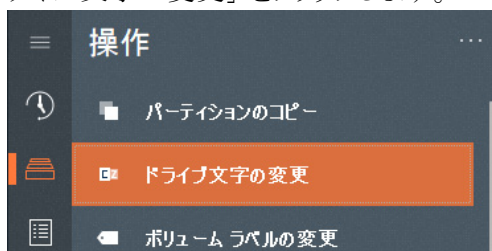
3. ボリュームラベルの入力画面が表示されますので、新しいボリュームラベルにラベル名を入力します。



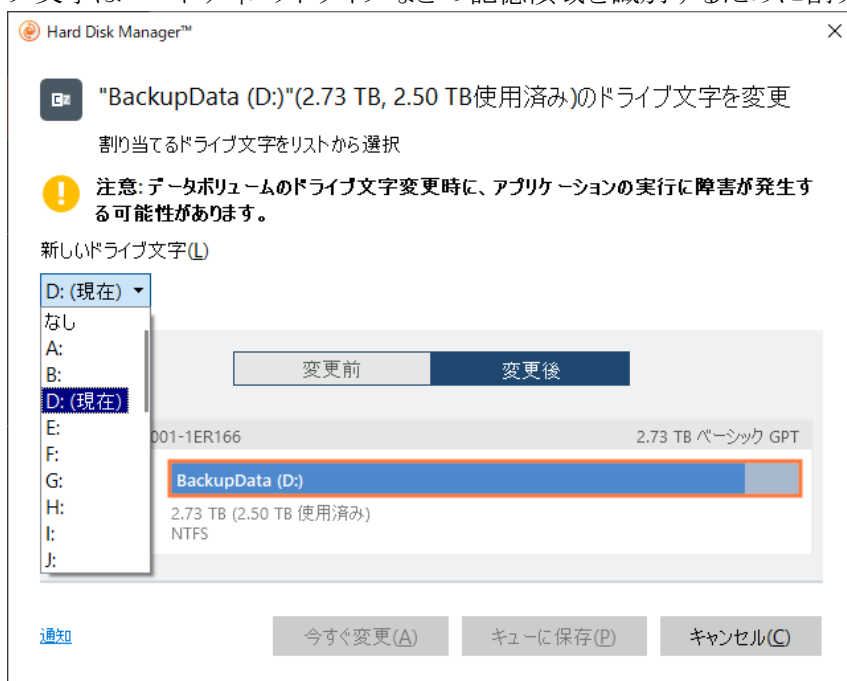
4. 「今すぐ変更」をクリックすると、ボリュームラベルの変更操作を実行します。「キューに保存」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。

ドライブ文字の変更

1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりドライブ文字を変更したいパーティションをクリックします。表示されるメニュー内の「ドライブ文字の変更」をクリックします。



3. 現在のドライブ文字をクリックしてリストを表示します。リストから変更するドライブ文字を選択します。ドライブ文字はハードディスクドライブなどの記憶領域を識別するために割り当てるアルファベットのことです。



4. 「今すぐ変更」をクリックすると、ボリュームラベルの変更操作を実行します。「キューに保存」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。



システムパーティションのドライブ文字を変更すると Windows が起動しなくなります。
一部のプログラムは、データパーティションのドライブ文字を変更すると正しく動作しなくなることがあります。

MBR/GPT ディスクへ変換

1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上より MBR/GPT ディスクに変換したいディスクをクリックします。表示されるメニュー内の「MBR から GPT 形式へ変換」をクリックします。



選択したディスクが GPT の場合は、「GPT から MBR ディスクへ変換」が表示されます。



3. 「GPT ディスクへ変換」/「MBR ディスクへ変換」をクリックすると警告画面が表示されますので、注意事項を確認してください。なお、2 つ以上のパーティションがある GPT ディスクを MBR へ変換する場合、基本パーティションの数を指定する必要があります。指定した数の残りのパーティションは論理パーティションへ変換されます。5 つ以上パーティションがある場合は、デフォルトでは3つの基本パーティションと1つの拡張パーティションの中に2つ以上の論理パーティションという構成にします。



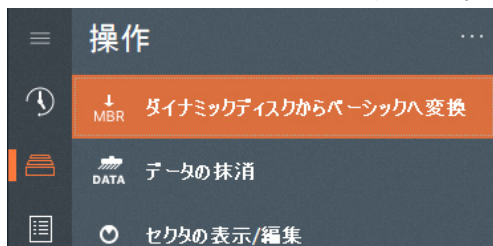
システムドライブを変換すると、Windows が起動できなくなりますので変換は行わないでください。

4. 「今すぐ変換」をクリックすると、MBR/GPT ディスクへ変換操作を実行します。「キューに保存」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。

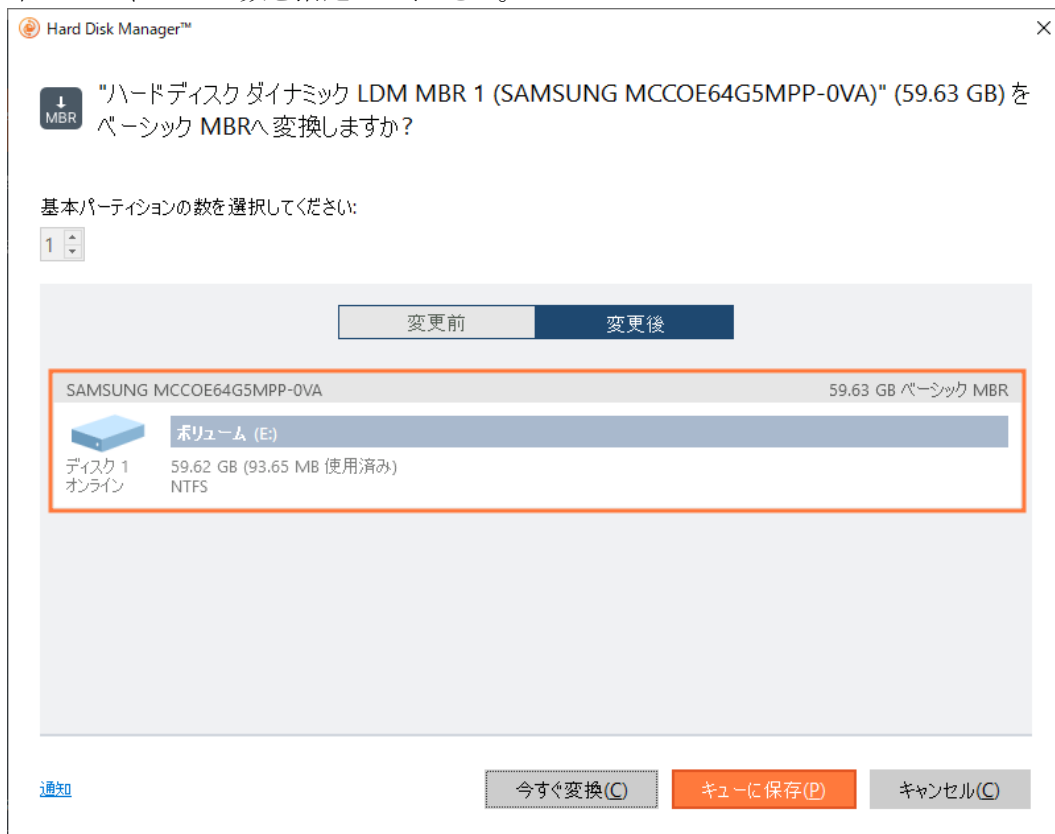
ダイナミックディスクをベーシック MBR ディスクへ変換

(注意)変換できるダイナミックディスクはシンプルボリュームのダイナミックディスクのみとなります。また、2TB 以下のダイナミックMBR/GPT ハードディスクをベーシックMBR ハードディスクに変換できます。2TB 以上のダイナミックGPT ハードディスクには対応しておりません。

1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりダイナミックディスクからベーシックへ変換したいディスクをクリックします。表示されるメニュー内の「MBR から GPT 形式へ変換」をクリックします。



3. 変換ダイアログが表示されます。ベーシックディスク上に2つ以上のパーティションが存在する場合は、基本パーティションの数を指定してください。



システムドライブを変換すると、Windows が起動できなくなりますので変換は行わないでください。

4. 「今すぐ変換」をクリックすると、ダイナミックディスクからベーシックへ変換操作を実行します。「キューに保存」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。

セクタの表示/編集

1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりのセクタを表示 / 編集したいディスクまたはパーティションをクリックします。表示されるメニュー内の「セクタの表示/編集」をクリックします。



3. セクタの編集画面が表示されます。

この操作では、ディスクまたは個別のボリュームのセクタを変更、指定したセクタのバックアップと復元、システムメタデータの表示が行えます。

警告: 誤った操作を行えばデータ・パーティションが破損しますのでご注意ください。

セクタの参照 セクタ番号:

ヘクス エディタ 0 << < > >> 元に戻す(U) やり直し(D)

0x00000000	00000000	33 c0 8e d0 bc 00 7c 8e c0 8e d8 be 00 7c bf 00	3.....
0x00000000	00000010	06 b9 00 02 fc f3 a4 50 68 1c 06 cb fb b9 04 00Ph.....
0x00000000	00000020	bd be 07 80 7e 00 00 7c 0b 0f 85 0e 01 83 c5 10
0x00000000	00000030	e2 f1 cd 18 88 56 00 55 c6 46 11 05 c6 46 10 00V.U.F.....F.....
0x00000000	00000040	b4 41 bb aa 55 cd 13 5d 72 0f 81 fb 55 aa 75 09A.....U.....r.....U.....u.....
0x00000000	00000050	f7 c1 01 00 74 03 fe 46 10 66 60 80 7e 10 00 74t.....F.....f.....t.....
0x00000000	00000060	26 66 68 00 00 00 00 66 ff 76 08 68 00 00 68 00	&fh.....f.v.h.h.....h.....
0x00000000	00000070	7c 68 01 00 68 10 00 b4 42 8a 56 00 8b f4 cd 13	h.....h.....B.V.....
0x00000000	00000080	9f 83 c4 10 9e eb 14 b8 01 02 bb 00 7c 8a 56 00V.....
0x00000000	00000090	8a 76 01 8a 4e 02 8a 6e 03 cd 13 66 61 73 1c fe	v.....N.....n.....fas.....
0x00000000	000000A0	4e 11 75 0c 80 7e 00 80 0f 84 8a 00 b2 80 eb 84	N.....u.....
0x00000000	000000B0	55 32 e4 8a 56 00 cd 13 5d eb 9e 81 3e fe 7d 55	U2.....V.....>U.....
0x00000000	000000C0	aa 75 6e ff 76 00 e8 8d 00 75 17 fa b0 d1 e6 64	un.v.....u.....
0x00000000	000000D0	e8 83 00 b0 df e6 60 e8 7c 00 b0 ff e6 64 e8 75d.u.....
0x00000000	000000E0	00 fb b8 00 bb cd 1a 66 23 c0 75 3b 66 81 fb 54f#u:f:T.....
0x00000000	000000F0	43 50 41 75 32 81 f9 02 01 72 2c 66 68 07 bb 00	CPAu2.....r.fh.....
0x00000000	00000100	00 66 68 00 02 00 00 66 68 08 00 00 00 66 53 66	fh.....fh.....fSf.....
0x00000000	00000110	53 66 55 66 68 00 00 00 66 68 00 7c 00 00 66	SfUfh.....fh..... f.....
0x00000000	00000120	61 68 00 00 07 cd 1a 5a 32 f6 ea 00 7c 00 00 cd	ah.....Z2.....
0x00000000	00000130	18 a0 b7 07 eb 08 a0 b6 07 eb 03 a0 b5 07 32 e42.....
0x00000000	00000140	05 00 07 8b f0 ac 3c 00 74 09 bb 07 00 b4 0e cd<t.....
0x00000000	00000150	10 eb f2 f4 eb fd 2b c9 e4 64 eb 00 24 02 e0 f8+d.....\$.....
0x00000000	00000160	24 02 c3 49 6e 76 61 6c 69 64 20 70 61 72 74 69	\$..Invalid parti...
0x00000000	00000170	74 69 6f 6e 20 74 61 62 6c 65 00 45 72 72 6f 72	tion table.Error
0x00000000	00000180	20 6c 6f 61 64 69 6e 67 20 6f 70 65 72 61 74 69	loading operati...
0x00000000	00000190	6e 67 20 73 79 73 74 65 6d 00 4d 69 73 73 69 6e	ng system.Missin...
0x00000000	000001A0	9f 20 6f 70 65 72 61 74 69 6e 67 20 73 79 73 74	g operating syst...
0x00000000	000001B0	65 6d 00 00 00 63 7b 9a 57 b1 c7 d2 bf 66 00 20	em...c{W...f.....
0x00000000	000001C0	21 00 07 fe ff ff 00 08 00 00 00 f8 73 07 00 00	!.....c{W...f.....
0x00000000	000001D0	00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
0x00000000	000001E0	00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
0x00000000	000001F0	00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 55 aaU.....
0x00000000	00000200	00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
0x00000000	00000210	00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
0x00000000	00000220	00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
0x00000000	00000230	00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
0x00000000	00000240	00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00

更新(B) 変更を保存(S) バックアップ(B) 復元(E) 閉じる(C)

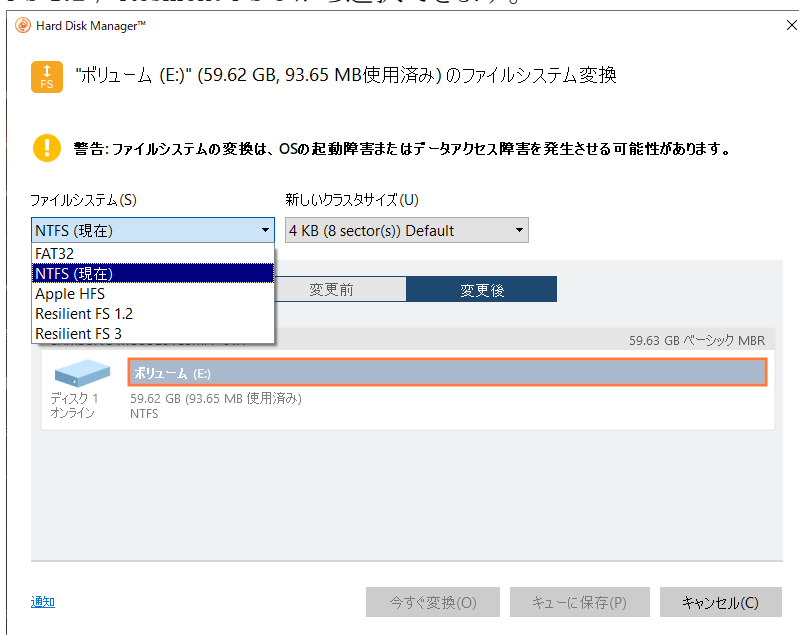
4. この画面を使用したセクタの編集には重大な問題が発生するリスクがございますので、ハードディスク・パーティションの構造に精通したユーザーの方以外の操作はお控えください。

パーティションのファイルシステム変換

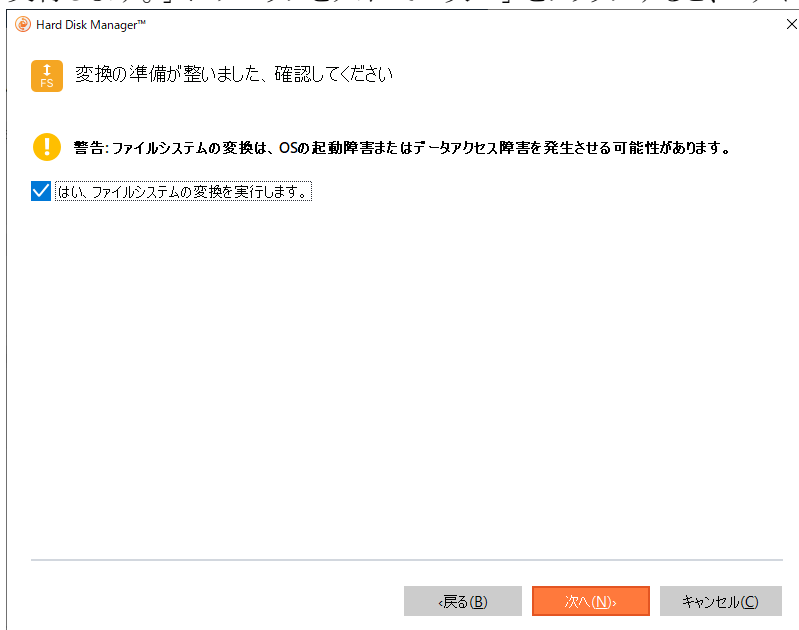
1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりのファイルシステムを変換したいパーティションをクリックします。表示されるメニュー内の「ファイルシステムの変換」をクリックします。



3. 変換設定画面が表示されます。変換できるファイルシステムは、FAT32 / NTFS / Apple HFS / Resilient FS 1.2 / Resilient FS 3 から選択できます。



4. ファイルシステムの変換について、以下のダイアログが表示されるので「はい、ファイルシステムの変換を実行します。」にチェックを入れて「次へ」をクリックすると、ファイルシステムの変換操作を実行します。

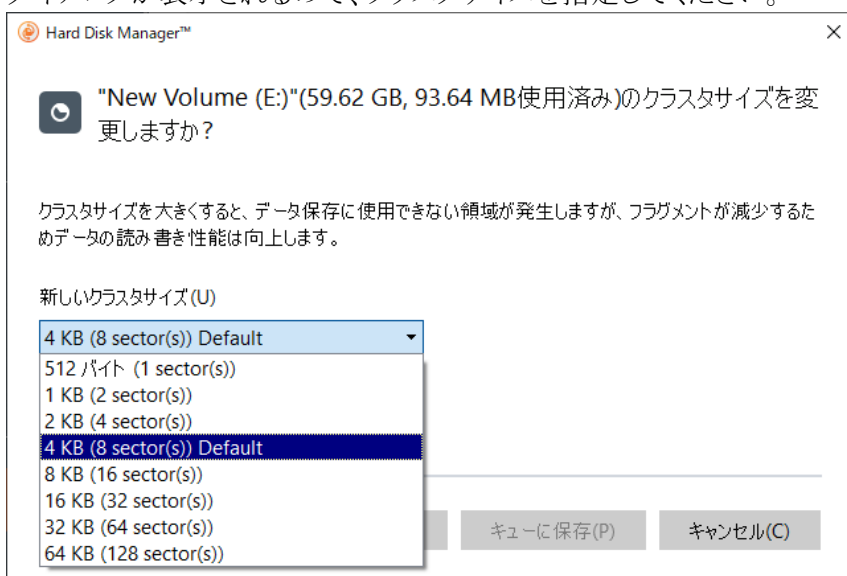


クラスタサイズの変更

1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりのクラスタサイズを変更したいパーティションをクリックします。表示されるメニュー内の「クラスタサイズの変換」をクリックします。



3. ダイアログが表示されるので、クラスタサイズを指定してください。



4. 「今すぐ変更」をクリックすると、クラスタサイズの変更操作を実行します。「キューに保存」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。

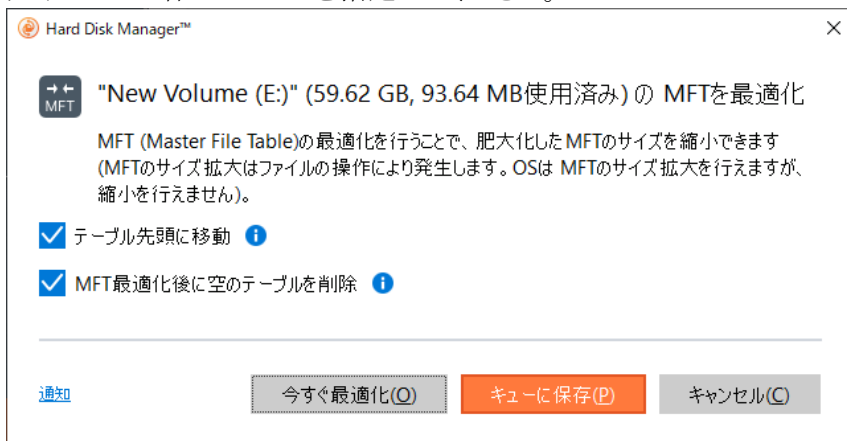
MFT の最適化

注意: このツールはパーティションに極めて重大な影響を与える場合があります。ツールの実行前には、必ず操作するパーティションの**バックアップを作成**してください。また、事前に**リカバリーメディアの作成**を推奨します。

1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりの MFT の最適化を行いたい NTFS フォーマットのパーティションをクリックします。表示されるメニュー内の「MFT の最適化」をクリックします。



3. ダイアログで各オプションを指定してください。



4. 「今すぐ最適化」をクリックすると、MFT の最適化操作を実行します。「キューに保存」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。また、システムパーティションに最適化を実行した際に再起動要求が表示される場合は、「再起動」をクリックして操作を続行してください。



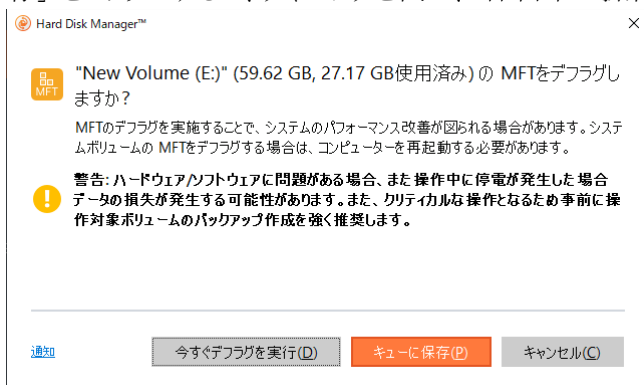
MFT のデフラグ

注意: このツールはパーティションに極めて重大な影響を与える場合があります。ツールの実行前には、必ず操作するパーティションの**バックアップを作成**してください。また、事前に**リカバリーメディアの作成**を推奨します。

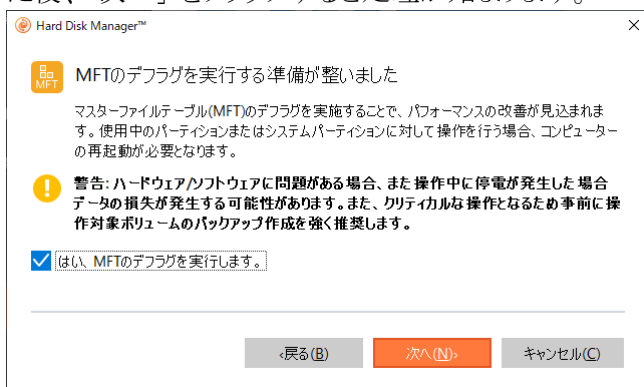
1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりの MFT のデフラグを行いたい NTFS フォーマットのパーティションをクリックします。表示されるメニュー内の「MFT のデフラグ」をクリックします。



3. ダイアログの「今すぐデフラグを実行」をクリックすると、MFT のデフラグ操作を実行します。「キューに保存」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。



4. 「今すぐデフラグを実行」をクリックすると、確認ダイアログを表示します。チェックボックスにチェックを入れた後、「次へ」をクリックすると処理が始まります。



5. システムパーティションに最適化を実行した際に再起動要求が表示される場合は、「再起動」をクリックして操作を続行してください。

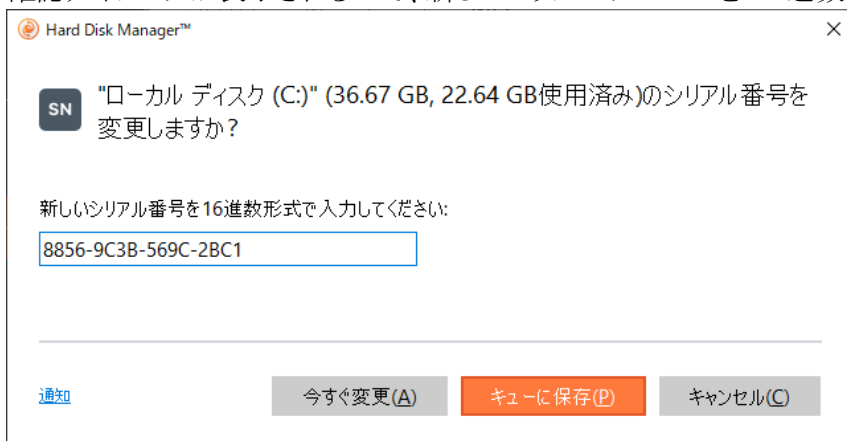


ボリュームシリアルナンバーの変更

1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりのボリュームシリアルナンバーの変更を行いたいパーティションをクリックします。表示されるメニュー内の「ボリュームシリアルナンバーの変更」をクリックします。



3. 確認ダイアログが表示されるので、新しいシリアルナンバーを16進数で入力してください。



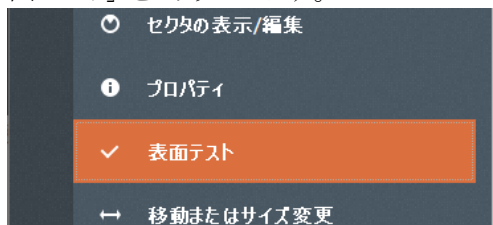
4. 「今すぐ変更」をクリックすると、ボリュームシリアルナンバーの変更操作を実行します。「キューに保存」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。また、システムパーティションのボリュームシリアルナンバーの変更を実行した際に再起動要求が表示される場合は、「再起動」をクリックして操作を続行してください。



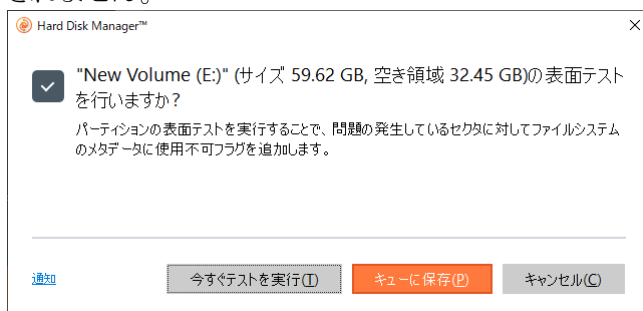
パーティションの表面テスト

注意: このテストツールはパーティションのテストのみを行うツールです。パーティションの問題を修正するには、[チェックディスクを実行](#)してください。

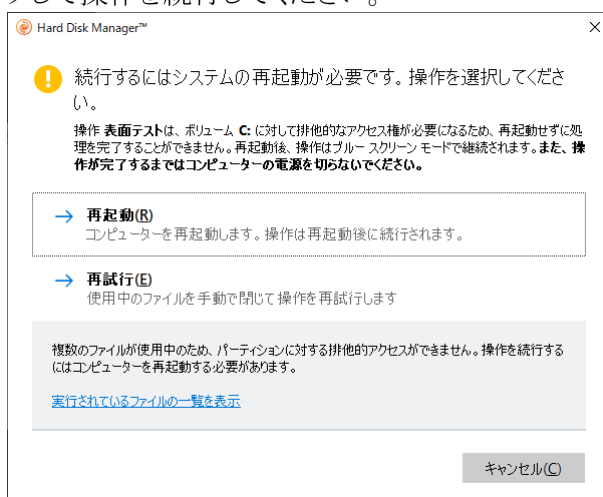
1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりの表面テストを行いたいパーティションをクリックします。表示されるメニュー内の「表面テスト」をクリックします。



3. 確認ダイアログが表示されます。「今すぐテストを実行」をクリックすると、表面テスト操作を実行します。「キューに保存」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。

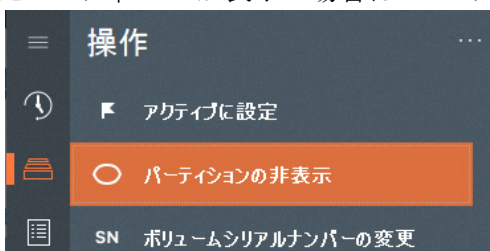


4. システムパーティションに表面テストを実行した際に再起動要求が表示される場合は、「再起動」をクリックして操作を続行してください。



パーティションの表示/非表示を変更

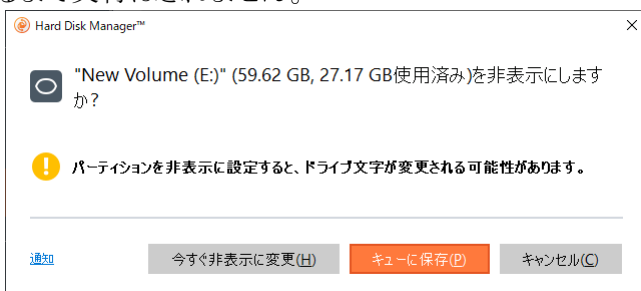
1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりのパーティションの表示・非表示を行いたいパーティションをクリックします。クリックしたパーティションが表示の場合は「パーティションの非表示」をクリックします。



パーティションが非表示の場合は「パーティションの表示」をクリックします。

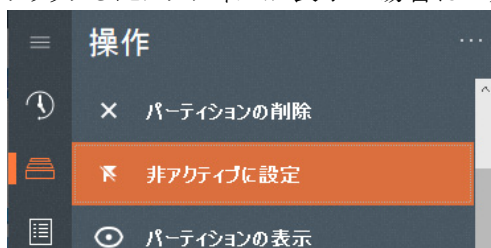


3. 確認ダイアログが表示されます。「今すぐ非表示に変更」をクリックすると、パーティションの非表示操作を実行します。「キューに保存」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。



パーティションのアクティブ/非アクティブを変更

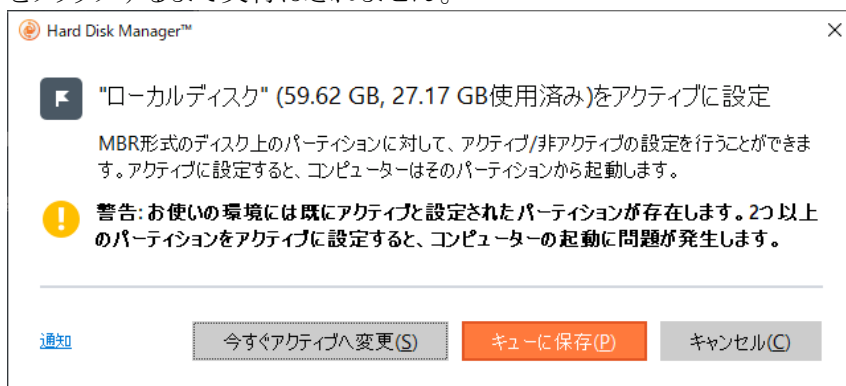
1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりのパーティションのアクティブ・非アクティブを行いたいパーティションをクリックします。クリックしたアクティブが表示の場合は「非アクティブに設定」をクリックします。



パーティションが非アクティブの場合は「アクティブに設定」をクリックします。

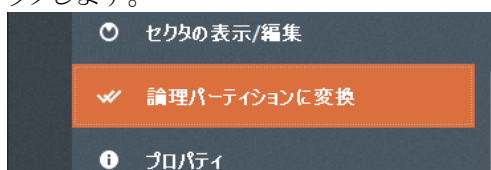


3. 確認ダイアログが表示されます。「今すぐアクティブへ変更」をクリックすると、パーティションのアクティブ設定操作を実行します。「キューに保存」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。

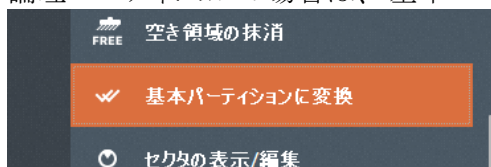


基本/論理パーティションへの変換(MBR ディスクのみ)

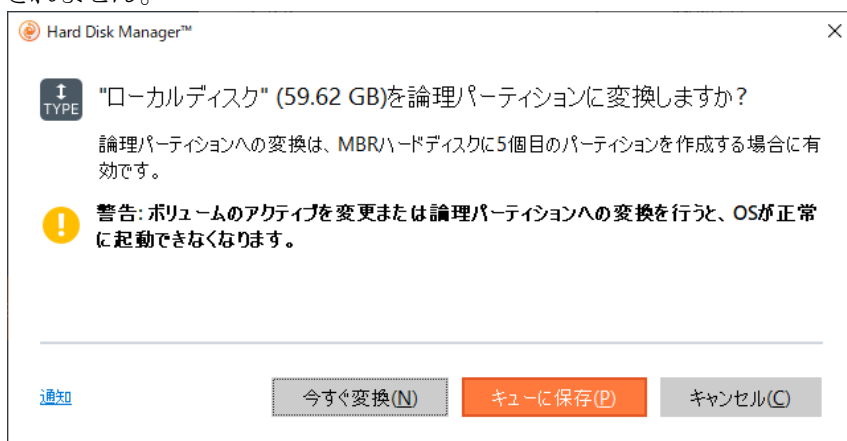
1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりのパーティションの基本 / 論理パーティションへ変更を行いたいパーティションをクリックします。クリックしたパーティションが基本パーティションの場合は「論理パーティションへ変換」をクリックします。



論理パーティションの場合は、「基本パーティションに変換」をクリックします。

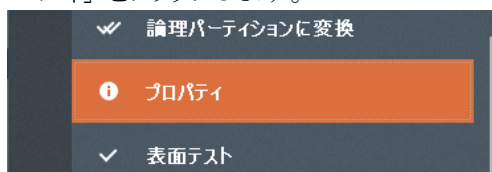


3. 確認ダイアログが表示されます。「今すぐ変換」をクリックすると、パーティションの変換操作を実行します。「キューに保存」をクリックすると、ウィンドウを閉じ、「保留中の操作を適用する」をクリックするまで実行はされません。



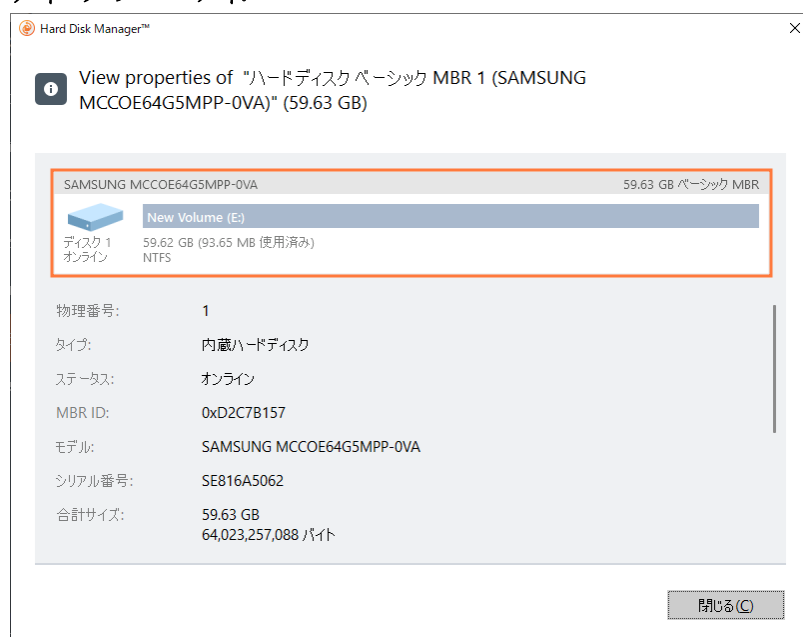
ディスク/パーティションのプロパティ表示

1. 左側にある「ディスクとパーティション」をクリックして、ディスクの一覧を表示します。
2. ディスクマップ上よりのパーティションまたはディスクをクリックします。クリックして開いたメニューの「プロパティ」をクリックします。

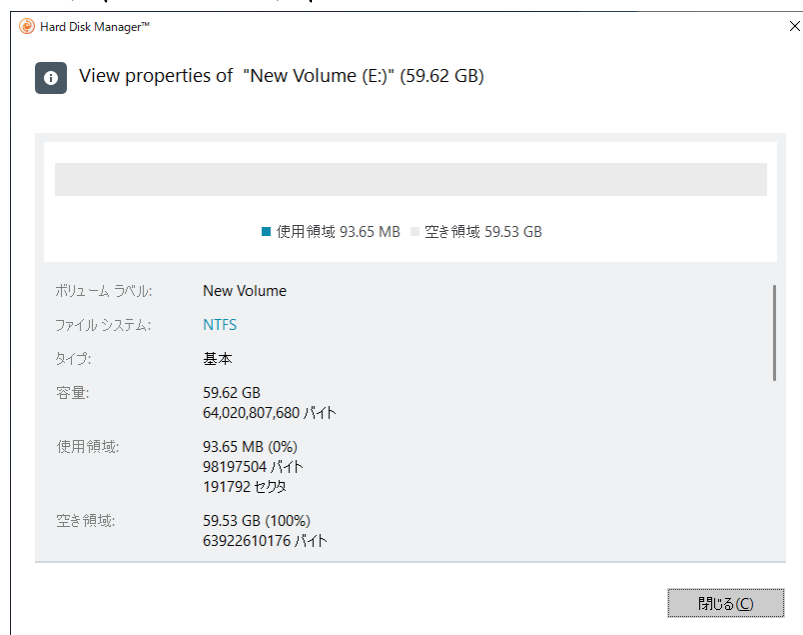


3. ストレージデバイス全体またはパーティションのプロパティを表示します。ディスクではモデルやシリアル番号、パーティションでは「ファイルシステム」、「容量」、「使用容量」、「ハードディスク ジオメトリ」、セクタ数、パーティションの正確な場所などの情報を表示します。

ディスク プロパティ:



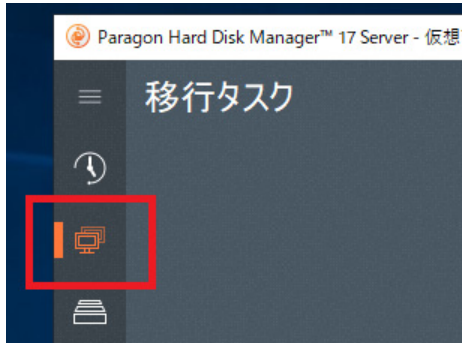
パーティション プロパティ:



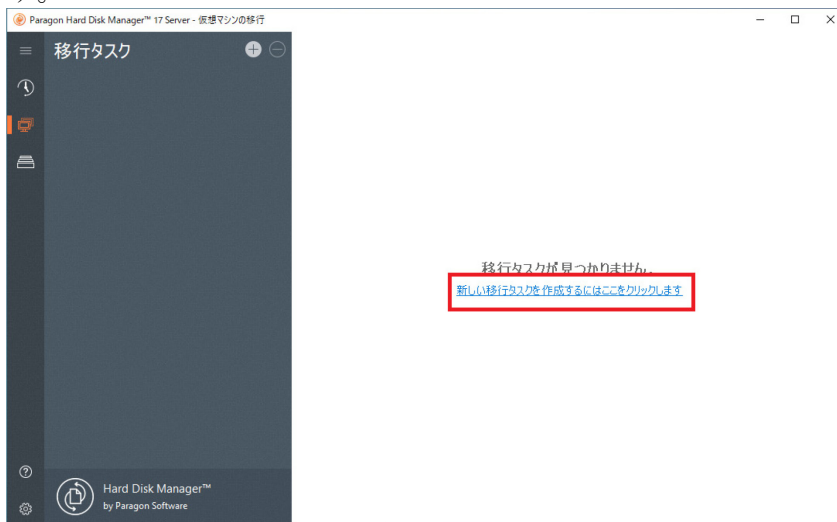
VMware から Hyper-V への仮想マシンの移行 (V2V)

V2V 機能は Paragon Hard Disk Manager 17 Server の機能です。Paragon Hard Disk Manager 17 Professional には搭載されていませんので、ご注意ください。

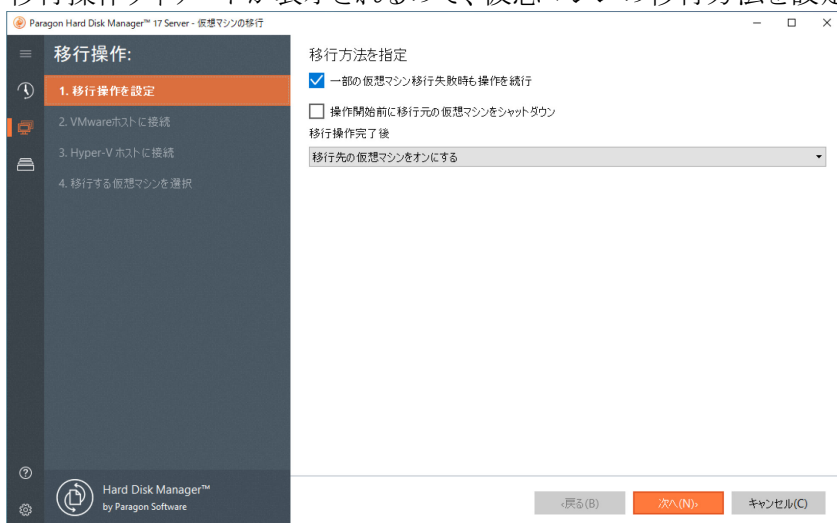
1. 製品画面左側の「仮想マシンの移行」アイコンをクリックして、移行タスク画面を表示します。



2. 移行操作を開始するには画面内の「新しい移行タスクを作成するにはここをクリックします」をクリックします。



3. 移行操作ウィザードが表示されるので、仮想マシンの移行方法を設定し「次へ」をクリックします。



「一部の仮想マシン移行失敗時も操作を続行」

複数の仮想マシンを移行する際に、一部の仮想マシンの移行が正常に完了しなかった場合でもそのまま移行操作を続行する場合はこのオプションを選択します。

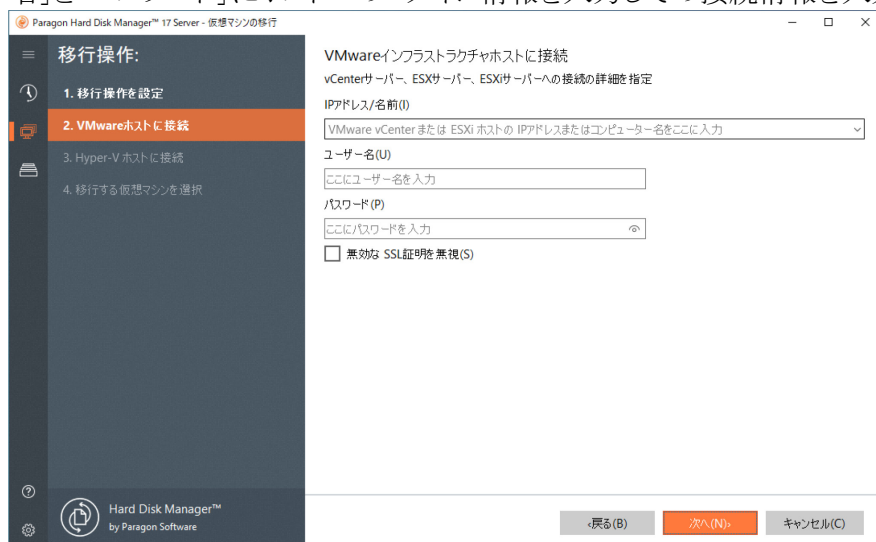
「移行開始前に移行元の仮想マシンをシャットダウン」

移行操作開始前に、VMware ホスト上で動作している移行元の仮想マシンをシャットダウンするには、このオプションを選択します。

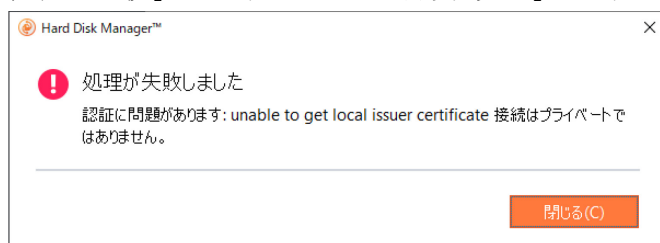
「移行操作完了後」

Hyper-V 環境へ移行操作が完了した仮想マシンを自動的に起動するには、「移行先の仮想マシンを起動する」を選択します。移行完了後、ユーザー自身で起動するには「移行先の仮想マシンを起動しない」を選択します。

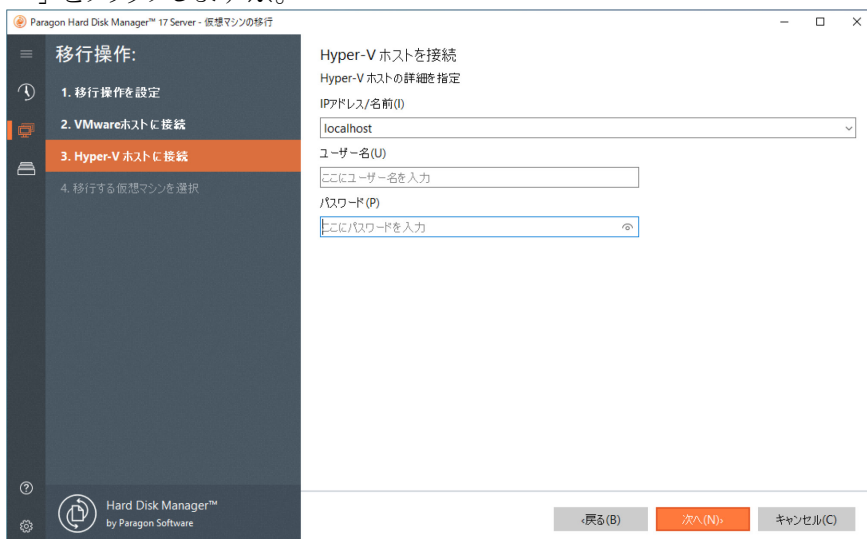
4. VMware インフラストラクチャへの接続情報を入力します。「IP アドレス/名前」に移行元となる VMware インフラストラクチャ (VMware vCenter または ESXi ホスト) のアドレスまたはコンピューター名を、「ユーザー名」と「パスワード」にホストへのログイン情報を入力しての接続情報を入力し、「次へ」をクリックします。



以下のエラーダイアログが表示される場合は、「閉じる」をクリックしてダイアログを閉じた後、「無効な SSL 認証を無視」にチェックを入れて再度「次へ」をクリックしてください。

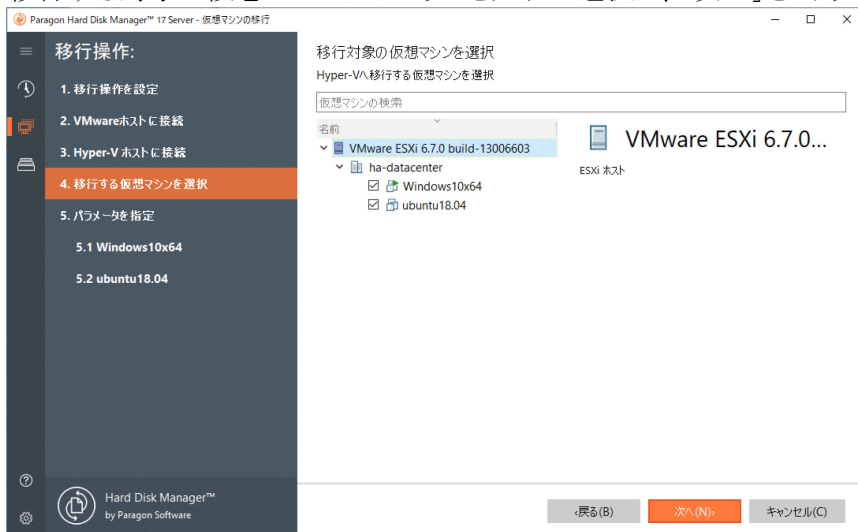


5. 移行先の Hyper-V ホストへの接続情報を入力します。「IP アドレス/名前」に Hyper-V ホストのアドレスまたはコンピューター名を、「ユーザー名」と「パスワード」に Hyper-V ホストへのログイン情報を入力して「次へ」をクリックします※。

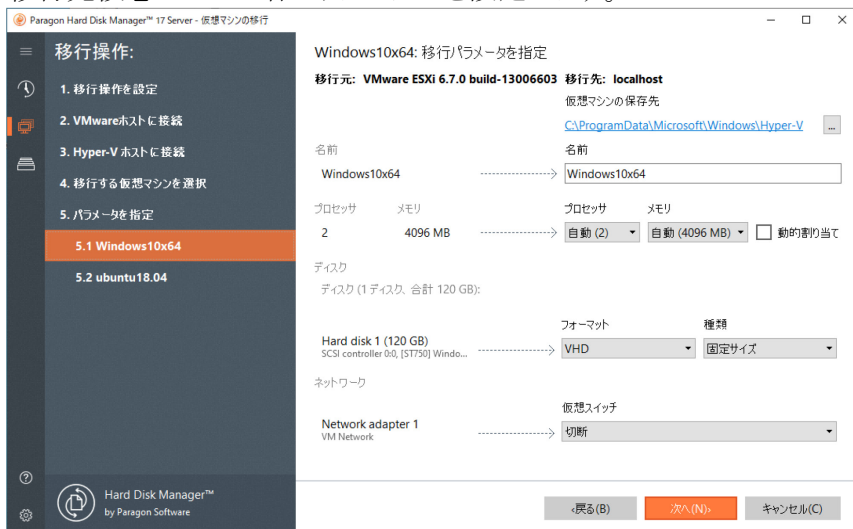


※この製品を使用しているコンピューター/サーバを Hyper-V ホストとして使用する場合は、「IP アドレス/名前」に localhost と入力し、「ユーザー名」/「パスワード」にはこのコンピューターへのログイン情報を入力します。

6. 移行する対象の仮想マシンにチェックを入れて選択し、「次へ」をクリックします。

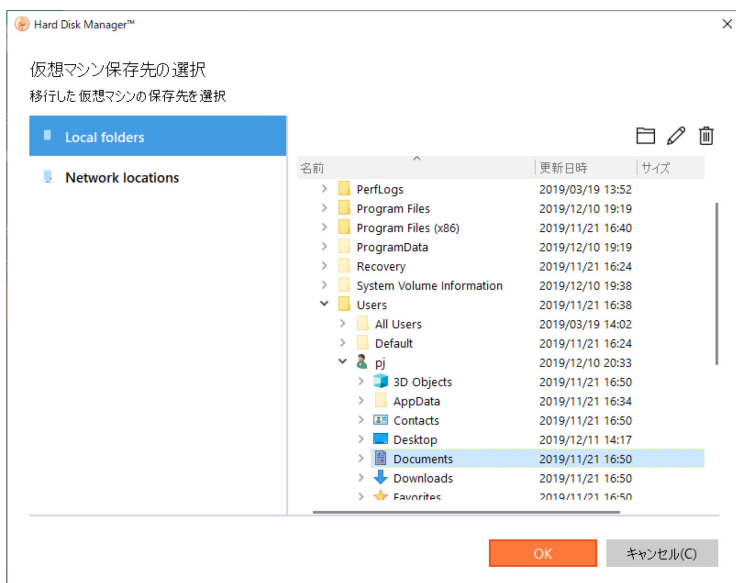


7. 移行先仮想マシンの各パラメーターを設定します。



「仮想マシンの保存先」

Hyper-V 仮想マシンの保存先を指定できます。通常は C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Hyper-V に仮想マシンが保存されますが、ドライブ容量などの制限により他の場所へ変更する場合は、「…」をクリックして表示される「仮想マシン保存先の選択」ウィンドウにて保存先を指定できます。



保存先の指定後は、「OK」をクリックしてこのウィンドウを閉じてください。

「名前」

Hyper-V マネージャーに登録される仮想マシン名を指定します。

「プロセッサ/メモリ」

仮想マシンに割り当てるプロセッサとメモリの容量を指定します。

「ディスク」

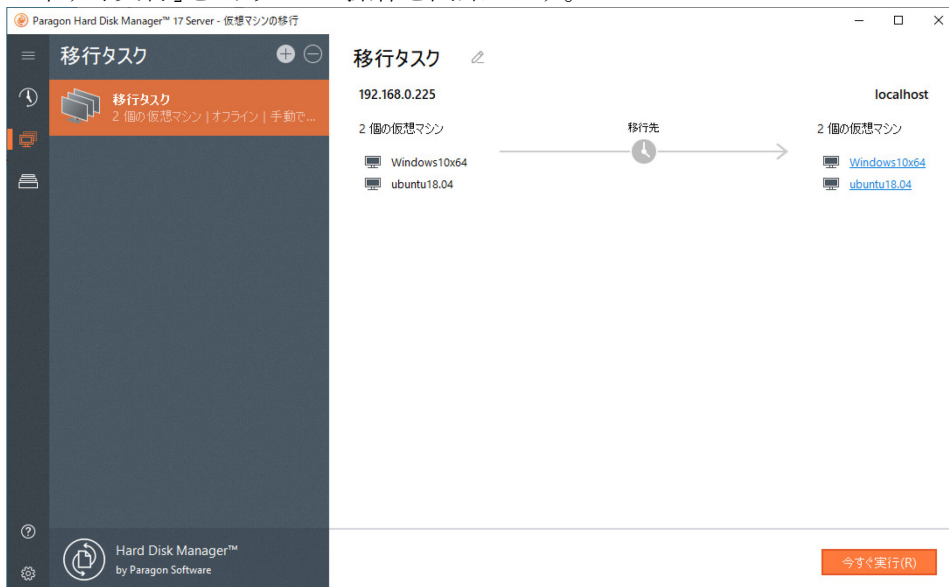
仮想マシンのディスクフォーマット (vhdx または vhd) とサイズの固定/可変を指定します。

「ネットワーク」

仮想スイッチの状態を切断または標準のスイッチへ接続するかを指定します。

各仮想マシンについて設定完了後は、「次へ」をクリックします。

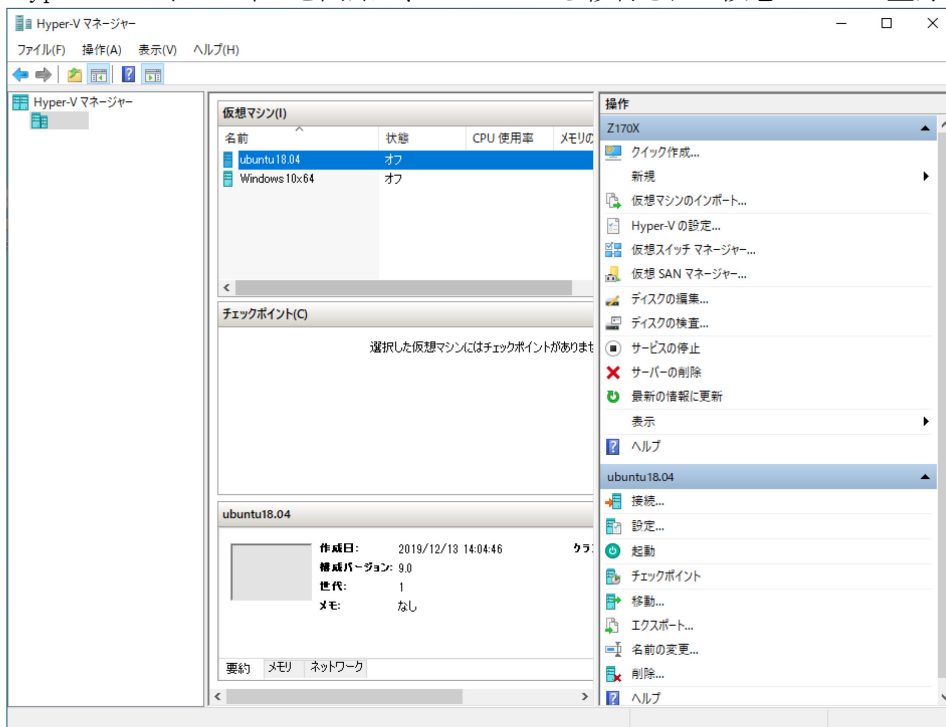
8. 「今すぐ実行」をクリックして操作を開始します。



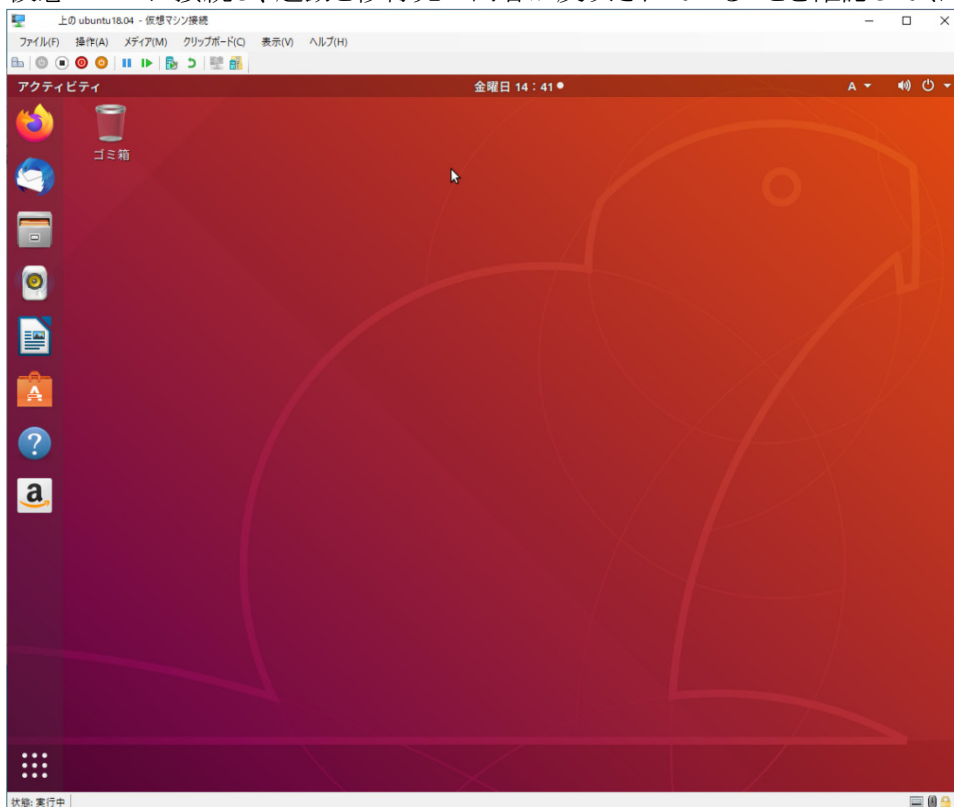
9. 移行操作完了後は、「OK」をクリックして操作を終了します。



10. Hyper-V マネージャーを開始し、VMware から移行された仮想マシンが登録されていることを確認します。



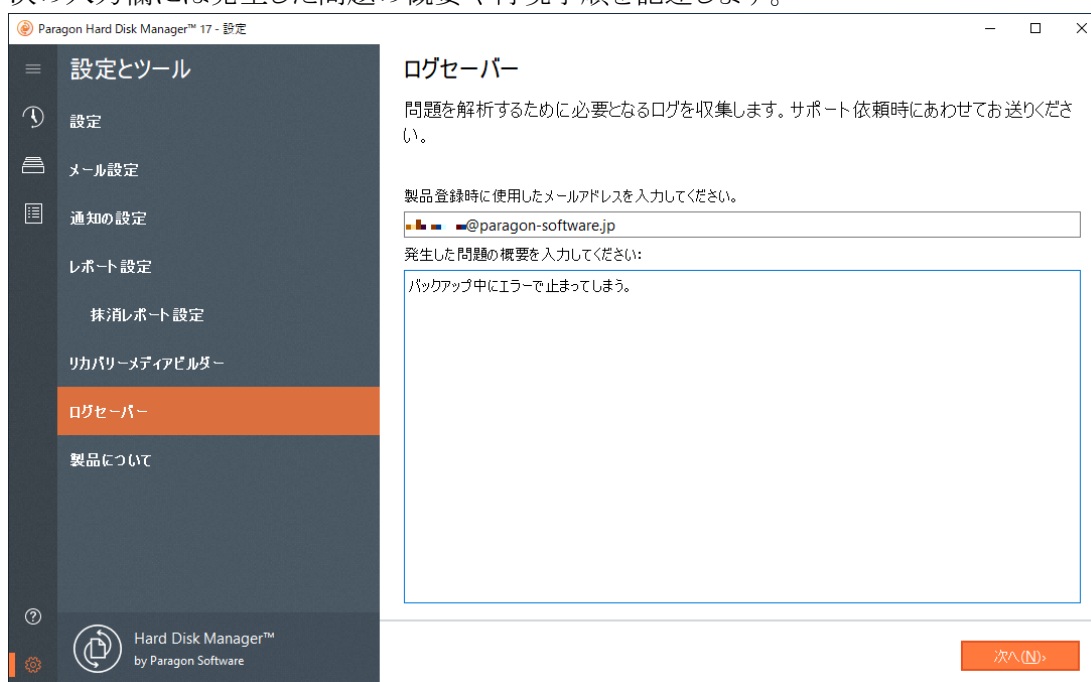
11. 仮想マシンに接続し、起動と移行元の内容が反映されていることを確認してください。



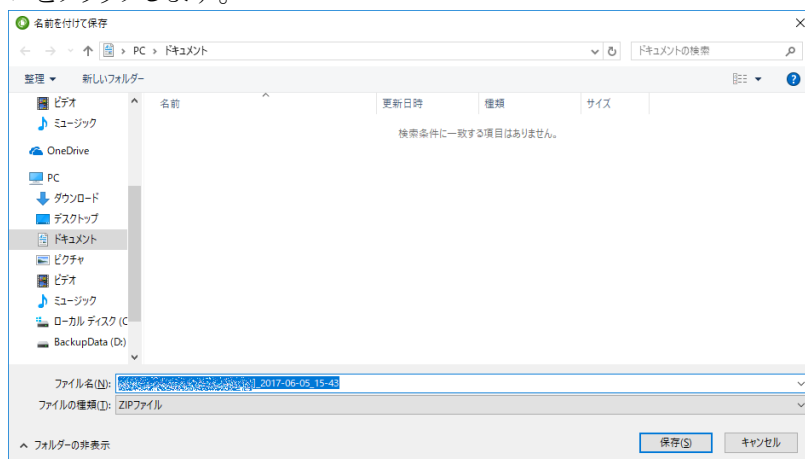
トラブルシューティングとサポートリクエストの送信

製品をご使用中に問題が発生した場合は、サポートをご依頼ください。早期に問題を解決するために必要となる操作ログや再現手順が必要です。

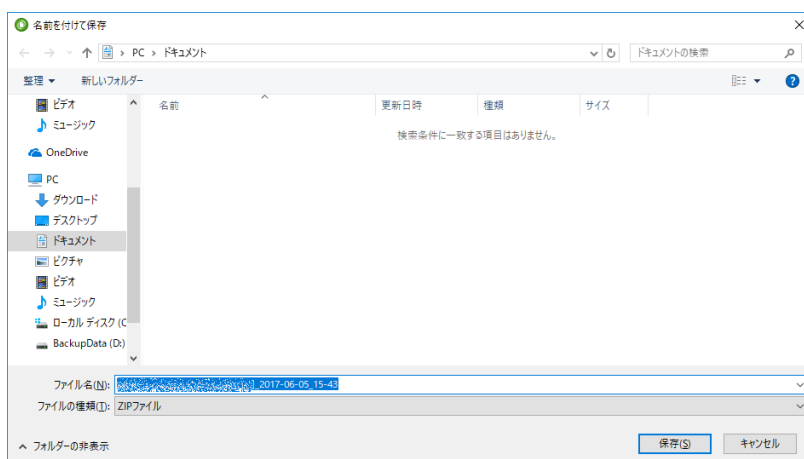
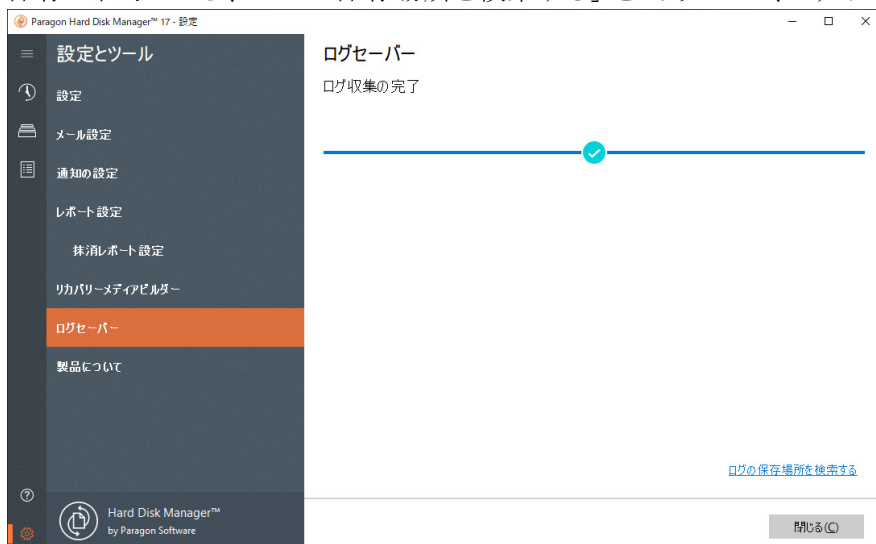
1. 「設定」>「ログセーバー」を選択します。製品登録を登録したマイアカウントのメールアドレスを入力し、次の入力欄には発生した問題の概要や再現手順を記述します。



2. ログファイルを保存する場所に変更し、必要に応じてファイル名を変更してください。最後に「保存」ボタンをクリックします。



3. 保存が終了したら、「ログの保存場所を検索する」をクリックして、ファイルが保存されたかを確認します。



4. マイアカウントの URL にアクセスしてください。

<https://my.paragon-software.com/#/login>



5. マイアカウントにログインしたら「サポート」-「リクエストを送信」をクリックします。質問の種類(テクニカルかカスタマーサービス)、製品、問題箇所を記入した後、ファイルを添付で保存したログファイルを選択し、他の項目も記入して最後に「サポートリクエストを送信」をクリックします。

リクエストを送信

リクエストを作成して質問や問題の報告、フィードバックを送信します。サポート改善のため必須項目をすべて入力してください

* What is your question about?

* 製品
購入した製品がリストに表示されない場合は、[製品の登録]ページで製品の登録を行ってください。

* Tell us more

Please note, that we will answer your question during next 3 business days within standard support program.

Need faster solution? Check hot topics now

- [1. Activation Problem After Windows 10 Creators Update](#)
- [2. Backup and Recovery 16 – Troubleshooting Guide](#)

* 内容

* 質問内容の詳細

ファイルを添付 2017-06-05_15-43.zip ✕

* Brief description

* Details of the request

Attach a file logs.zip ✕
 no file selected
Maximum attachment size: 50 Mb.

Build number
(available in "Help" -> "About" dialog, for products with Express Launcher in Advanced Options -> main product -> Help -> About)

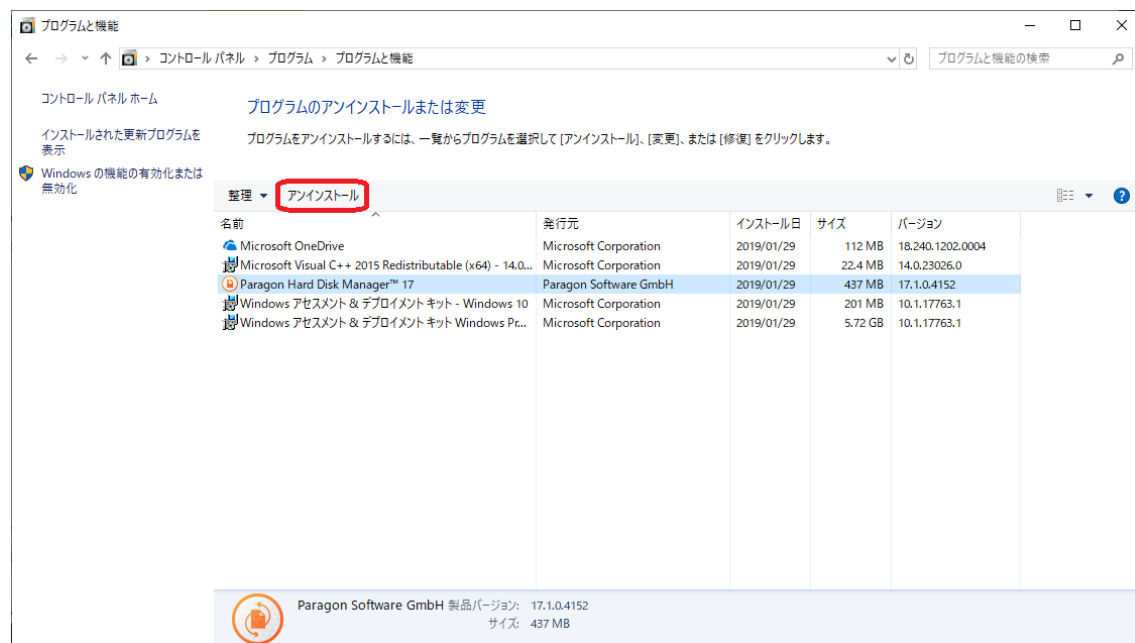
* Operating system

* Required fields

製品のアンインストール

システムから Paragon Hard Disk Manager 17 を削除するには、お使いの Windows の「コントロールパネル」からプログラムの管理機能を利用してアンインストールしてください。

コントロールパネルは、Windows 7 では「スタート」メニュー内の「コントロールパネル」を選択、Windows 8.1 および Anniversary Update までの Windows 10 は「スタート」メニューを右クリックして表示されるコンテキストメニュー内の「コントロールパネル」を選択、Creators Update 以降の Windows 10 は「スタート」メニューをクリック後「Windows システムツール」内の「コントロールパネル」を選択すると表示されます。



アンインストール完了後は、製品のインストールディレクトリ(標準では、C:¥Program Files¥Paragon Software¥Hard Disk Manager 17)を手動で削除してください。

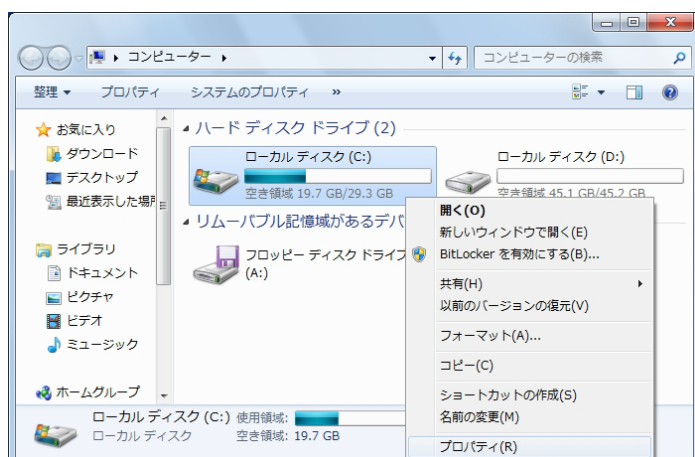
よくある質問と回答(FAQ)

お問合せのよくあるご質問と回答をまとめましたので、サポートセンターにお問合せをする前にご一読ください。

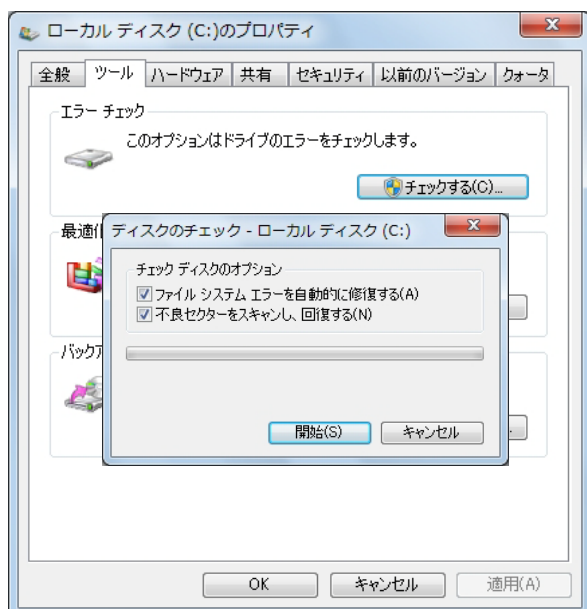
Q 01. チェックディスクの手順を教えてください。

A 01. チェックディスクの手順は以下の通りです。Windows7 と 8.1/10 では手順が異なりますのでご注意ください。
「Windows 7 での操作手順」

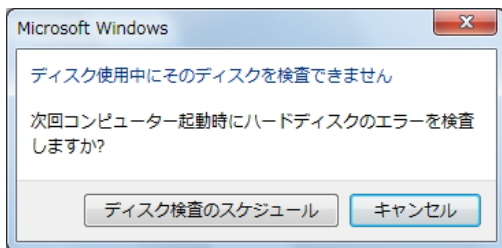
1. 「スタート」メニューから「コンピューター」をクリックします。
2. 「コンピューター」を開き、操作対象となるドライブを右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。



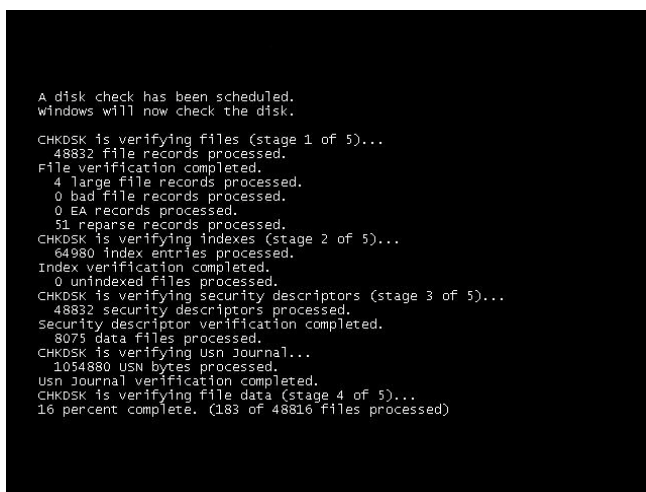
3. 「ツール」タブを選択し、「チェックする」をクリックします。初めてエラーチェックを行う場合は、表示されたオプション画面で 2 つのチェックボックスを両方とも有効にして、「開始」をクリックします。何回かエラーチェックを行っている場合は、「ファイル システム エラーを自動的に修復する」チェックボックスのみ有効にして、「開始」をクリックします。



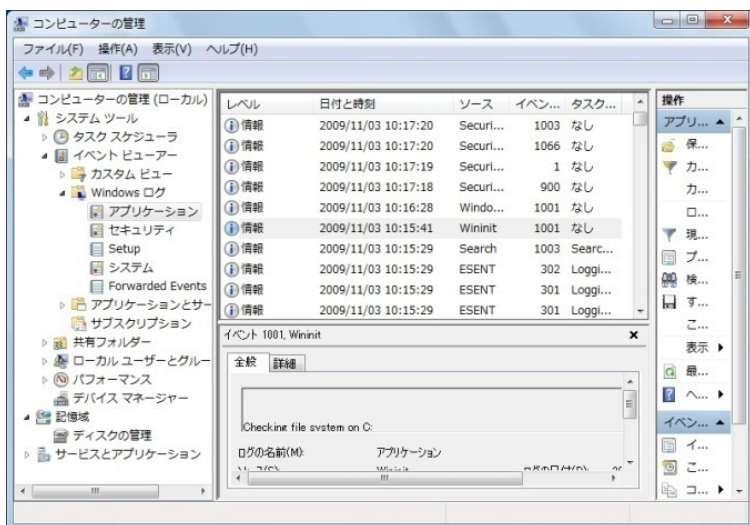
4. 対象ドライブが使用中の場合には、次の画面が表示され、再起動後にエラーチェックが行われます。



5. 「ディスク検査のスケジュール」をクリックして、コンピューターを再起動します。
6. Windows 起動時に次の画面が表示され、ドライブのエラーチェックが実行されます。完了すると自動的に再起動します。



7. エラーチェックの結果は、イベントビューアのアプリケーション ログに記録されます。Windows が起動したら、「コンピューター」を右クリックして、「管理」を選択してください。「コンピューターの管理」画面が表示されるので、「システムツール」-「イベントビューア」-「Windows ログ」-「アプリケーション」を選択します。右側にログの一覧が表示されるので、ソース欄に「Wininit」と表示されている最新のログをダブルクリックして表示させます。

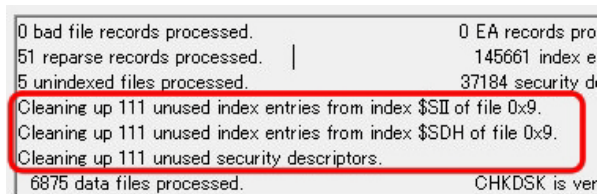


※ 日付を確認し、直前に実行されたログか確認してください。

8. イベントの説明欄で「不良セクタ」(bad sector) に数値があるときはバックアップ / コピーできません。「0 KB in bad sectors」と表示されていることを確認します。次に、ファイルシステム関連の問題「Cleaning up ** unused …」の**数を確認します。数が多い時は「ファイル システムエラーを自動的に修復する」のみにチェックして「Cleaning up **」の表示がなくなるか、少なくとも**の数値が1桁台になるまでエラーチェックを何回か繰り返してください。



- ※ 結果画面に「Cleaning up **」と表示されている場合、処理が正しく実行されないケースがあります。**が1桁台になるまで、繰り返しチェックディスクを行ってください。



- ※ コピー/バックアップ対象のすべてのドライブで実行してください。

(表示例)-----

Checking file system on c:

... (中略)

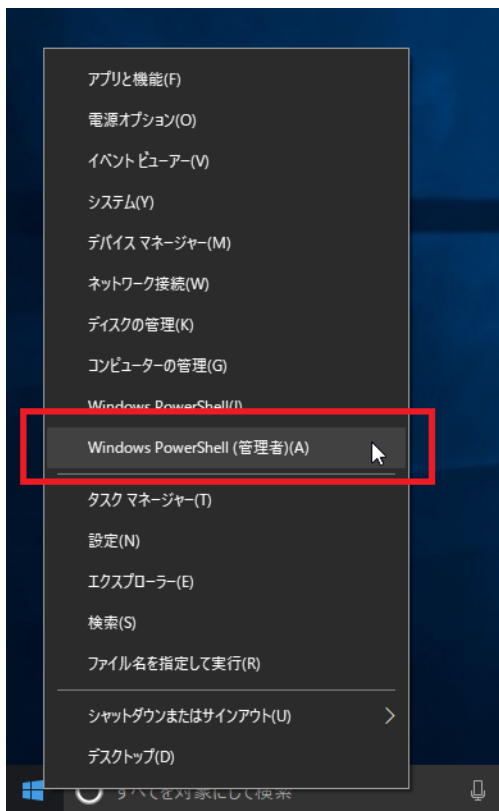
Cleaning up 7 unused index...

**** KB total disk space. (中略)

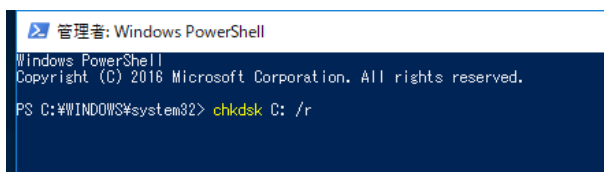
0 KB in bad sectors (以下略)

「Windows 8.1/10 での操作手順」

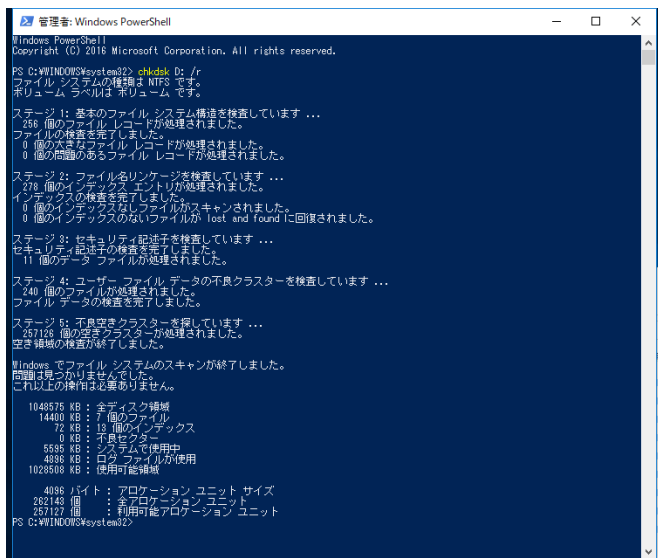
1. デスクトップ左下の「スタート」メニューを右クリックし、「Windows PowerShell(管理者)」を選択して Windows PowerShell を開始します。



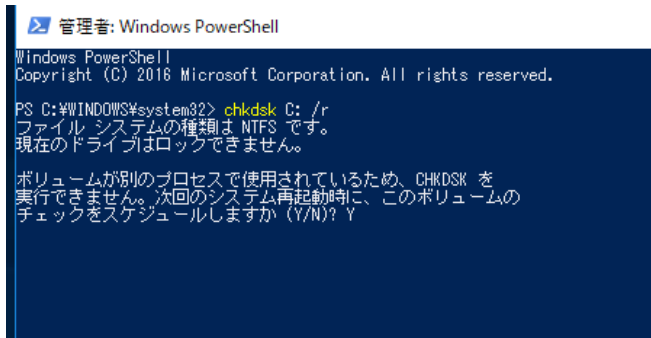
2. 「管理者: Windows PowerShell」ウィンドウが表示されましたら、以下の二重引用符内の文字列 "chkdsk C: /r"(chkdsk と C:と/r の間は半角スペースを 1 つ入力してください)を入力してキーボードの Enter キーを押下します。Cドライブ以外をチェックする際は、該当するドライブ文字を上記文字列の「C」の位置に入力してください(例として、Dドライブをチェックする場合は "chkdsk D: /r" と入力します)。



3. チェックディスクが実行されます。完了後は、手順 7 からを参照してログを確認します。



4. 「ボリュームが別のプロセスで使用されて～チェックをスケジュールしますか(Y/N)?」とメッセージが表示される場合は、「Y」と入力して Enter キーを押下します。

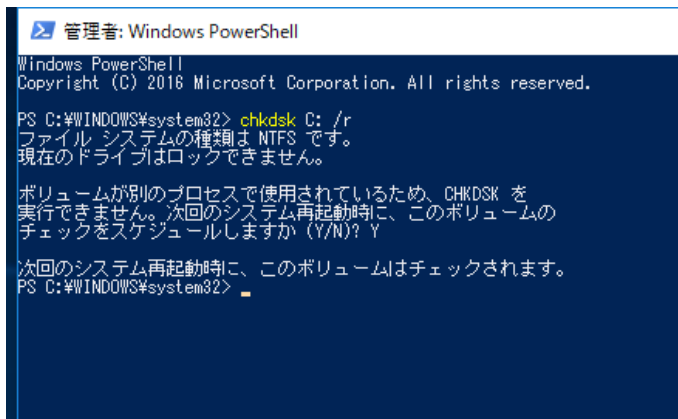


```
管理: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

PS C:\WINDOWS\system32> chkdsk C: /r
ファイル システムの種類は NTFS です。
現在のドライブはロックできません。

ボリュームが別のプロセスで使用されているため、CHKDSK を
実行できません。 次回のシステム再起動時に、このボリュームの
チェックをスケジュールしますか (Y/N)? Y
```

5. 「次回のシステム再起動時に、このボリュームはチェックされます。」とメッセージが表示されましたら、Windows PowerShell のウィンドウを閉じます。



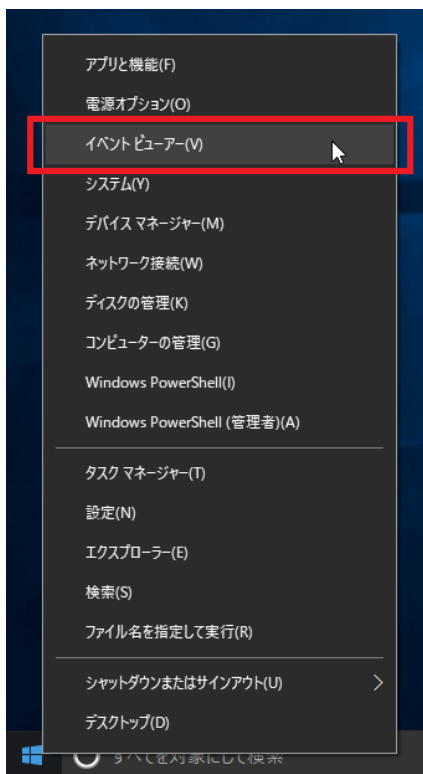
```
管理: Windows PowerShell
Windows PowerShell
Copyright (C) 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

PS C:\WINDOWS\system32> chkdsk C: /r
ファイル システムの種類は NTFS です。
現在のドライブはロックできません。

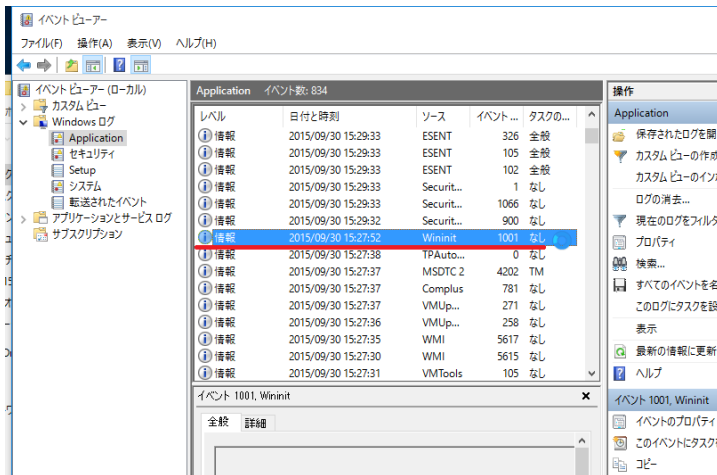
ボリュームが別のプロセスで使用されているため、CHKDSK を
実行できません。 次回のシステム再起動時に、このボリュームの
チェックをスケジュールしますか (Y/N)? Y

次回のシステム再起動時に、このボリュームはチェックされます。
PS C:\WINDOWS\system32>
```

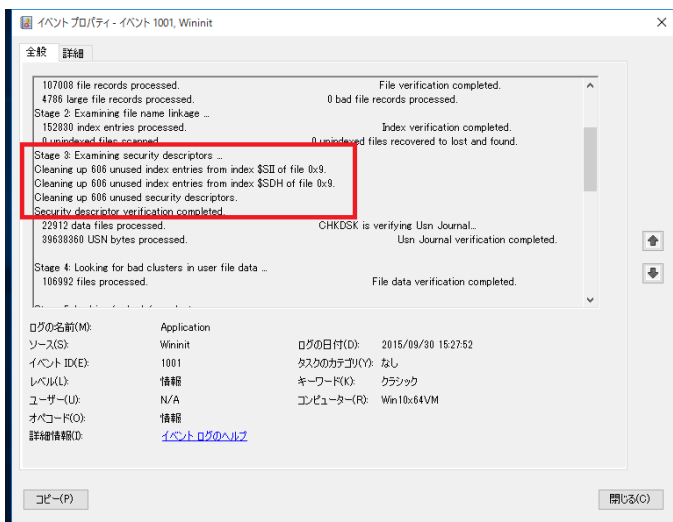
6. Windows の再起動を行います。再起動後チェックディスクが実行されますのでしばらくお待ちください。
7. チェックディスク終了後、Windows にログオンします。ログオン後、デスクトップが表示されましたらデスクトップ左下の「スタート」メニューを右クリックし、「イベントビューアー」を選択します。



8. 「イベントビューアー」が表示されます。ウィンドウ左側のツリービューで「イベントビューアー(ローカル)」→「Windows ログ」→「Application」の順に開き、「ソース」欄に「Winit」と記載されていますイベントを選択してダブルクリックします。



9. 別ウィンドウでイベントが表示されますので、「Cleaning up ** unused index」と、「**KB in bad sectors.」に記載の値を確認してください。



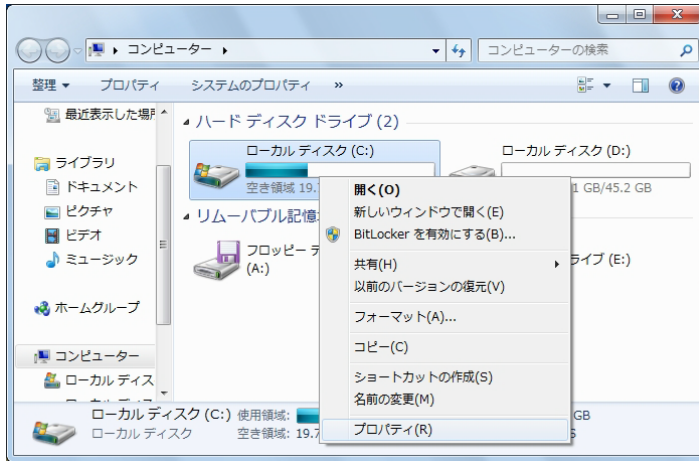
※ 「Cleaning up ** unused index」に2桁またはそれ以上の値が表示されていたら、2桁以下になるまでチェックディスクを繰り返してください。また、「**KB in bad sectors.」にゼロ以外の値が表示されていないか確認してください。

Q 02. デフラグの実行手順を教えてください。

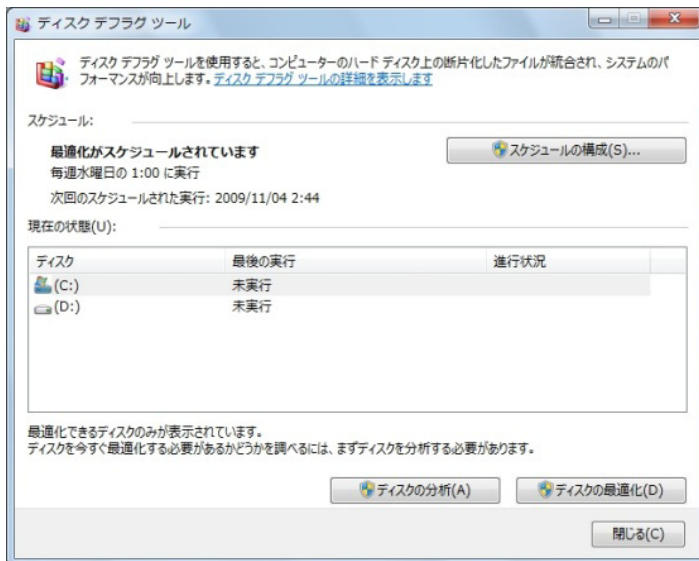
A 02. デフラグの実行手順は以下の通りです。

「Windows 7 での操作手順」

1. 「スタート」メニューから「コンピューター」をクリックします。
2. 「コンピューター」を開き、操作対象となるドライブを右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。



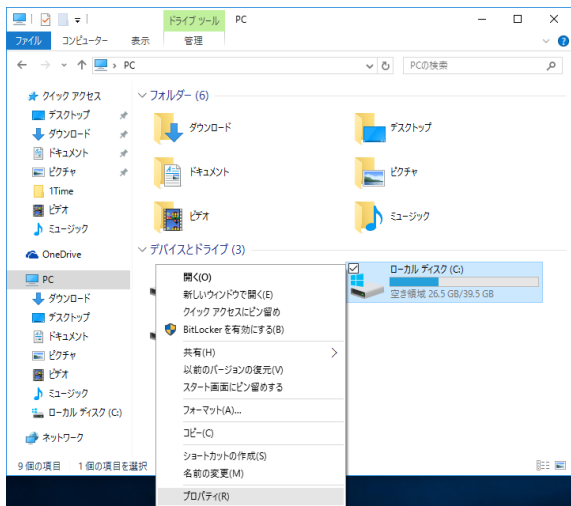
3. 「ツール」タブを選択して「最適化する」をクリックします。
4. 「今すぐ最適化」をクリックします。



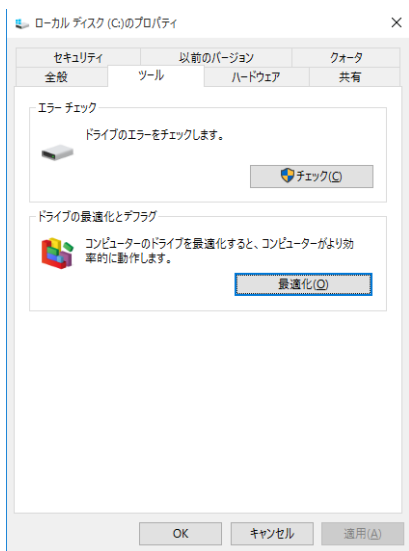
※ 操作を行うすべてのドライブで行ってください。

「Windows 8.1/10 での操作手順」

1. 「スタート」画面から「デスクトップ」を表示します。「デスクトップ」上で「エクスプローラー」を開始し、「コンピューター」または「PC」を選択します。
2. 「コンピューター」または「PC」を開き、操作対象となるドライブを右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。



3. 「ツール」タブを選択して「最適化」をクリックします。



4. 「最適化」をクリックします。



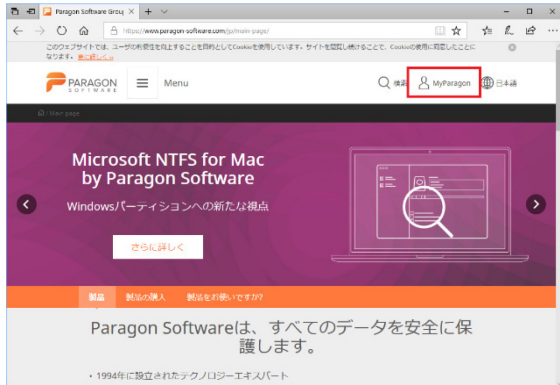
※ 操作を行うすべてのドライブで行なってください。

Q 03. マイアカウントの登録手順を教えてください。

A 03. マイアカウントの登録手順は以下の通りです。

1. お使いのウェブブラウザから下記 URL(弊社 Web サイト)にアクセスしてください。

<https://www.paragon-software.com/jp/main-page/>



トップページが表示されたら、画面上部の「MyParagon」をクリックします。

2. 「マイアカウント」画面に遷移します。「サインイン」の下にある青い文字「アカウントの新規作成」をクリックします。



※ 英語で表示される場合は、画面右上の言語選択メニューで「日本語」を選択すると、表示言語を日本語に変更できます。

3. 「登録」画面に遷移します。「名」にお名前、「姓」に名字を入力し、「登録」ボタンをクリックしてください。

※ 旧マイアカウントをお持ちの場合、「メールアドレス」には既にお持ちの旧マイアカウントのメールアドレスを入力して新マイアカウントを作成してください。同一のメールアドレスで登録することで登録情報を旧マイアカウントから新マイアカウントへ引き継ぐことができます。

登録

名	姓
メールアドレス	
Please re-enter your email address	
日本語	
国を選択	
登録	

4. 「登録」ボタンをクリックすると下記の画面が表示され、メールを送信します。



※ 「アカウントは既に登録されています」と表示される場合は、(2)の「マイアカウント」画面に戻り「パスワードを忘れた場合はここをクリックしてください」にてパスワードを再設定してください。

5. メールソフトにて手順(4)で使用したメールアドレス(アドレス)をご確認ください。下記のメールが届きます。



差出人: My Paragon

<eservice@paragon-software.com>

件名: My Paragon. アカウント作成のお知らせとパスワード設定のお願い

※メールが届いていない場合は、少し時間をおいて再度ご確認ください。また、迷惑メールフォルダーやゴミ箱に振り分けられている場合がありますので、迷惑メールフォルダーや迷惑メールフィルタも併せてご確認ください。

6. アカウントの作成完了をお伝えするメールを受信したら、24 時間以内にメールに記載されている URL リンクをクリックしてパスワードの設定を完了してください。

My Paragon. アカウント作成のお知らせとパスワード設定のお願い  



7. メール下部のリンクをクリックするとブラウザで以下の画面が表示されますので、パスワードを設定してください。設定するパスワードは合計 6 文字以上で、アルファベットの大文字と小文字、そして数字の 3 種類を含めてください。

サインイン マイアカウント

パスワードのリセット

アカウントのパスワードを設定してください。パスワードは8文字以上で、数字と大文字小文字を含みます。

パスワード

パスワードを再入力

パスワードのリセット

8. パスワードが設定できれば以下の画面が表示されます。

サインイン マイアカウント

パスワードのリセット

パスワードはリセットされました。[このリンク](#)からサインインしてください。

9. 「マイアカウントの登録が完了します。「このリンク」をクリックしてください。サインインできることをご確認ください。

マイアカウント

お客様各位

サインイン

または [アカウントの新規作成](#)

メールアドレス

パスワード

パスワードを忘れた場合は[ここをクリック](#)してください

サインイン

Q 04. 製品の登録手順を教えてください。

A. 04 [マイアカウントの登録](#)後、以下の手順で登録を行います。

1. 以下のリンクからマイアカウントへサインインします:

<https://my.paragon-software.com/#/login>

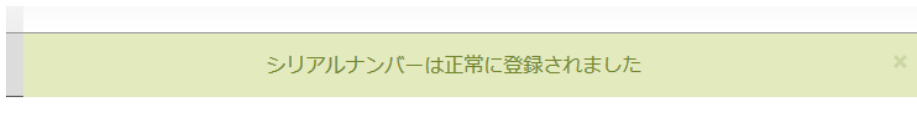
2. 「マイアカウント」の画面に遷移します。左のメニューから「新製品を登録」をクリックします。



3. 「新製品を登録」の画面に遷移します。シリアルナンバーを入力して、「登録」をクリックしてください。



4. 以下のメッセージ「シリアルナンバーは正常に登録されました」が表示されましたら、製品の登録は完了です。



5. 製品が既に登録されているなどのメッセージが表示されましたら、FAQ の「[マイアカウントに製品を登録できません](#)」をご参照の上シリアルナンバーを正しく入力しているか、別のアカウントへ既に製品登録を行っているかご確認をお願いします。

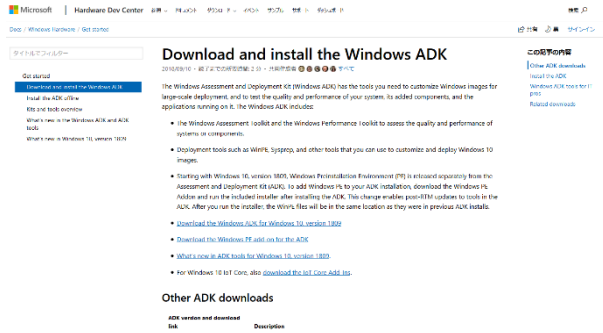
Q 05. Windows ADK のセットアップ手順を教えてください。

A 05. Windows ADK をインストールするには、以下のマイクロソフト社の Web サイトからファイルをダウンロードし、お使いのコンピューターにセットアップする必要があります。

Windows ADK for Windows 10 のダウンロード

Windows アセスメント & デプロイメント キット (Windows ADK)

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-hardware/get-started/adk-install>

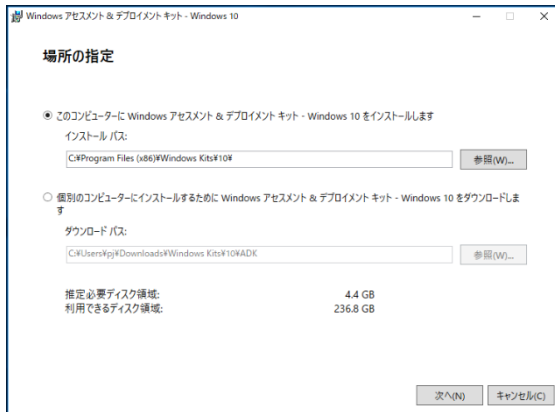


「Download the Windows ADK for Windows 10, version 1809」をクリックすると「adksetup.exe」の、「Download the Windows PE add-on for the ADK」をクリックすると「adkwinpesetup.exe」のダウンロードが開始されます。セットアップ方法については、後述する「Windows ADK のセットアップ」をご覧ください。

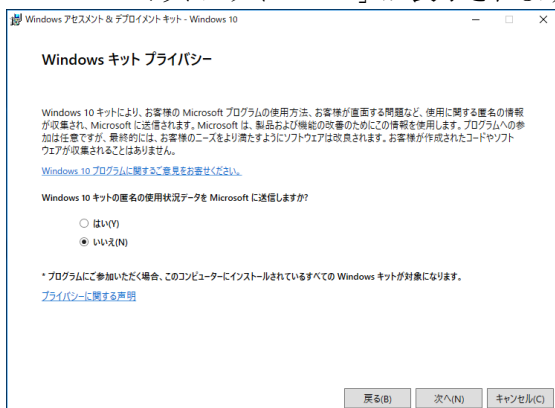
※ファイルをダウンロードするページおよびダウンロードするファイルの数や名称は、予告なく変更される場合があります。

Windows ADK のセットアップ

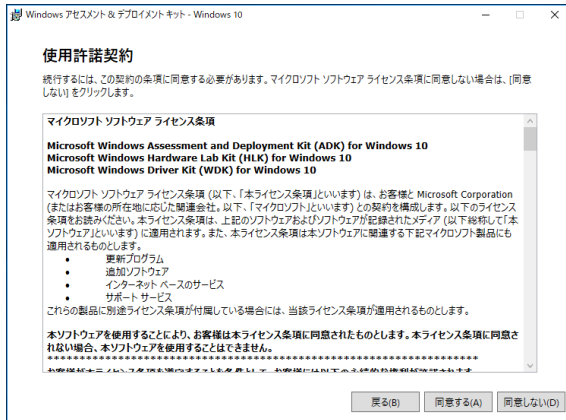
- (1) ダウンロードした adksetup.exe をダブルクリックすると下記画面が表示されます。「次へ」をクリックするとインストールを続行します。



- (2) 「Windows キット プライバシー」が表示されますので「いいえ」を選択して「次へ」をクリックします。



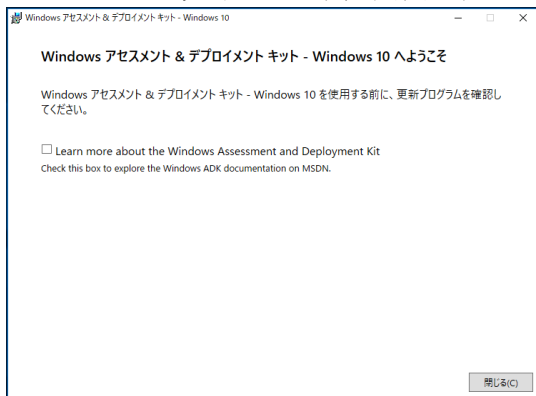
- (3) ライセンス条項を確認したら「同意する」をクリックします。



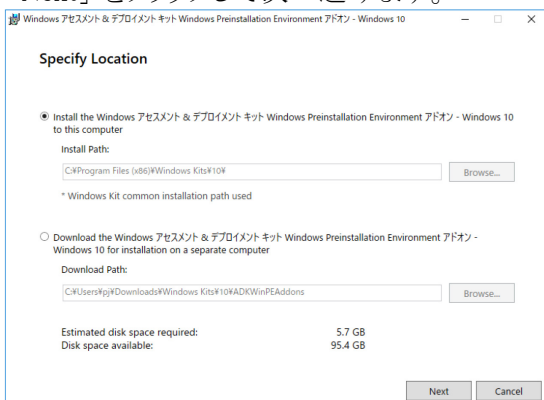
- (4) 機能の一覧から「Deployment Tools」のみを選択し「インストール」をクリックします。



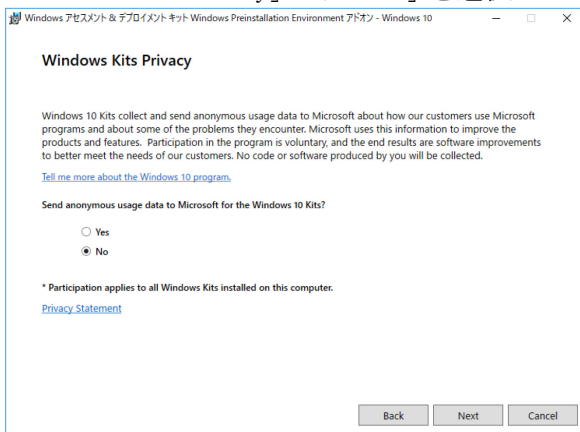
- (5) インストールが完了したら下記画面が表示されます。「閉じる」をクリックするとインストーラが終了します。



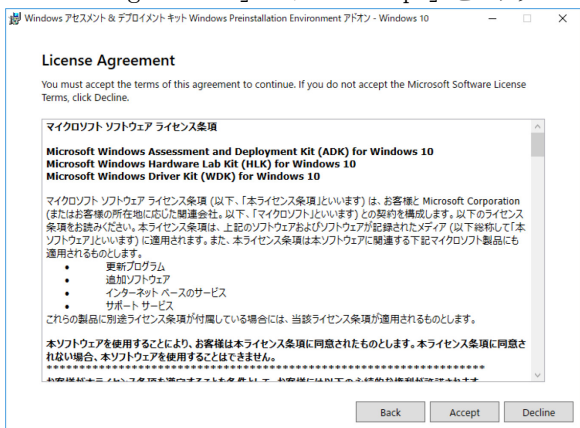
- (6) 引き続き、adkwinpesetup.exe をダブルクリックして Windows PE add-on のセットアップを開始します。「Next」をクリックして次へ進みます。



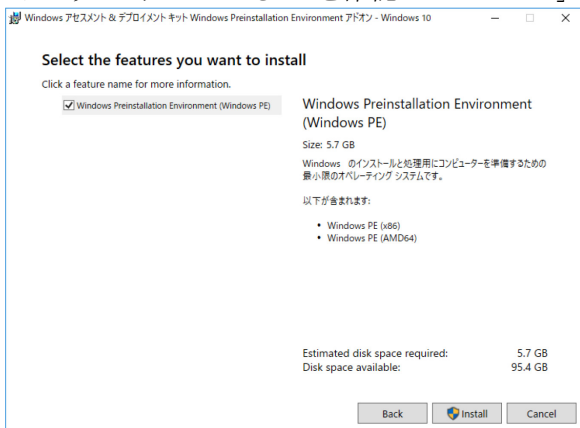
(7) 「Windows Kits Privacy」では「No」を選択して「Next」をクリックします。



(8) 「License Agreement」では「Accept」をクリックします。



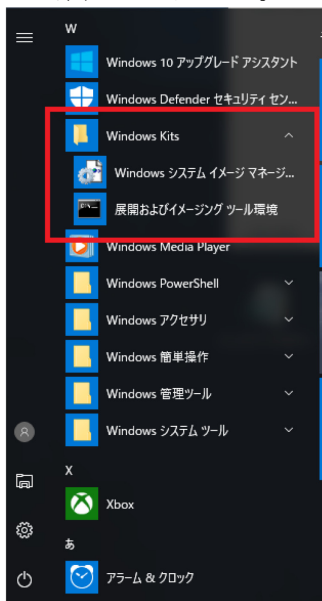
(9) 「Select the features you want to install」では、「Windows Preinstallation Environment (Windows PE)」にチェックが入っていることを確認の上「Install」をクリックしてインストールを開始します。



(10) アドオンのインストールが完了しましたら「Close」をクリックしてインストーラを終了します。



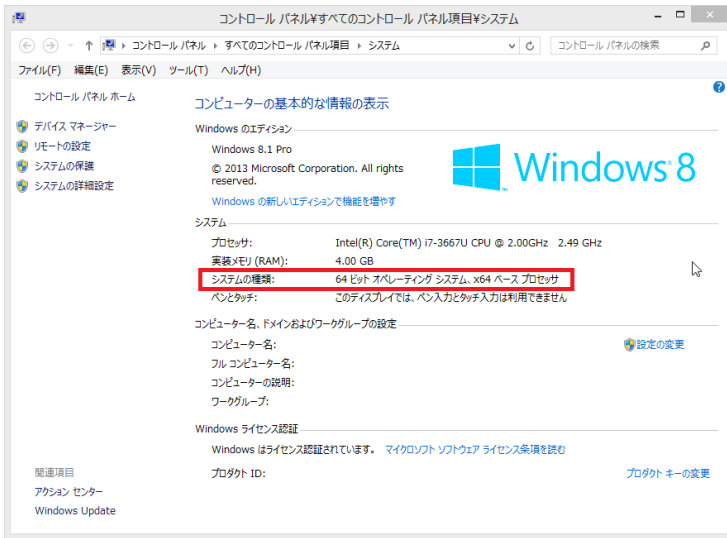
(11) インストールがすべて完了したら Windows の「スタート」メニューに「Windows Kits」が追加されていることを確認してください。



Q 06. OS の 32 ビットと 64 ビットの判別はどのように行いますか。

A 06. Windows のシステムプロパティから判別を行います。

1. 「マイコンピュータ」または「PC」を右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」を選択するか、キーボードショートカット: ウィンドウズキー + Pause を押下します。
2. 下記画面が表示されたら「システムの種類:」の項目を確認します。

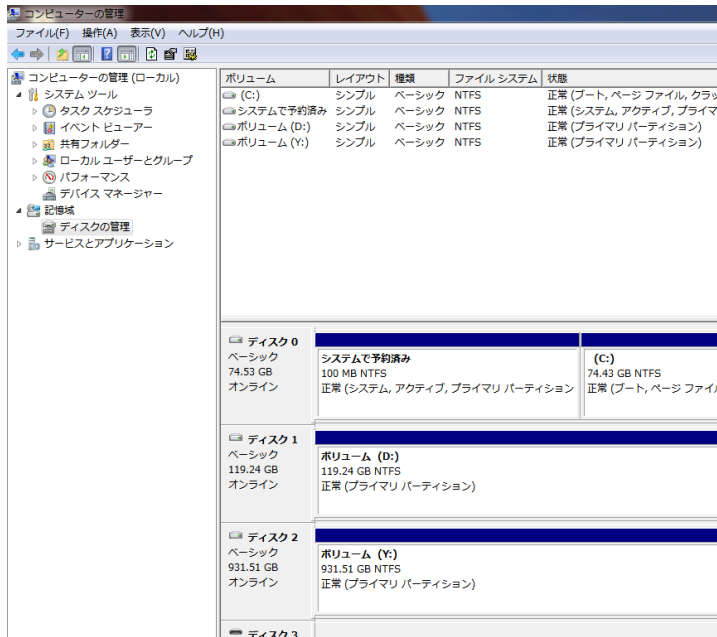


Q 07. BIOS / uEFI 形式の確認はどのように行いますか。

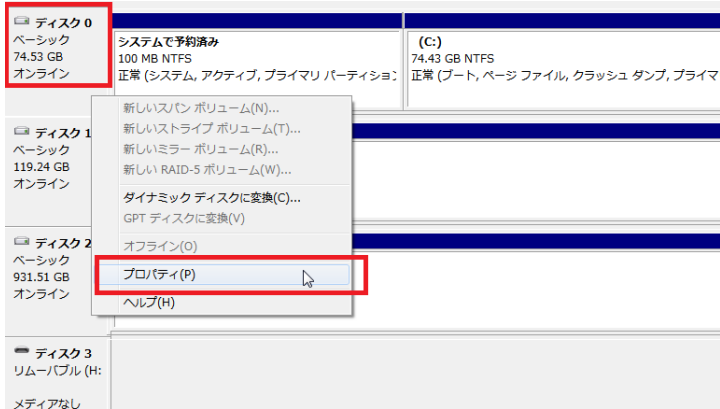
A 07. 確認手順は以下の通りです。Windows 7 と 8.1 / 10 では手順が異なりますのでご注意ください。

「Windows 7 での操作手順」

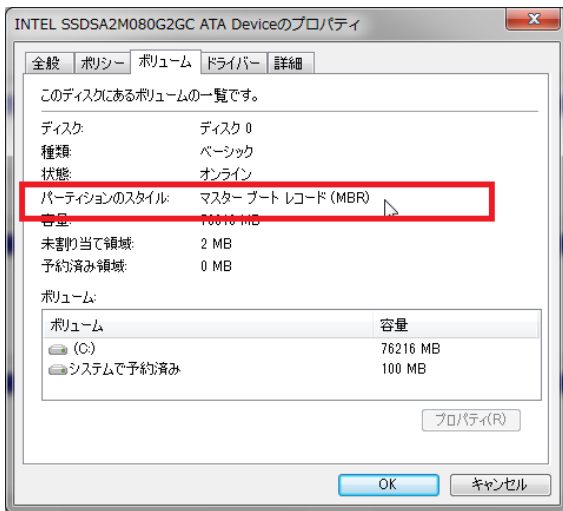
1. 「コンピュータ」を右クリックして、「管理」を選択してください。「コンピュータの管理」画面が表示されるので、「記憶域」 - 「ディスクの管理」を選択します。



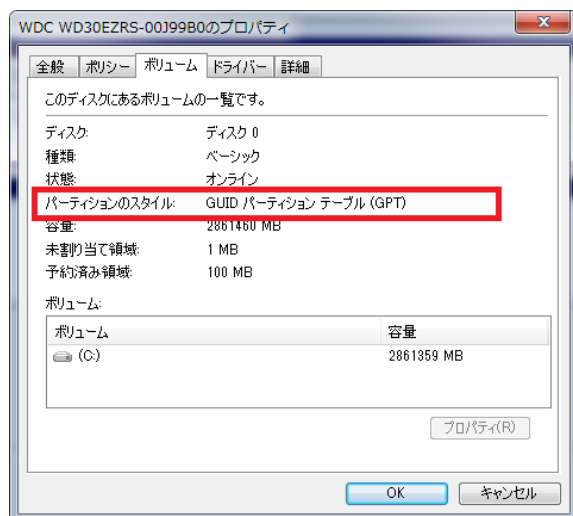
2. 「ディスクの管理」画面で Windows 7 がインストールされているハードディスク(または SSD)となる「ディスク 0」を選択して、右クリックで表示されるコンテキストメニューから、「プロパティ」を選択します。



3. ディスクの「プロパティ」が表示されたら、「ボリューム」タブを選択して、「パーティションのスタイル」を確認します。お使いの環境が BIOS 環境の場合、パーティションのスタイルは「マスターブートレコード(MBR)」となります。

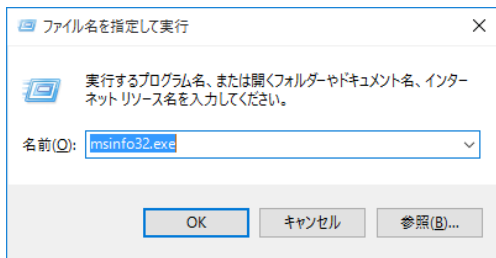


4. お使いの環境が uEFI 環境の場合、パーティションのスタイルは「GUID パーティションテーブル(GPT)」となります。uEFI モードで正しくセットアップされた Windows の起動用ドライブ(ハードディスク・SSD)は“GUID パーティションテーブル (GPT)”が必要となります。

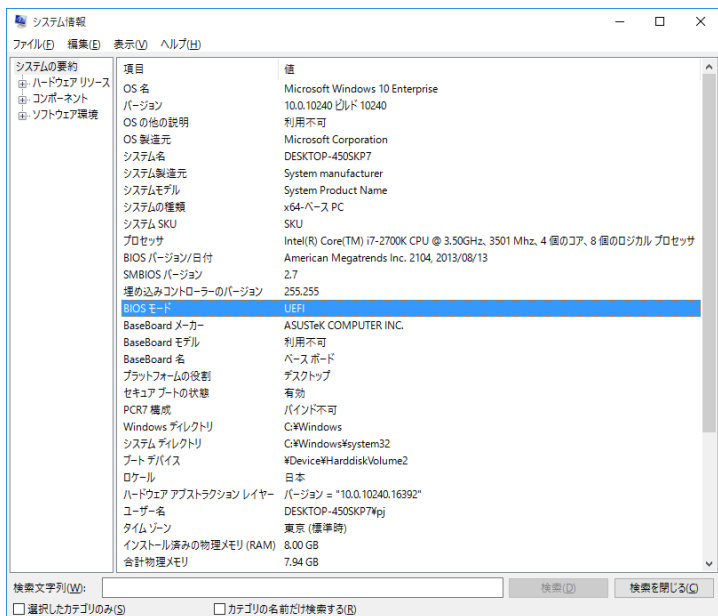


「Windows 8.1/10 での操作手順」

1. キーボードで Windows キーと「R」キーを同時に押下し、「ファイル名を指定して実行」を開きます。
2. 下記画面が表示されたら「msinfo32.exe」と入力して、「OK」をクリックします。



3. 「システム情報」が表示されたら、「システムの要約」->「BIOS モード」を確認してください。お使いの環境が「UEFI」か「BIOS」のどちらで動作しているかご確認いただけます。システム情報の画面で、「BIOS モード:UEFI」と記載がある場合は、お使いの環境は「UEFI」で動作していることになります。



4. 「BIOS」環境でお使いの場合は、BIOS モード:レガシと記載があります。

Q 08. 製品の有効化が行えない。

A 08. お使いのコンピューターがインターネットに接続していること (Internet Explorer、Microsoft Edge などのブラウザを起動してウェブページが表示できること) をご確認ください。セキュリティソフトを使用している場合は、一時的に無効としてください。また、官公庁・企業・学校などの団体・組織でウェブページの接続・閲覧を制限されていますと有効化が正常に行えないことがございますので、ネットワークおよびセキュリティの管理部門までご相談ください。

Q 09. マイアカウントに製品を登録できません。

A 09. 製品のシリアルナンバーが正しく入力されているかご確認ください。シリアルナンバーは、「012345-6789AB-CDEFGH-IJKLMNOPQRST」のように 30 桁の英数字を 6 桁ずつハイフンで区切った形式となります。また、「0(ゼロ)」と「O(オー)」、「1(イチ)」と「I(アイ)」、「2(ニ)」と「Z(ゼット)」、「5(ゴ)」と「S(エス)」、「8(ハチ)」と「B(ビー)」のように見間違えやすい数字とローマ字の扱いに特にご注意ください。既に登録されている旨メッセージが表示される場合は、別のアカウントを作成して製品を登録していないかご確認ください。

Q 10. アカウントのパスワード設定/リセットメールが届きません。

A 10. メーカーの設定を変更して以下のメール差出人“MyParagon”のアドレス (eservice@paragon-software.com) をホワイトリストに登録してください。登録して再度パスワード設定 / リセットを申し込んでも届かない場合は、サポートセンターまでその旨お知らせください。

Q 11. コンピューターを買い替えた後、製品の再有効化ができません。

A 11. Hard Disk Manager を別のコンピューターで使用するには、マイアカウント上で製品と以前使用していたコンピューターとの紐付けを解除 (リリース) する必要があります。紐付けを解除するには、マイアカウントにサインイン後、「登録製品一覧」ページに移動して、登録されている製品ライセンスを確認します。「Show Detail」をクリックすると、「シリアルナンバーの解除※」が表示されますので、これをクリックして紐付けを解除してください。

※紐付けの解除回数には限りがありますのでご注意ください。有効化時に問題が発生しましたら、サポートセンターまでお問い合わせください。

Q 12. ダウンロード版を購入したのですが、インストールに失敗します。

A 12. ダウンロードしたファイル (インストーラ) が破損している可能性があります。ご使用のブラウザのキャッシュを削除した後※、再度ダウンロードを行ってください。

※キャッシュを削除する方法は、各ブラウザの開発・提供元までお問い合わせください。

Q 13. OS 上で USB 接続のハードディスクから復元中に、操作が中断します。

A 13. USB3.0/3.1 のポートに接続している場合は USB2.0 のポートへ、2.0 のポートに接続している場合は 3.0/3.1 のポートに接続して再度復元をお試しく下さい。USB ハブを使用している場合は、コンピューターのポートに直接ハードディスクを接続してください。また、[リカバリーメディアビルダー](#)を使用して作成したリカバリーメディアから起動して、復元操作をお試しく下さい。

Q 14. リカバリーメディアで起動すると、Windows 上で割り当てているドライブ文字(C:など)と異なっています。

A 14. 起動メディアでは、ドライブ文字が Windows 上での表示と一致しない場合があります。ドライブにボリュームラベルをつけて判別してください。

Q 15. ダイナミックディスクからベーシックディスクへ変換したいのですがメニューに表示されません。

A 15. ダイナミックディスクが以下の条件の場合に変換できます。条件に該当しているかご確認ください。
・シンプルボリュームのダイナミックディスクのみの対応です。
・2TB 以下のダイナミック MBR ハードディスクに対応しています。

Q 16. リカバリーメディアビルダーでリカバリーメディアの作成後、起動すると文字が□になってしまう。

A 16. ダブルバイトのユーザー名を使用していると、リカバリーメディアの作成に失敗し、文字が□になるケースがあります。このため、ユーザー名にダブルバイトをご使用の場合は、シングルバイト(半角英数)のユーザー名のアカウント (Administrator 権限を持つ) を作成いただき、当該アカウントで作成できるかをお確かめください。利用ガイドの「5. Windows 自動インストールキット(WAIK/ADK)」をご参照ください。

Q 17. Paragon Hard Disk Manager を起動したらエラーになり、起動できません。

A 17. インストールに失敗している可能性があります。アンインストールしてから、再インストールしてご確認ください。

また、I/O エラーの場合は、機器の接続をチェックし、必要ない機器を外してお試してください。プログラム起動時に接続ハードウェアをスキャンしているため、HDD に不良セクタがあると起動できないことがあります。

Q 18. 接続している外付けハードディスクが見えません。

A 18. 外付けハードディスクを接続しているコンピューター本体の接続ポートを変更してください。また、USB3.0 ポートを使用されている場合は、USB2.0 ポートへ変更してお試してください。なお、USB ハブを介しておりましたら、直接コンピューターのポートに接続してください。

Q 19. リカバリーメディアから起動したらメーカー製 PC のハードディスクが認識されません。ドライバーも追加しました。

A 19. Intel Rapid Storage Technology などのドライバーを追加している場合、ご使用機種メーカーが提供しているドライバーをご使用してください。

Q 20. ハードディスク全体のバックアップを復元後、OS が起動しません。

A 20. 復元したハードディスクの起動順番が正しく設定されていない可能性があります。uEFI の場合、uEFI ブートでないと起動できないため、指定デバイスから起動する方法をお試してください。

Q 21. リカバリーメディアビルダーでリカバリーメディアを USB メモリに作成しようとしたのですが作成できませんでした。

A 21. USB メモリを接続しているコンピューター本体の USB ポートを変更してお試してください。もし、USB3.0 ポートをご使用の場合は、USB2.0 ポートへ変更してください。また、USB ハブを介していたら、直接コンピューターのポートに USB メモリを接続してください。

もし、他に 1GB 以上の USB メモリをお持ちでしたら、そちらに変更してお試してください。

Q 22. クロスリンクエラーが見つかり、バックアップなどの操作が行えません。

A 22. 「Q 01. チェックディスクの手順を教えてください」記載の手順に沿って、ハードディスクの状態確認（エラーチェック）を行ってクロスリンクエラーを修正してから、再度、操作を行ってください。

Q 23. バックアップ先や起動メディアとして SDHC メモリーカードは、使用できますか？

A 23. ご使用いただけません。USB メモリをご使用ください。

Q 24. Linux のバックアップはサポートしていますか？

A 24. ファイルシステムの認識は可能ですが、サポート外となります。

Q 25. スケジュールバックアップが実行されませんでした。

A 25. PC がログオフ状態だった場合、ユーザー名とパスワードを設定する必要があります。バックアップのスケジューラを作成する際、「ウィザードの完了」画面にて「異なるユーザーとして実行」にチェックを入れ、「ユーザー名」と「パスワード」/「確認」に適切なユーザー情報を入力してください。

異なるユーザーとして実行

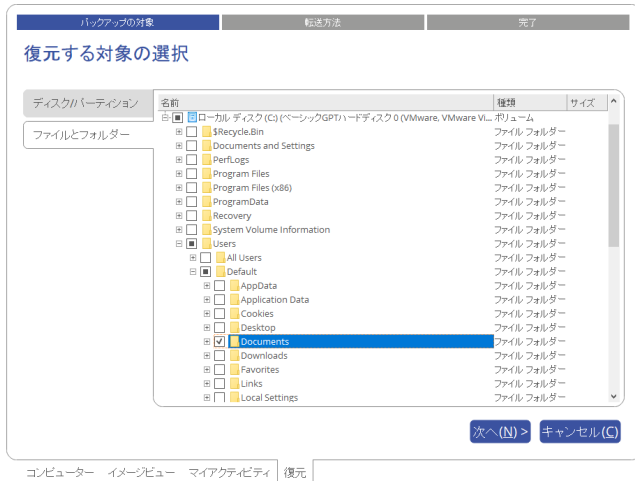
ユーザー名とパスワードを指定してください:

ユーザー名:
パスワード:

また、ネットワークドライブの割り当てをしたドライブ (Z:¥など) をバックアップ先に指定している場合、ログオフ状態ではアクセスできないため、バックアップに失敗します。この場合、ネットワークドライブの保存先として、UNC ("¥¥コンピューター名¥共有名"など) で指定してください。

Q 26. ディスクやパーティションのバックアップイメージからファイルの復元はできますか？

A 26. 可能です。復元ウィザードでディスクやパーティションを選ばず、中に含まれるファイルを指定する方法があります。



Q 27. BitLocker で暗号化したドライブをバックアップして、復元したら BitLocker が解除されていました。

A 27. BitLocker で暗号化したドライブのバックアップを復元すると、BitLocker が解除された状態で復元します。復元後に再度、BitLocker を有効にしてください。なお、バックアップの際にはセキュリティを向上させるためにパスワードを設定してください。

Q 28. マルチブート環境で各 OS にインストールして使用する場合、ライセンスはインストールする数だけ必要でしょうか？

A 28. 1 つの物理マシンに 1 ライセンスが必要になっています。なお、マルチブート環境には対応しておりません。

Q 29. 作成したリカバリーメディアを複数の PC で使用できますか？

A 29. 使用できません。キッティングなどの目的で複数の PC で使用する場合、別途ライセンスが必要になります。詳しくは、sales@paragon-software.jp にお問い合わせください。

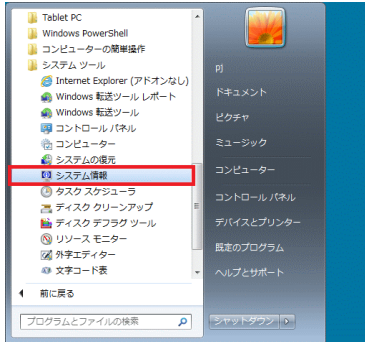
Q 30. ダウンロード版を購入したのですが、インストールや起動に失敗します。

A 30. ダウンロードしたファイルが破損している可能性があります。ご使用のブラウザのキャッシュを削除した後、再度ダウンロードを行いマスターディスクの作成をしてください。

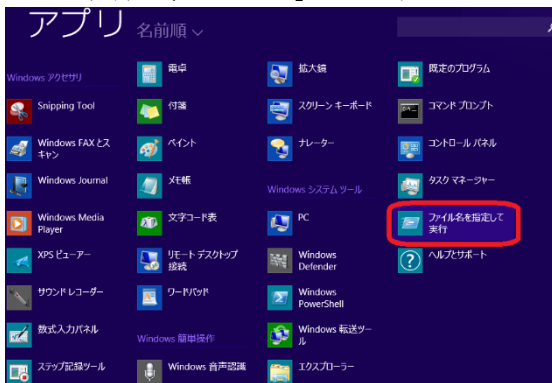
Q 31. サポートセンターからシステム情報の提供を依頼されました。取得方法を教えてください。

A 31. システム情報の取得方法は以下の手順で行ってください。

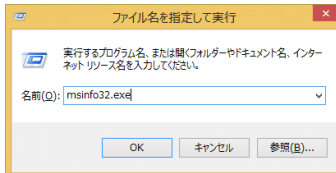
「スタート」から「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「システム情報」でシステム情報を表示します。



8.1 の場合は、「スタート」から「すべてのアプリ」→「ファイル名を指定して実行」を選択してください。



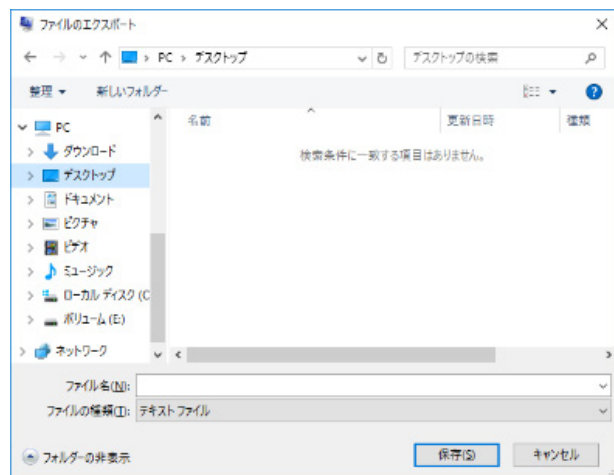
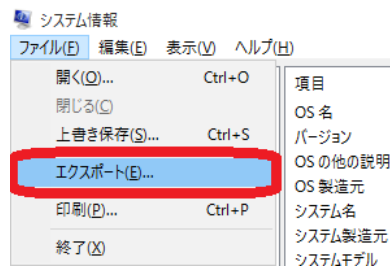
'msinfo32.exe' と入力して Enter キーを押します。



10 の場合は、スタートボタンから「すべてのアプリ」→「Windows 管理ツール」→「システムツール」→「システム情報」でシステム情報を表示します。



「システム情報」ウィンドウが表示されます。「ファイル」メニューから「エクスポート」でファイル名を指定した上で保存します。



保存したファイルをメールに添付してお送りください。

Paragon Hard Disk Manager 17
基本操作ガイド

2019年12月17日

第2版 第1刷発行

(非売品)

著作 パラゴン ソフトウェア株式会社
発行所 パラゴン ソフトウェア株式会社
 東京都千代田区神田神保町 2-13

©2019 Paragon Software Group
